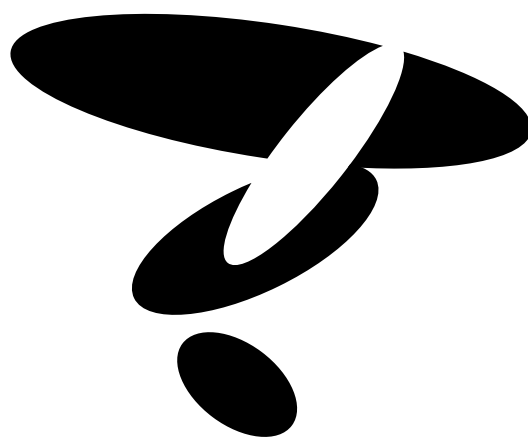


# 履 修 要 項

平成 27 年度



TEIKYO

帝京大学大学院公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻  
専門職学位課程（専門職大学院）／博士後期課程

## 帝京大学建学の精神

努力をすべての基とし偏見を排し  
幅広い知識を身につけ  
国際的視野に立って判断ができ  
実学を通して創造力および人間味豊かな  
専門性ある人材の養成を目的とする

## 帝京大学大学院公衆衛生学研究科の目的

患者や地域住民の健康回復・増進と、  
社会全体の健全な医療体制の持続的な発展と  
医療の質の継続的な向上に寄与するために、  
公衆衛生上の諸課題に対して指導的立場で  
且つ科学的判断に基づく問題解決型の対応ができる  
高度専門職業人を養成する

# 専 門 職 学 位 課 程

## 目 次

1. 教育目的	3
2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）	3
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	4
4. コンピテンシー	4
5. 課題研究について	7
6. 人材別の達成すべき能力	7
7. 履修の申込みと変更の届け出について	9
8. 授業科目の履修について	10
9. 成績評価に対する質問・異議申出	12
10. 主な年間スケジュール	13
11. 実習について	14
12. その他留意事項	15
13. 授業科目の概要	19
14. 成績評価	24
15. 海外提携大学との交流及び留学支援	24
16. アカデミックアドバイザー	25
17. 教員一覧	29
18. 授業科目一覧	32
19. 授業時間割	33
20. 授業計画（シラバス）	37
21. 履修届・単位認定申請書・履修科目変更届（見本）	92
22. 帝京大学組織図	175
23. 帝京大学大学院学則	176
24. 帝京大学学位規程	183
25. 大学院プログラムTA・RA規程	194

## 専 門 職 学 位 課 程

1. 教育目的
2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）
4. コンピテンシー
5. 課題研究について
6. 人材別の達成すべき能力
7. 履修の申込みと変更の届け出について
8. 授業科目の履修について
9. 成績評価に対する質問・異議申出
10. 主な年間スケジュール
11. 実習について
12. その他留意事項

## 1. 教育目的

公衆衛生学研究科は、建学の精神に則り、患者や地域住民の健康回復・増進と、社会全体の健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するという基本理念を実現するために、様々な公衆衛生上の諸課題に対して指導的立場で且つ科学的判断に基づく問題解決型の対処ができる高度専門職業人と、その活動を統括指導できる公衆衛生の高度な実践能力とリーダーシップを併せ持つ上級管理者・上級指導者としての人材の養成を目的とする。

- 公衆衛生学専攻（専門職学位課程）は、公衆衛生学研究科の目的に則り、公衆衛生の専門知識・技能と公衆衛生マインドを身につけ、公衆衛生の現場で発生する諸課題に対して問題解決を実践する高度専門職業人の養成を目的とする。

## 2. カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

学位授与に要求される知識・能力を修得するために、公衆衛生学専攻(専門職学位課程)では、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 国際標準として公衆衛生専門職に求められる一定レベルの知識・技能を習得するため、米国の公衆衛生教育協会の認定基準に準拠し、「疫学」、「生物統計学」、「社会行動科学」、「保健行政・医療管理学」、「産業環境保健学」の5つの領域(科目群)を設け、養成する人材像にかかわらず、各領域の基礎科目を必修科目としている。
2. 社会や環境との関わりで人間を捉えるという疫学的な思考と公衆衛生マインドを涵養するため、養成する人材像にかかわらず、「疫学」と「生物統計学」を、講義・演習共に必修科目として設定している。
3. 現場の問題に発し現場の実践に資する能力を身につけるため、理論先行の公衆衛生教育から一歩踏み出し、ケースメソッド演習やグループ討論、現場実習による実践教育に重点を置き、各養成人材に適合する演習科目や実習科目を配置している。
4. 公衆衛生上の広範かつ多様な課題に対応できる専門能力を育成するため、地域保健や国際保健、緩和医療に関連する科目も設けている。
5. 海外の最新事情や最先端の知識に触れグローバルな視点を身につけるため、5つの領域ごとの世界的権威であるハーバード大学教授陣等による「特別講義(冬季集中)」を設けている。

### 3. ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

公衆衛生学専攻(専門職学位課程)では、国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して専門領域ごとに指導的立場で問題解決型の対処ができる高度専門職業人の養成を目指している。従って、高度専門職業人養成という観点から以下のような能力を身につけ、かつ2年コースの場合は2年以上、1年コースの場合は1年以上在学し、課題研究報告書の審査に合格し所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 環境・社会との関わりから健康事象を理解し、対処できる専門的知識・技術・態度を習得する。特に今日の医学・医療を取り巻く状況の変化を理解し、実際の現場で対処できる専門的な技術と指導力を有している。
2. 集団を対象とした健康事象の把握手法、および因果関係推定の技法であり、根拠に基づく医療(EBM: Evidence Based Medicine)に必須である疫学を修得することにより、科学的医療を実践できる専門的な技術と指導力を有している。
3. 予防、診断・治療、社会復帰に係わる社会的取組み、諸システムを包括的に理解し、それを医学・医療の実践に適用できる専門的な技術と指導力を有している。
4. 公衆衛生学の見地に立って、身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた者の立場を理解した総合的医学や全人的医療・地域医療が実践できる専門的な技術と指導力を有している。

また、高度専門職業人養成という観点から求められる主な養成人材別の達成すべき能力要件は以下の様になります。

### 4. コンピテンシー

研究者ではなく実務を行う専門職養成のための大学院として、専門職たるにふさわしい能力・資質を明示することは、学習を行う上でもその教育を行う上でも有用と考えられる。いま欧米で広がっているアウトカム基盤型教育と修得すべきコンピテンシー設定は世界的流れになっている。本学の建学の精神にある国際的視野を持つためには国際的基準に則った教育は必須である。公衆衛生専門職に求められるコンピテンシーについて、米国公衆衛生大学院協会（ASPPH）は2006年に7つの項目を提示している。本研究科ではこれらの背景も含め検討した結果、以下の8項目の資質・能力を専門職学位課程（MPH）のコアコンピテンシーとして定めた。

## I. コミュニケーションと情報科学

データを収集、取捨選択・統合して意味のある情報とし、目的に応じて戦略的に情報提供や知識共有を進める能力

1. 他者と意思疎通し、他者から学び、他者に働きかける積極的な姿勢を持つ。
2. コミュニケーションに必用十分な文書作成と説明・会話ができる。
3. データの収集、処理、伝達のために使える手段と設備、制度を説明できる。
4. 社会、組織、個人の要因やそのヘルスリテラシーに応じたコミュニケーションができる。

## II. 多様性と文化

世界及び国内、地方・地域のさまざまな個人や社会(組織)と協力して活動する能力

1. 異なる文化的価値観や社会的伝統に応じた保健計画や戦略を策定できる。
2. 公衆衛生に関係するさまざまな職種の役割を説明できる。
3. 人々が自ら参加する公衆衛生活動の成立条件を説明できる。
4. 健康格差を生み出している多様で構造的な不平等の要因を説明できる。

## III. リーダーシップ

組織や社会の抱える問題の解決のために未来を見据えた目標を作り、伝え、共有させるとともに、それに向かって献身的に取り組む能力

1. 組織の使命と役割および将来目標について明確に説明できる。
2. 人々が合意形成し、協力して問題解決できるよう動機づけできる。
3. チーム作り、交渉および紛争解決ができる。
4. 全ての行動で透明性を維持し、誠実かつ勤勉に活動できる。

## IV. 医学・生物学的基礎

公衆衛生の基礎に医学・生物学があることを理解しそれに基づき判断する能力

1. 生物学的、化学的、物理的な要因と健康の関わりを説明できる。
2. 疾病の予防と管理のために、生物学の原則を適用することができる。

## V. 専門家としての職業意識

身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた者の立場を十分に理解・共感し、公衆衛生上の倫理規範に基づいて実践する能力

1. 清廉潔白さ、熱意、誠実、すべての人を尊重するという意識を常に持つことができる。
2. 公衆衛生の倫理要項や人権規約、社会正義を公衆衛生の実践に適用できる。
3. 常に専門職としての知識と技術の維持向上に努め社会の変化に対応できる。

## VI. 計画策定

個人や社会の健康向上を図るための戦略を描き、発展させ、実施し、評価するための計画(保健計画)を策定する能力

1. 保健計画における目的、測定可能な目標、関連の活動、期待される成果を説明できる。
2. 個人、組織、社会の様々な要求に優先順位をつけ、それに基づいて資源配分を行える。
3. 保健計画について「構造」、「過程」、「結果」のそれぞれ評価の相違を説明できる。
4. 定性的・定量的評価各々の信頼性と妥当性、強み、限界、適切な応用法を説明できる。

## VII. システム思考

公衆衛生的事象は、人間と社会制度との動的相互作用から生まれることを理解し、システムが個人・グループ・組織・社会・環境間の関係に及ぼす影響を認識する能力

1. システムアプローチを公衆衛生的問題に応用する際の長所・短所を評価できる。
2. 公衆衛生システムの変更で生じる意図しない結果を同定、説明できる。
3. 政治的・社会経済的政策の変化に伴う地方・国家・国際レベルでの影響を分析できる。
4. 公衆衛生関連の問題やシステムの世界的潮流、相互依存の影響を分析、説明できる。

## VIII. 国際通用性

公衆衛生分野の世界の最新の情報を収集・理解し、国際通用言語でコミュニケーションでき、国内外の実践活動についてグローバルな視点で述べる能力

1. 世界の最新の公衆衛生学上の成果や動向を収集、理解できる。
2. 英文で報告書などを作成することができ、国際学会等で発表・討論することができる。
3. 自分の関わる公衆衛生学上の課題についてグローバルな視点で述べることができる。



## 5. 課題研究について

公衆衛生の体系的知識と技能を問題解決の実践に活かす能力を会得するため、問題解決型の課題研究報告書を作成する。その際にはフィールドにおける主体的な活動も重視する。

こうした公衆衛生活動の実践能力や公衆衛生の実務家としての資質をより具体化し、8つのコンピテンシーとして明示化し、教育課程においてその各項の習得を目指す。

問題解決型アプローチは、帝京大学公衆衛生学研究科で目指す問題解決能力を備えた実務を担う高度専門職養成に必要な素養である。課題研究、特殊研究の報告形式に限らず、授業などを通じてこのアプローチで問題を考える力を育むことを目指している。問題解決型アプローチは公衆衛生上の問題を発見し、その問題の具体的な原因と結果を考えることから始まる。そして原因と結果の定式化をもとに定量的に問題を解析して問題の程度を把握する。同時に、既存の文献等の情報から当該公衆衛生課題に対する既存の知見を分析する。その中で、自らが取り組む公衆衛生の問題がいかんにして検証されているか否かを把握しておく。さらに問題を取りまく社会的要因や利害関係者（ステークホルダー）を列挙して、問題解決に際して配慮すべき関係者の整理を行う。このような分析を中心としたプロセスの後、問題解決の実践のために解決策の計画を立案する。複数立案された施策についてはその優先順位をつけて実行する。その後、行った施策の評価を行い、次のプロセスにつなげる。こうした一連の実践的プロセスが問題解決型アプローチで、5つのステップ、(1)課題形成、(2)問題の分析、(3)解決策立案、(4)解決策実施、(5)評価、に整理している。

## 6. 人材別の達成すべき能力

高度専門職業人養成という観点から求められる主な養成人材別の達成すべき能力要件は以下のとおりである。

### 【総括産業医・労働衛生コンサルタントなどの指導的産業医・産業保健師】

単に医療機関から産業現場に場を移した医療活動というのではなく、環境要因が強くかかわり、医療機関とは異なった法律制度や会社組織の論理も深く理解し、組織全体の健康意識を上げる（ヘルシーカンパニーを作る）活動ができる能力を身に付ける。その中には産業保健の高度な専門家である労働衛生コンサルタントの資格を取得する（試験に合格する）だけでなく、産業現場で発生する新たな問題を自ら調査・研究し、その解決ができる能力も含まれる。

**【コメディカル部門の管理者】**

医療専門分野の視点に加えて、医療・保健の分野を全体的に俯瞰しながら管理できる知識・技能を習得する。

**【臨床試験責任統括医師】**

臨床試験研究を実施する上で、それに必要な疫学・生物統計学の知識・技能を修得し、実務家として実施可能なレベルでの臨床試験計画書を作成し評価する能力を習得する。

**【臨床試験看護師】**

臨床試験研究を実施する上で、それに必要な疫学・生物統計学の知識・技能を習得し、試験統括医師が行う臨床試験計画書作成を支援すると同時に、円滑な試験実施のための同意説明や倫理規定を理解し管理業務の推進を図れるコーディネイト能力を習得する。

**【生物統計専門家】**

生物統計学の実践的知識・技術は勿論のこと、国内の規制や管理体制の知識を習得していることに加えて多国間での治験や臨床試験に対応できるレベルに到達する。

**【国際保健の専門家】**

国際保健の現状や保健医療制度を理解することに加えて、途上国等の国際保健の現場において、全体的な視野で問題を調査・分析し意思決定するために不可欠となる科学的判断力、マネジメント能力とコミュニケーション技能を習得する。さらに国際保健の実務家として根本を成す多様な価値観、職業倫理や公共哲学の考え方を身に付ける。

**【専門知識・能力を持った行政職員】**

公正と効率が重視される国内外の行政機関において、自ら情報を収集・解析し、科学的な検討に基づく施策を立案するとともに、その施策を利害関係者と調整する中で実現につなげる能力を身に着ける。

**【非政府組織・非営利団体等職員】**

公衆衛生の問題に取り組むため、情報を収集・吟味し、科学的根拠を挙げて問題解決に取り組み、現場に適用可能なプロジェクトを計画準備・実行・評価する技能を身に着ける。また、住民から国家レベルにいたるまでの各利害関係者とのコミュニケーション能力を養う。

## 7. 履修の申込みと変更の届け出等について

### (1) 履修の申込み

大学院生は毎年、年度始めにアカデミックアドバイザー（AA）のアドバイスを受けて、その年度内に履修を希望する科目を選び、所定の用紙（履修届）で受講を申し込むことが必要である。

アカデミックアドバイザーに関しては、「16. アカデミックアドバイザー25 頁」を参照のこと。

### (2) 履修科目の変更

履修科目を変更する場合（年度始めに受講申請した科目の受講を取り止める場合、および、新たな科目の履修を希望する場合）には、アカデミックアドバイザーと相談して、所定の用紙（履修科目変更届）で届け出を行う必要がある。尚、年次途中に新たな科目の履修を希望する場合には、その科目の履修が可能かどうか、科目責任者に事前に問い合わせる（すでに定員を満たしている場合や、希望者がおらず講義が予定されていない場合等がありえる）。

### (3) 課題研究について

大学院生は指定される研究指導教員の指導のもと、課題研究報告書をまとめ、その成果を発表する（中間報告会、最終報告会）。その成果は、課題研究報告書(修士論文に該当)という形で執筆する。取り組むテーマやその具体的な内容については、指導教員とよく相談し、またその指導を受ける。テーマ決定後は、所定の期日までにその旨の届け出を行う必要がある。

### (4) 休学・コースの変更について

在学中に一身上の都合で、休学あるいはコース変更（1年コースから2年コースに変更）を希望する場合、アカデミックアドバイザーに相談の上、所定の用紙にて届け出を行う。

※ 上記（1）～（4）の届け出の提出先は事務部教務課（大学院担当）である。

### (5) 科目の聴講について

実習を除くすべての科目で単位履修を目的とせず聴講として講義を受けることができる。但し、科目責任者の許可を事前に求めること。

## 8. 授業科目の履修について

### 【2年コース】

#### (1) 履修の概略

医療系学部出身者（※1）	原則として、1年目に必修科目と専門科目（選択）を履修し、2年目は残りの専門科目（選択）の履修と課題研究に集中する。
非医療関係学部出身者	原則として、1年目に「医学基礎・臨床医学入門」を含む必修科目と専門科目（選択）を履修し、2年目は残りの専門科目（選択）の履修と課題研究に集中する。

（※1）医療系国家資格（医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、臨床工学技士、等）の各免許を取得するための所定の課程を修了した者、その他研究科委員会で認めた者。

#### (2) 修了要件

必修科目を含む32単位以上の取得が求められる。必修として、以下7科目（計16単位）に加えて、「課題研究」（6単位）が課せられる。尚、履修科目の登録の上限は、年間40単位までである。問題解決を行う上で、必要な能力・資質（専門職学位課程のコアコンピテンシー/4頁参照）を有し、その上で課題研究の最終報告書の審査に合格すれば修了要件が満たされる。

尚、2年コースの在学期間は4年を超えることはできない。（大学院学則第9条2項）

疫学概論（演習を含む）	4単位	必修
基礎生物統計学（演習を含む）	4単位	必修
健康行動科学概論	2単位	必修
保健医療政策概論 または、 医療管理学・安全管理学概論	2単位	必修（選択必修）
産業環境保健学概論	1単位	必修
公衆衛生倫理学	1単位	必修（共通）
医学基礎・臨床医学入門（※1）	2単位	必修（共通）
課題研究（※2）	6単位	必修（共通）

（※1）医療系学部の出身者については、「医学基礎・臨床医学入門」（2単位）の受講は必要ない。但し、履修届とともに単位認定申請書を提出し審査の上、単位認定を受ける必要がある。（別添93頁参照）

（※2）課題研究は2年次で履修登録を行う。

## 【1年コース】

### (1) 履修の概略

医療系学部出身者（※1）	前期に必修科目と専門科目（選択）を履修し、後期は残りの専門科目（選択）と課題研究に集中する。実習科目については、夏季休業期間等を活用して集中的に履修する。
非医療関係学部出身者	前期に「医学基礎・臨床医学入門」を含む必修科目と専門科目（選択）を履修し、後期は残りの専門科目（選択）と課題研究に集中する。実習科目については、夏季休業期間を活用して集中的に履修する。

（※1）医療系国家資格（医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、臨床工学技士等）の各免許を取得するための所定の課程を修了した者、その他研究科委員会で認められた者。

### (2) 修了要件

必修科目を含む32単位以上の取得が求められる。必修として、以下7科目（計16単位）に加えて、「課題研究」（6単位）が課せられる。尚、履修科目の登録の上限は、年間40単位までである。問題解決を行う上で、必要な能力・資質（専門職学位課程のコアコンピテンシー/4頁参照）を有し、その上で課題研究の最終報告書の審査に合格すれば修了要件が満たされる。

尚、1年コースの在学期間は2年を超えることはできない。

疫学概論（演習を含む）	4単位	必修
基礎生物統計学（演習を含む）	4単位	必修
健康行動科学概論	2単位	必修
保健医療政策概論 または、 医療管理学・安全管理学概論	2単位	必修（選択必修）
産業環境保健学概論	1単位	必修
公衆衛生倫理学	1単位	必修（共通）
医学基礎・臨床医学入門（※1）	2単位	必修（共通）
課題研究	6単位	必修（共通）

（※1）医療系学部の出身者については、「医学基礎・臨床医学入門」（2単位）の受講は必要ない。但し、履修届とともに単位認定申請書を提出し審査の上単位認定を受ける必要がある。（別添93頁参照）

## 9. 成績評価に対する質問・異議申出

1. 成績評価に対して質問がある場合は当該科目の担当教員（科目責任者）に質問をする。
2. 成績評価に対して異議がある場合は内容および理由をできる限り詳細に記入し（様式任意）事務部教務課大学院担当まで提出する。
3. 成績評価に対しての質問・異議申出は成績発表後の2週間以内まで受付ける。期間外またはやむを得ない事由で成績通知書を受領しなかった場合も、期間の延長は認めない。

## 10. 主な年間スケジュール

入学式	4月4日（金）午前
健康診断	4月1日（水）－9日（木）
新年度オリエンテーション （履修手続、コンピテンシー基盤型教育の概要、等）	4月6日（月）
前期授業の期間（a学期、b学期）	4月7日（火）－8月3日（木）
課題研究報告書作成合同ガイダンス	4月16日（木）
履修届けの提出期限	4月21日（火）（※1）
創立記念日	6月29日（月）
課題研究 テーマ提出期限（※2）	7月6日（月）－10日（金）（予定）
課題研究 研究計画・中間報告会	7月30日（木）（予定）
夏季休業期間（※3）	8月4日（火）－9月13日（日）
後期授業の期間（c学期、d学期）	9月14日（月）－2月17日（水）
課題研究 中間報告会（※2）	10月8日（木）（予定）
課題研究 最終報告会（※2）	12月17日（木）（予定）
学位記授与式	3月下旬（予定）

（※1）履修変更届けは、各学期内で実施される授業科目ごとに以下ようになる。

- ◇ 前期前半（a学期）：履修届け提出により確定 / 締切日：4月21日（火）
- ◇ 前期後半（b学期）：学期開始日から2週間以内
- ◇ 後期前半（c学期）：学期開始日から2週間以内
- ◇ 後期後半（d学期）：学期開始日から2週間以内
- ◇ 夏季（s学期）：実習科目は原則変更が認められません
- ◇ 冬季（w学期）：実習科目は原則変更が認められません。

特別講義は開始一ヶ月前まで変更可能。

注）夏季（実習科目）と冬季（実習科目と特別講義）に関しては、履修届け提出前にアカデミックアドバイザーと十分に相談した上で決定する。

- (※2) 1年コース学生および2年コース2年生が対象となります。尚、課題研究の授業日程（指導日程）は、指導教員と相談して個別に設定する。
- (※3) 実習科目の多くは夏季休業期間中（s学期）に開講される。履修希望者は実習の授業日程についてアカデミックアドバイザーおよび科目担当責任者と事前に設定する。

## 1.1. 実習について

実習においては指導教員または実習先の担当者の指導のもと、十分留意の上で行う。

### (1) 万が一、事故等が生じた場合

- ・通学中や、実習先への移動中に転倒してケガをした場合等
- ・炎天下での実習中に熱中症となり入院した場合等

①次のいずれかまで連絡する。

- ・帝京大学 公衆衛生学研究科 受付 TEL 03-3964-2108
- ・帝京大学板橋キャンパス 事務部教務課大学院担当 TEL 03-3964-3294（直通）

②事故の報告書の提出（様式任意）が必要である。

### (2) 入学時に加入している保険について

- ・「学研災」・・・学生教育研究災害傷害保険
- ・「学研賠」・・・学研災付帯賠償責任保険
- ・「こども保険」・・・こども総合保険（感染予防等）

### (3) 海外への実習の場合

治療費等は立替払いである。保険請求の際は必ず領収書・診断書等を提出する。英文の場合は日本語訳が必要となる。あくまでの実習中の事故等が対象である。

通常の海外旅行保険への申し込みを勧める。

取扱代理店：株式会社 帝京サービス 保険部

帝京大学 大学棟 3号館 2階 Tel 03-5943-1988



## 12. その他留意事項

### (1) 交通機関の不通と警報による休講

交通機関が事故等で不通になった場合、または台風、大雪等でキャンパスの在る地域に、暴風警報(大雨、洪水警報のみは除く)、大雪警報が発令された場合は、以下の通り休講とする。授業、実習が開始されてから発令された場合は、大学、実習先の指示に従う。

#### 1. 埼京線、山手線、京浜東北線のすべてが不通となった場合

暴風警報または大雪警報が、**東京 23 区**に発令された場合

運転再開の時刻、警報の解除時刻	授業、実習の取扱い
午前 6 時 00 分まで	平常どおり
午前 6 時 00 分から午前 10 時 00 分まで	3 時限目より授業を行う
午前 10 時 00 分以降	1 日休講

#### 2. 上記以外の交通機関の不通、警報が発令されている地域があっても、休講とはしない。登校不可能な状態の場合は必ず大学あるいは実習先に連絡し、指示を受ける。

### (2) 学費納入について

1. 所定の学費は、前期・後期の二期に分け、前期は 5 月末日まで、後期は 10 月末日まで、それぞれ定められた期限内に納入する。詳細は、大学から送付される振込用紙と案内を参照する。
2. 期限内に納入することが困難な場合は、納入期限までに所定の学納金延納願を事務部教務課大学院担当に提出し、許可を得る。
3. 留年した場合、及び復学した場合の学納金については、新たに定められた金額を納入する。
4. 在学中に授業料、その他納付金に変更があった場合には、新たに定められた金額を納入する。
5. 休学中及び停学中であっても学費は全額納入しなければならない。
6. 既納の学費は如何なる理由があっても返還しない。



## 専 門 職 学 位 課 程

- 1 3. 授業科目の概要
- 1 4. 成績評価
- 1 5. 海外提携大学との交流及び留学支援
- 1 6. アカデミックアドバイザー



### 1.3. 授業科目の概要

#### ① 疫学

近年の医療において常にその重要性が指摘される EBM: Evidence Based Medicine (根拠に基づく医療) は、臨床疫学から派生したものであり、過去の疫学的研究等の成果を体系的に利用することで現在の医療行為を評価し、より適切な医療を指向するための技法である。すなわち、適切な医療を目指すためには EBM の技法を用いることが極めて有益であると同時に、一方で EBM を賢明に使いこなすためには土台である臨床疫学の深く幅広い理解が不可欠であると言える。また、医療に関連した知見が証拠 (エビデンス) となるためには、発生した結果として示されることが必要であり、またそれが偶然の結果ではないことを示すためには、集団における結果として示されることが必須である。加えて倫理面での考慮が必要な人間集団での結果の解析による証拠の提示においては、データの収集や解釈における専門家としての高度な技能および正当な注意が求められる。このことは実に疫学の方法論そのものを理論的かつ実践的に学ぶことの重要性を示しており、疫学の専門家のみでなく、公衆衛生に関わるすべての専門領域において基本的な対象認識と問題解決の基礎理論として重要な科目である。

そこで、本科目区分には、「疫学概論」、「臨床疫学概論」といった理論講義と共に演習を含む実践的な授業科目を設けている。さらに、「質的研究」、「スタディクリティーク」といったより実践的な技法を学ぶ授業科目を設けている。また、海外からの招聘教授による「特別講義 (疫学)」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。

#### ② 生物統計学

厚生労働省が発表した平成 15 年度重点新規施策「治験活性化プロジェクト」においても指摘があるように、わが国において生物統計学の専門家は圧倒的に不足している。また、臨床試験の実効性を担保するための臨床試験統括医師や臨床試験看護師についても国際的なレベルからは十分な人材が確保できていない。臨床試験の実効性を担保するためには、専門的な統計手法を駆使し試験計画を立案し試験結果を科学的に解析・評価できる人材、ならびに新薬の承認に関する規制や手続においてガイドラインを遵守しながら臨床試験を統括できる人材、さらには計画書作成や実施運用の面から積極的に支援できる人材の養成が必要となる。

そこで、本科目区分には、「基礎生物統計学」、「応用生物統計学」、「臨床試験概論」といった理論講義 (「基礎生物統計学」には演習を含む) の他に、「データ解析演習」、「臨床試験演習」といった演習形式による実践的な授業科目を設けている。また、海外からの招聘教授による「特別講義 (生物統計学)」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。

### ③ 社会行動科学

近年、医療現場における患者を中心とするコミュニケーションの問題に起因する公衆衛生上の課題は増加の一途を辿っている。これに対処するためには、医師が診察で患者との関係を築く上でのコミュニケーション能力や、行動科学理論に基づく科学的な判断・指導のための専門的かつ実践的な技術が必要となる。同時に、ヘルスプロモーション（＝健康増進：人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセス）といった、個人の生活行動のみでなく環境整備の双方で相乗効果をもたらすアプローチ手法についての体系的な理解も求められる。

そこで、本科目区分には、「健康行動科学概論」、「健康教育学」、「医療コミュニケーション学／健康行動科学演習」、「社会疫学」といった理論講義および演習の他に、「終末期医療実習」といった実習形式による実践的な授業科目を設けている。また、海外からの招聘教授による「特別講義（行動科学）」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。

### ④ 保健行政・医療管理学

近年の自然環境や社会環境の急激な変化に伴って、新型インフルエンザなど新たに顕在化している公衆衛生上の課題は増加かつ複雑化の傾向にあり、保健政策を科学的に判断・立案・実行できる保健行政の専門家や第一線の実務者の必要性が益々高まっている。具体的には、健康危機管理などの緊急時において疫学上の迅速判断・対応ができる、また予防対策においては的確なエビデンスを選択・吟味し適切な健康情報や予防医療の考え方を提示できる高度専門職業人が求められている。すなわち、保健医療政策・公衆衛生活動・予防医学実践への適用にあたっては、EBMの基本的手続きに沿って合理的で高い効果を上げるための専門的な知識と技術が必要となる。同時に、近年のグローバルな社会構造や疾病構造の急激な変化に伴って発生している新たな公衆衛生上の課題に対しては、早急な専門的対応が国際社会から強く求められている。しかしながら国際医療協力において、政策デザイン、行動計画立案、ならびにその遂行まで指導的立場で効果的に推進できる専門家が慢性的に不足している。

さらに、わが国では超高齢社会の進展に伴って医療費が増加の一途をたどる中、医療の質を一定に保ちながら効率化を図るというトレードオフの課題に直面している。このような困難な状況下で個々の患者の方針を検討する時には医療制度の深い知識や医療経済学の方法論が必要となる。

そこで、本科目区分には、「保健医療政策概論」、「医療経済学」、「国際保健概論」、「医療保障政策論」、「リーダーシップ・マネジメント論」といった理論講義の他に、「国際保健学演習」、「国際保健実習」（海外現地での訪問見学先：国際医療機関、NGO、行政機関、医療機関等）といった演習・実習形式による実践的な授業科目を設けている。また、海外から

の招聘教授による「特別講義（保健医療政策学）」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。

一方で、医療システムのあり方とその管理をめぐる問題に対して、地域を含めた医療体制、医療経営、医療安全、医療の情報化といった視点からの変革とリスクマネジメントの重要性も求められている。例えば、医療構造が複雑化する今日においては、各医療機関で病院評価の基準をクリアーするためには医療体制の再構築と科学的経営手法が必要となりそこでは病院経営のプロフェッショナルが求められる。また、医療の質を向上させるためには、経営効率化や地域保健を含めた業務連携の標準化、臨床データの有効活用、医療安全の確保等が求められるが、これを実現するための情報基盤を構築・管理できる専門的な人材が必要となるし、また医療スタッフ間の意思疎通の問題解決にあたっては、相手の階層や専門領域などの障壁を超えて有効なコミュニケーションを実現するための専門的な方法論を身に付けておく必要がある。

そこで、本科目区分には、「医療管理学・安全管理学概論」、「地域保健学」、「医療情報学概論（平成27年度は休講）」といった理論講義（「地域保健学」には演習を含む）の他に、「医療経営学演習」、「医療管理学実習」（実習先：本学附属病院）、「地域保健学実習」、「医療情報学演習」といった演習・実習形式による実践的な授業科目を設けている。

## ⑤ 産業環境保健学

産業保健については国全体の疾病構造が大きく転換するとともに中高年労働者が増加してきた結果、職域においては感染症に変わって循環器疾患やがんがより大きな問題になってきた。現代における化学プラントや建築現場などの職域で発生する健康障害に対しては、業務起因性の判断といった疫学的検討が求められる。また技術革新、産業構造の変化にもなう作業態様の多様化、心理的ストレスの増大などが無視できない状況となってきた。自殺の原因となる、うつ病では多くの患者が疲れ、不眠以外に、吐き気、動悸といった身体症状を訴え、重症になるケースも多い。逆に体の病気でも心の問題、ストレスで症状を悪化させたり発症を誘発したりする。治療、予防のためには患者の心身両面から状態を把握する必要がある。そのためには、職場のメンタルヘルスについて科学的根拠に基づく有効な予防法が不可欠である。同時に、産業保健の専門家として関連法規や制度、ならびに衛生管理組織といった実務運営のための専門知識と管理能力も必要とされる。

このような状況に対して、現場で中心となって活動するのは産業医であるが、独立的に実務に対応できるだけの系統的養成が不十分であるのが現状である。作業環境測定士、衛生管理者等の養成に関しても同様のことが言えよう。

一方、環境保健学は、「人間の健康に環境が及ぼす影響」についての学問であり、大気汚染などの環境有害物質から騒音や気温など物理的環境を対象とするが、今日では温暖化現象など地球規模の環境問題とその対策についても取り扱うようになっている。そのため、

有害物質による生体影響の同定や環境防御対策について特定の地域集団だけでなく国際的な枠組みで環境保健対策を計画・実行できる人材が求められている。

そこで、本科目区分には、「産業環境保健学概論」、「環境保健学」、「産業中毒学」、「産業保健学」といった理論科目においても、アジア地域での共同研究の事例紹介や科学・物理系関係講座の環境衛生専門家と協同で、環境測定のリデザインと測定の実施、環境影響評価と改善計画の立案といった実践目的に沿った内容も含まれている。加えて「産業環境保健学実習」（現場での実習）といった実習形式による実践的な授業科目を設けている。また、産業医出身の学生で希望者に対しては、関連する国家資格（特に、労働衛生コンサルタント）を受験するための養成教育を設けるとともに、作業環境測定士、衛生管理者等に対しても能力と経験に応じて労働衛生コンサルタントへの基礎教育を実施する。

さらに、海外からの招聘教授による「特別講義（産業環境保健学）」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。

## ⑥ 共通科目

### i 課題研究

国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して、各々の専門領域で指導的立場として問題解決型の対処ができる、すなわち現場での実践に資する高度専門職業人養成の集大成として課題研究を行う。

到達目標は、講義・演習科目を通じて学んだ知識の体系化を図ることにある。すなわち、各人材養成像に沿ったコースワークの後半期間を用いて、より専門的・実務的な研究課題として取り組み、学んだ知識を実践の場に還元できる能力を身に付けるものである。この高度専門職業人に資する実務適応能力を身に付けるため、プラクティカルな要素が有効であると考えため、課題研究の期間内に学習手段の一つとして短期間の現場実習、現場見学、専門家（指導教員）との協働、フィールドワーク、シミュレーションワーク等を含めるものとする。

したがって、課題研究を担当する研究指導教員により特定の研究課題について個別に研究の実践、指導がなされ、現地でのフィールドワーク、調査、情報収集、分析等を経て課題研究報告書を作成する。成績評価については、この報告書を審査して決定される。

課題研究の期間中に特定の調査や分析等の作業を行った場合には、調査結果や分析結果も含めて審査される。また、短期の実習等に参加した場合には実習報告書や実習先の評価も審査の対象となる。いずれの場合においても、課題研究達成までのプロセスも審査の対象となる。

なお、課題研究の指導方法、発表スケジュール、評価内容等については、学期中の適切な時期に院生向けに別途ガイダンスを実施する。



## ii 医学基礎・臨床医学入門

臨床医学の入門となる必須事項を適切に理解するための講義をする。医療系出身者以外の学生への配慮から、まず人体の構造と機能について理解するため、細胞レベルから臓器レベルに至るまでの解剖学、生化学、生理学など基礎医学全般を学ぶ。そうした基礎医学の学習の中で「病気」と「健康」を分ける根拠は何であるか、個人と集団それぞれの見地からアプローチする。臨床医学は、消化器、循環器、呼吸器、腎・泌尿器、神経・筋、内分泌・代謝、メンタルヘルス、免疫・アレルギー、感染症、血液、悪性新生物、中毒の各分野に分け、各種疾患を理解するための基本的事項を中心として、病気の成り立ちを理解するため重要な病態生理、病気の診断に必要な各種検査の原理や意義、最新の治療技術などについて学ぶ。

## iii 公衆衛生倫理学

公衆衛生の現場において意思決定を行う際に必要となる以下のような公衆衛生倫理の基本的な知識・考え方を学ぶ。公衆衛生領域の政策決定や臨床現場で必要となる倫理的判断の基礎について学ぶとともに、ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言といった生命倫理と医の倫理に関する規範の意味やその歴史的流れをふまえながら、患者の基本的権利について理解する。真実の告知、インフォームド・コンセント、パターナリズム、死の受容、安楽死、尊厳死などの具体的問題に対しても事例を通じた討論を行う。さらに医師法や医療法といった関連する医事法制を整理し、守秘義務、応召義務、医学的無益性、医療資源の配分、メタ倫理といった様々な倫理的問題についても学ぶ。

これらは、治験等の臨床試験や病院の管理等、広く保健医療の現場での判断基準として不可欠な要素であるため、5つの科目区分とは独立した共通科目として設定する。

## ⑦ 特別講義

本学の欧米提携校（米国ハーバード大学、英国オックスフォード大学、英国ケンブリッジ大学、英国ダラム大学）より各分野の世界的権威である教授陣5名を招聘し専門領域ごとに「特別講義」（毎年1月に集中講義形式で開催）を設定する。集中講義としている理由は、特定の期間にまとめて各専門領域の海外の最新事情や最先端の知識を効率的に学習できる利便性を重視したためである。また、毎年1月に設定している理由としては、公衆衛生学について一通りの知識を習得した後にさらなる見識を深めるといった学習プロセスを提供するためである。

この特別講義は全て英語で実施されるが、本学の教員らが講義のポイントの解説や課題演習等で学生の理解をサポートするための補講が設けられる。さらに、英語力に自信のない学生や専門領域のターミノロジーを理解していない学生を対象に、希望者があれば英語力養成を目的とした事前の課外講座を開設する。

## 14. 成績評価

成績評価については、試験・レポート等（筆記試験・口述試験・実技試験・レポート・発表内容）を中心として評価するが、科目によっては講義への参加（出席・討論への参加）等の学習状況等を加味して評価する。学外の実習に参加した場合については、実習先の外部評価も成績評価に反映させる。

なお、成績評価基準は、下記の通り ABCD 評価で判定する。

A 評価… 80 点～100 点

B 評価… 70 点～79 点

C 評価… 60 点～69 点

D 評価… 59 点以下

C 評価以上を合格とし、単位を認める。D 評価は不合格とし、未認定となる。

## 15. 海外提携大学との交流及び留学支援

### (1) ハーバード公衆衛生大学院の正規科目の一部受講免除

公衆衛生学専攻（専門職学位課程）では、ハーバード公衆衛生大学院（HSPH）への留学を希望する学生への支援策として、HSPH カリキュラムのコアコース免除の可能性を提供している。但し、その場合には、公衆衛生学専攻（専門職学位課程）の正式カリキュラムである「特別講義」の修了者となり、且つ、特別講義の講師である HSPH 教員にその旨を正式に願い出る手続きが必要となる。これは、HSPH の該当科目の一部に相当する単位を公衆衛生学専攻（専門職学位課程）で取得しているため、一部の講義の受講を免除してもらうことを願い出るというものである。

ちなみに、特別講義の単位認定は、特別講義の講師の評価を最重要視し、最終的に公衆衛生学専攻（専門職学位課程）の専門委員会にて最終決定する。

### (2) 成績優秀者に対する留学推薦

成績優秀者に対しては本人が留学を希望する場合、一定の選考基準に基づきハーバード大学公衆衛生大学院等に推薦し、そこでの勉強・研究・学位取得を援助するシステムを準備している。以下の要件をおおよその基準として、研究指導教員等との協議を経て研究科長による推薦を行う。

#### (ア) 語学力 (TOEFL 587 点以上)

TOEFL に関しては紙ベース 587 点、現在はコンピュータベースが主流なのでその換算だと 240 点となる。

(イ) GREスコア

- ・ Verbal と Quantitative の合計で最低1200
- ・ Analytical Writing で4以上

(ウ) 公衆衛生学専攻（専門職学位課程）での成績

#### 16. アカデミックアドバイザー（AA）

公衆衛生学専攻（専門職学位課程）では、学生の入学時の履修指導や学期中の勉学支援（授業の復習・補習等）、ならびに進路決定や就職活動等に必要となる情報提供・キャリア相談など多様な学生ニーズに対応するため、特定の教員がアカデミックアドバイザー（以下、AA）として、ひとりひとりの学生に対してマンツーマンで支援する。

具体的には、入学後の履修科目設定においては、入学時オリエンテーションとは別に、出身学部や希望進路に応じて、担当 AA による助言をもとに履修科目を決定できるよう個別に支援する。特に、2年コースと1年コースの学生では、入学時の知識・技能・経験と卒業後の進路先（個人のキャリアアッププラン）も異なることから、入学時（入口）と卒業時（出口）の架橋となる各人の履修科目とコースワークは、その違いを反映したものとなるよう指導する。

1年コースの学生に対しては、特に社会人学生に対する履修指導時には、修了要件や個人の目標に影響を与えない範囲で、職務への負担軽減を考慮しなるべく授業のない時間帯の確保に努める。2年コースの学生に対しても、実務経験がないことから演習や実習の機会を経験できる科目履修を指導したり、実習先とのマッチングについても実習科目の担当教員との間に入って事前に相談に応じる。



## 専門職学位課程

- 17. 教員一覧
- 18. 授業科目一覧
- 19. 授業時間割



17. 教員一覧

◆専任教員

氏名	役職	科目区分	授業科目
山岡 和枝	教授 (研究科長)	疫学	疫学概論
		生物統計学	基礎生物統計学
			応用生物統計学
			データ解析演習
矢野 榮二	教授	疫学	疫学概論
			臨床疫学概論
	産業環境保健学	産業環境保健学概論	
		環境保健学	
		産業保健学	
		産業中毒学	
		産業環境保健学実習	
福田 吉治	教授	疫学	疫学概論
			臨床疫学概論
		社会行動科学	社会疫学
松浦 正明	教授	生物統計学	基礎生物統計学
			応用生物統計学
			データ解析演習
			臨床試験演習
中尾 睦宏	教授	社会行動科学	健康行動科学概論
			健康教育学
			医療コミュニケーション学/健康行動科学演習
			終末期医療実習
		共通	医学基礎・臨床医学入門
	公衆衛生倫理学		
井口 直樹	教授(実)	保健行政・医療管理学	保健医療政策概論
			医療保障政策論
中田 善規	教授(実)	保健行政・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
			医療経済学
			医療経営学演習
			医療情報学概論
			医療情報学演習
			医療管理学実習
		リーダーシップ・マネジメント論	
共通	医学基礎・臨床医学入門		
山本 秀樹	教授(実)	保健行政・医療管理学	保健医療政策概論
			国際保健概論
			国際保健実習
		共通	医学基礎・臨床医学入門
原 邦夫	教授(実)	産業環境保健学	産業環境保健学概論
			環境保健学
			産業保健学
			産業環境保健学実習

氏名	役職	科目区分	授業科目
高橋 謙造	准教授(実)	疫学	質的研究
		保健行政・医療管理学	保健医療政策概論
			地域保健学
			地域保健学実習
			国際保健概論
			国際保健学演習
共通	医学基礎・臨床医学入門		
根本明日香	講師(実)	生物統計学	基礎生物統計学
			応用生物統計学
			データ解析演習
			臨床試験概論
			臨床試験演習
竹内 武昭	講師	社会行動科学	健康行動科学概論
			健康教育学
			医療コミュニケーション学/健康行動科学演習
		共通	医学基礎・臨床医学入門
			公衆衛生倫理学
井上まり子	講師	社会行動科学	社会疫学
		保健行政・医療管理学	国際保健概論
			国際保健学演習
		共通	公衆衛生倫理学
顧 艶紅	講師	共通	医学基礎・臨床医学入門
桑原 恵介	助教	疫学	疫学概論
			臨床疫学概論

※(実) 実務家教員

◆他学部(兼任)

氏名	役職	科目区分	授業科目
江口 研二	教授	生物統計学	臨床試験概論
内田 俊也	教授	生物統計学	臨床試験概論
		共通	医学基礎・臨床医学入門
坂本 哲也	教授	保健行政・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
松野 彰	教授	保健行政・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
渡邊真知子	教授	保健行政・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
宮川 宗之	教授	産業環境保健学	環境保健学
			産業中毒学
野村 恭子	准教授	疫学	疫学概論
			スタディクリティーク
松永 直久	講師	保健行政・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
山村 朋子	助手	保健行政・医療管理学	医療情報学演習
大獄 浩司	客員教授	保健行政・医療管理学	医療経営学演習
上野 京子	非常勤講師	保健行政・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
川崎 義隆	非常勤講師	保健行政・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
内田れい子	非常勤講師	保健行政・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
森 健	非常勤講師	保健行政・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論



◆非常勤教員

氏名	役職	科目区分	授業科目
Martin Burton	客員教授	疫学	特別講義(疫学)
Marcello Pagano	客員教授	生物統計学	特別講義(生物統計学)
Ichiro Kawachi	客員教授	社会行動科学	特別講義(行動科学)
Andrew Farmery	客員教授	保健行政・医療管理学	特別講義(保健医療政策学)
David Christiani	客員教授	産業環境保健学	特別講義(産業環境保健学)
丹後 俊郎	客員教授	生物統計学	基礎生物統計学 応用生物統計学
小木 和孝	客員教授	産業環境保健学	産業保健学
吉川 徹	客員准教授	産業環境保健学	産業環境保健学概論 産業保健学
高木 廣文	非常勤講師	疫学	質的研究
長谷川貴大	非常勤講師	生物統計学	臨床試験概論
川越 厚	非常勤講師	社会行動科学	終末期医療実習
石川ひろの	非常勤講師	社会行動科学 保健行政・医療管理学	医療コミュニケーション学/健康行動科学演習 リーダーシップ・マネジメント論
橋本 英樹	非常勤講師	保健行政・医療管理学	保健医療政策概論
田宮菜奈子	非常勤講師	保健行政・医療管理学	保健医療政策概論
成松 宏人	非常勤講師	保健行政・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
小林 廉毅	非常勤講師	保健行政・医療管理学	医療経済学
中澤 達	非常勤講師	保健行政・医療管理学	医療経営学演習
石崎 達郎	非常勤講師	保健行政・医療管理学	地域保健学
小林 潤	非常勤講師	保健行政・医療管理学	地域保健学
錦織 信幸	非常勤講師	保健行政・医療管理学	国際保健概論
渋谷 健司	非常勤講師	保健行政・医療管理学	国際保健概論
児玉 光也	非常勤講師	保健行政・医療管理学	国際保健学演習
杉澤 誠祐	非常勤講師	産業環境保健学	産業環境保健学概論 産業保健学 産業中毒学 産業環境保健学実習
神山 宣彦	非常勤講師	産業環境保健学	産業環境保健学概論 環境保健学
橋本 晴男	非常勤講師	産業環境保健学	産業環境保健学概論 環境保健学 産業保健学
東川 麻子	非常勤講師	産業環境保健学	産業環境保健学概論 産業保健学
熊谷 信二	非常勤講師	産業環境保健学	産業中毒学
村田 勝敬	非常勤講師	産業環境保健学	産業中毒学
瀧本 禎之	非常勤講師	共通	公衆衛生倫理学
大脇 和浩	非常勤講師	共通	課題研究
武藤 真祐	非常勤講師	共通	課題研究

## 18.授業科目一覧

科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態	授業時間割				科目責任者	備考
		必修	選必	選択		配当年次	学期	曜日	時限		
疫学	疫学概論	4			講義演習	1	a・b	木	3,4	矢野 榮二 教授	オムニバス
	臨床疫学概論			4	講義演習	1・2	c・d	木	3,4	矢野 榮二 教授	
	質的研究			1	講義	1・2	c	水	1,2	高橋 謙造 准教授	オムニバス
	スタディクリティーク			2	演習	1・2	a-d	木	5	野村 恭子 准教授	オムニバス
	特別講義(疫学) I～III			1	講義	1・2	w	1月		Martin Burton 客員教授	集中授業
生物統計学	基礎生物統計学	4			講義	1	a・b	水	1,2	山岡 和枝 教授	オムニバス
	応用生物統計学			2	講義	1・2	c・d	火	1	山岡 和枝 教授	オムニバス
	データ解析演習			2	演習	1・2	c・d	火	2	松浦 正明 教授	オムニバス
	臨床試験概論			2	講義	1・2	c・d	火	3	根本明日香 講師	オムニバス
	臨床試験演習			1	演習	1・2	d	火	4	根本明日香 講師	オムニバス
	特別講義(生物統計学) I～III			1	講義	1・2	w	1月		Marcello Pagano 客員教授	集中授業
社会行動科学	健康行動科学概論	2			講義	1	a・b	水	3	中尾 睦宏 教授	オムニバス
	健康教育学			1	講義	1・2	b	水	4	中尾 睦宏 教授	オムニバス
	医療コミュニケーション学/健康行動科学演習			1	講義演習	1・2	c	水	2	中尾 睦宏 教授	オムニバス
	終末期医療実習			1	実習	1・2	s	個別設定		中尾 睦宏 教授	オムニバス
	社会疫学			1	講義	1・2	d	水	3	福田 吉治 教授	オムニバス
	特別講義(行動科学) I～III			1	講義	1・2	w	1月		Ichiro Kawachi 客員教授	集中授業
保健行政・医療管理学	保健医療政策概論		2		講義	1	a	火	3,4	山本 秀樹 教授	選択必修 オムニバス
	医療管理学・安全管理学概論		2		講義	1	a	月	3,4	中田 善規 教授	選択必修 オムニバス
	医療経済学			2	講義	1・2	b	月	3,4	中田 善規 教授	オムニバス
	医療保障政策論			2	講義	1・2	c	火	4,5	井口 直樹 教授	
	医療経営学演習			2	演習	1・2	c	月	3,4	中田 善規 教授	
	医療情報学概論			2	講義	1・2	c	水	3,4	中田 善規 教授	
	医療情報学演習			1	演習	1・2	a	火	2	中田 善規 教授	オムニバス
	医療管理学実習			1	実習	1・2	s	個別設定		中田 善規 教授	集中授業
	リーダーシップ・マネジメント論			1	講義	1・2	c	水	2	中田 善規 教授	
	地域保健学			2	講義演習	1・2	b	火	1,2	高橋 謙造 准教授	オムニバス
	地域保健学実習			1	実習	1・2	s	個別設定		高橋 謙造 准教授	集中授業
	国際保健概論			2	講義	1・2	b	火	3,4	井上まり子 講師	オムニバス
	国際保健学演習			2	演習	1・2	c	火	3,4	高橋 謙造 准教授	オムニバス
	国際保健実習			1	実習	1・2	w	個別設定		山本 秀樹 教授	集中授業
特別講義(保健医療政策学) I～III			1	講義	1・2	w	1月		Andrew Farmery 客員教授	集中授業	
産業環境保健学	産業環境保健学概論	1			講義	1	a	木	5	原 邦夫 教授	オムニバス
	環境保健学			2	講義	1・2	c・d	木	5	原 邦夫 教授	オムニバス
	産業保健学			2	講義	1・2	c	木	1,2	原 邦夫 教授	オムニバス
	産業中毒学			2	講義	1・2	c	水	3,4	矢野 榮二 教授	オムニバス
	産業環境保健学実習			1	実習	1・2	s	個別設定		原 邦夫 教授	オムニバス 集中授業
	特別講義(産業環境保健学) I～III			1	講義	1・2	w	1月		David Christiani 客員教授	集中授業
共通	医学基礎・臨床医学入門	2			講義	1	a・b	月	1,2	竹内 武昭 講師	オムニバス
	公衆衛生倫理学	1			講義	1	a	水	4	中尾 睦宏 教授	オムニバス
	課題研究	6			演習	1・2	※3	個別設定		各指導教員	実習含む

19. 授業時間割

平成27年度公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻専門職学位課程時間割

曜日	時限	前期		後期			
		前半8週(a学期)	後半8週(b学期)	前半8週(c学期)	後半8週(d学期)		
		4/7(火)~6/12(金)	6/8(月)~8/4(火)	9/14(月)~11/17(火)	11/6(金)~2/19(金)		
月	1	9:00 10:30	医学基礎・臨床医学入門				
	2	10:45 12:15					
	3	13:15 14:45	医療管理学・ 安全管理学概論	医療経済学	医療経営学演習		
	4	15:00 16:30					
	5	16:45 18:15					
	6	18:30 19:45					
火	1	9:00 10:30		地域保健学	応用生物統計学		
	2	10:45 12:15	医療情報学演習		データ解析演習		
	3	13:15 14:45	保健医療政策概論	国際保健概論	臨床試験概論		
	4	15:00 16:30			医療保障政策論	臨床試験演習	
	5	16:45 18:15					
	6	18:30 19:45					
水	1	9:00 10:30	基礎生物統計学	基礎生物統計学	質的研究 <small>医療コミュニケーション学/健康行動学演習</small>		
	2	10:45 12:15				リーダーシップ・ マネジメント論	
	3	13:15 14:45	健康行動科学概論	健康行動科学概論	国際 保健学 演習	産業 中毒学	社会疫学
	4	15:00 16:30	公衆衛生倫理学	健康教育学			
	5	16:45 18:15					
	6	18:30 19:45					
木	1	9:00 10:30			産業保健学		
	2	10:45 12:15					
	3	13:15 14:45	疫学概論		臨床疫学概論	臨床疫学概論	
	4	15:00 16:30					
	5	16:45 18:15	産業環境保健学概論	スタディクリティーク(隔週)		環境保健学	
	6	18:30 19:45					
金	1	9:00 10:30	課題研究・補講		課題研究・補講		
	2	10:45 12:15					
	3	13:15 14:45					
	4	15:00 16:30					
	5	16:45 18:15					
	6	18:30 19:45					

※課題研究(必修)については、2年コースは2年目、1年コースは後期に集中して行う。

夏季(s学期)

夏季	8月	第1週	終末期医療実習	医療管理学実習
休業	9月	第2週	地域医療学実習	産業環境保健学実習
期間	9月	第2週	地域医療学実習	

冬季(w学期)

	12月下旬	国際保健実習
1月 集中 特講	S  (予定)	Special Sessions in Harvard Week
		特別講義(疫学Ⅰ～Ⅲ)
		特別講義(生物統計学Ⅰ～Ⅲ)
		特別講義(行動科学Ⅰ～Ⅲ)
		特別講義(医療行政管理学Ⅰ～Ⅲ)
		特別講義(産業・環境保健Ⅰ～Ⅲ)

※特別講義は年度により内容が異なることがあり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。

公衆衛生学専攻 専門職学位課程 時間割表

平成27年度

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木			
4月				入学式																													
5月																																	
6月																																	
7月																																	
8月																																	
9月																																	

公衆衛生学専攻 専門職学位課程 時間割表

平成27年度

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土		
10月	産業保健					応用生物	質的研究	産業保健					応用生物	質的研究	産業保健					応用生物	質的研究	産業保健					応用生物		産業保健				
	産業保健					データ解析	医療経営	産業保健					データ解析	医療経営	産業保健					データ解析	医療経営	産業保健					データ解析	医療経営	産業保健				
	臨床疫学					臨床概論	臨床疫学	臨床疫学					臨床概論	臨床疫学	臨床疫学					臨床概論	臨床疫学	臨床疫学					臨床概論	臨床疫学	臨床疫学				
	臨床疫学					医療政策	医療政策	臨床疫学					医療政策	医療政策	臨床疫学					医療政策	医療政策	臨床疫学					医療政策	医療政策	臨床疫学				
	環境保健					医療政策	医療政策	環境保健					医療政策	医療政策	環境保健					医療政策	医療政策	環境保健					医療政策	医療政策	環境保健				
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
曜日	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月			
11月										応用生物							応用生物																
										データ解析							データ解析																
										臨床疫学							臨床疫学																
										医療政策							医療政策																
										環境保健							環境保健																
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木		
12月	応用生物							応用生物								応用生物																	
	データ解析							データ解析								データ解析																	
	臨床概論	社会疫学	臨床疫学					臨床概論	社会疫学	臨床疫学						臨床概論	社会疫学	臨床疫学															
	臨床演習		臨床疫学					臨床演習		臨床疫学						臨床演習		臨床疫学															
			環境保健							環境保健							環境保健																
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
1月																																	
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29				
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月				
2月					応用生物				応用生物							応用生物																	
					データ解析				データ解析							データ解析																	
					臨床疫学	臨床概論			臨床疫学	臨床概論	社会疫学					臨床疫学	臨床概論	社会疫学															
					臨床疫学	臨床演習			臨床疫学	臨床演習						臨床疫学	臨床演習																
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木		
3月																																	



## 専門職学位課程

### 20. 授業計画（シラバス）

・ 疫学概論 … 39	・ 医療経営学演習 … 66
・ 臨床疫学概論 … 41	・ 医療情報学概論 … 67
・ 質的研究 … 43	・ 医療情報学演習 … 68
・ スタディクリティーク … 44	・ 医療管理学実習 … 69
・ 特別講義(疫学) … 45	・ リーダーシップ・マネジメント論 … 70
・ 基礎生物統計学 … 46	・ 地域保健学 … 71
・ 応用生物統計学 … 48	・ 地域保健学実習 … 72
・ データ解析演習 … 49	・ 国際保健概論 … 73
・ 臨床試験概論 … 51	・ 国際保健学演習 … 74
・ 臨床試験演習 … 52	・ 国際保健実習 … 75
・ 特別講義(生物統計学) … 53	・ 特別講義(保健医療政策学) … 76
・ 健康行動科学概論 … 54	・ 産業環境保健学概論 … 77
・ 健康教育学 … 56	・ 環境保健学 … 78
・ 医療コミュニケーション学/健康行動科学演習 … 57	・ 産業保健学 … 80
・ 終末期医療実習 … 58	・ 産業中毒学 … 81
・ 社会疫学 … 59	・ 産業環境保健学実習 … 82
・ 特別講義(行動科学) … 60	・ 特別講義(産業環境保健学) … 83
・ 保健医療政策概論 … 61	・ 医学基礎・臨床医学入門 … 84
・ 医療管理学・安全管理学概論 … 63	・ 公衆衛生倫理学 … 86
・ 医療経済学 … 64	・ 課題研究 … 87
・ 医療保障政策論 … 65	

---

#### 【補講セミナー】

・ 調査・研究法概論 … 91	
-----------------	--





科目名	疫学概論			code : EPI 201	必修	4 単位
-----	------	--	--	----------------	----	------

科目責任者	矢野 榮二 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期	曜日・時限	木曜 3、4時限	授業方法	講義・演習

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的な思考方法の基礎となり、合理的な意思決定に必須の疫学の考え方を修得する。</li> <li>各種疫学研究の技法を修得し、研究論文の批判的吟味と研究計画立案の方法を学ぶ。</li> </ul>
------	---

授業の概要	疫学研究方法論の基礎について学ぶ。疫学の定義、因果関係の立証法、疫学研究の倫理指針(同意・個人情報保護を含む)にはじまり、記述疫学研究と仮説検証研究(観察研究と介入研究)の違いといった研究の分類を学ぶ。観察研究では横断研究、縦断研究(コホート研究、症例対照研究)における疫学指標、各種バイアス、研究デザイン上の特徴について学ぶ。また、介入研究では無作為化比較試験を含む患者臨床試験についてその構造や疫学指標について、システマティックレビュー、メタアナリシスについてもその構造や問題となる各種バイアスについて学ぶ。なお各日、講義の後半は演習にあて、練習問題や質疑を通して理解を確実なものにする。
-------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者		授業内容
	1	4/9(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 助教	医学と疫学 今日の医学の主流である生物医学的考え方と対比しつつ疫学的考え方 の位置づけを学ぶ。
	2	4/16(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 助教	仮説と因果関係 科学的思考の基礎として仮説の一般構造を考え、それを証明する因果 関係の考え方を学ぶ。
	3	4/23(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 助教	疫学研究の分類 仮説を証明する論理的方法として疫学研究のタイプ分けを学ぶ。
	4	4/30(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 助教	チャンスとバイアス： 誤った判断を引き起こす原因を分類し、そのうち のバイアスのタイプ分けを学ぶ。
	5	5/7(木)	3-4	福田 吉治 桑原 恵介	教授 助教	疫学研究分類とバイアス： バイアスを疫学研究の分類と関連づけて 類型化し、その認知方法を学ぶ。
	6	5/14(木)	3-4	山岡 和枝	教授	疫学と統計学
	7	5/21(木)	3-4	福田 吉治 桑原 恵介	教授 助教	横断研究と記述研究
	8	5/28(木)	3-4	福田 吉治 桑原 恵介	教授 助教	コホート研究
	9	6/4(木)	3-4	山岡 和枝	教授	介入試験、無作為比較対照試験
	10	6/11(木)	3-4	福田 吉治 桑原 恵介	教授 助教	症例対照研究
	11	6/18(木)	3-4	山岡 和枝 桑原 恵介	教授 助教	メタアナリシス
	12	6/25(木)	3-4	野村 恭子 桑原 恵介	准教授 助教	スクリーニング
	13	7/2(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 助教	Study Critique
	14	7/9(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 助教	疫学研究計画立案
15	7/16(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 助教	疫学と公衆衛生	

事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の該当箇所を事前に読んでおくこと。</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケースで学ぶ公衆衛生学 第2版 篠原出版新社</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医学的研究のデザイン」木原雅子他訳 メディカルサイエンスインターナショナル</li> <li>・「ロスマンの疫学」第2版 Kenneth J. Rothman著 篠原出版新社</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習の課題1割、期末試験7割、講義への参加度2割で評価する。</li> </ul>

科目名	<b>臨床疫学概論</b>	code : EPI 221	選択	4 単位
-----	---------------	----------------	----	------

科目責任者	矢野 榮二 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期	曜日・時限	木曜 3、4時限	授業方法	講義・演習

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠に基づく医療(Evidence Based Medicine: EBM)の基盤となる臨床疫学に関する知識を習得し、臨床・保健医療の現場で科学的な医療を実践する力を身に付ける。</li> <li>・臨床疫学研究論文(英文)を実際に読んで討論し、論文を批判的に吟味する能力を実践的に習得する。</li> </ul>
------	---

授業の概要	<p>科学的な保健医療の実践に当たり、その根幹となるEBMを学ぶ上で学問的基盤となるのが臨床疫学である。ここでは現場実践上のプロセスから生じるテーマ(異常、診断、頻度、リスク、予後、治療、予防)に基づきアプローチし、データの取り扱い・異常の判断基準、検査の有効性(感度、特異度、事後確率、ROC曲線)、リスクの評価、研究デザインとバイアス、臨床研究で用いられる統計解析結果の解釈(ロジスティック回帰分析、生存分析)、ランダム化比較試験、論文検索(系統的レビュー、コクランライブラリー)、臨床データ管理、臨床ガイドラインの検索と利用法、などについて、実例を用いて学習する。実例は教科書内のコラムや教員が示すもののほか学生の経験や課題研究に派生したものをを用いる。講義の後半は教科書の巻末問題を議論するが、そこも含め小グループでの討論を行い、そこでの積極参加を重視する。例年、講義時間の後半はスタディクリティーク(論文の批判的精読)であったが、その部分は別の科目として独立したので、合わせて履修することが望ましい。取り扱う話題は臨床医学上のものが多いがそれに限定せず、受講も医療関係者に限るものでなく、逆に非医療者が臨床医学の現場での思考方法に触れる機会にもなる。</p>
-------	--

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/17(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 助教	臨床疫学序論 臨床疫学、根拠に基づいた医療のアウトラインについて学ぶ。 臨床疫学研究に関する基本的な知識を再確認するとともに、全体のコースの流れを確認する。
2	9/24(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 助教	頻度 頻度について、表し方、取得方法、妥当性に関する解釈などを学ぶ。
3	10/1(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 助教	異常 データの種類、測定性能・変動、異常の判定基準等について学ぶ。
4	10/8(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 助教	リスク:基礎的な概念 リスクの認知、予測、評価及びその応用について学ぶ。
5	10/15(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 助教	リスク:曝露から疾患 コホート研究を中心に、集団を前向きに観察することにより、リスクを評価する方法及び交絡について学ぶ。
6	10/22(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 助教	リスク:疾患から曝露 症例対照研究を中心に、時間をさかのぼって観察することにより、リスクを評価する方法やオッズ比について学ぶ。
7	10/29(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 助教	予後 疾患の転帰としての予後の評価方法について学ぶ。
8	11/12(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 助教	診断 検査の正確さ、感度、特異度、予測値、尤度、繰り返し検査の評価について学ぶ。
9	11/19(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 助教	治療 仮説の検定、介入研究など治療が有効であるかの判断、特にランダム化比較試験を解釈する上で必要となる知識について学ぶ。
10	11/26(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 助教	予防 予防に関連する原理・戦略方法について学ぶ。
11	12/3(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 助教	偶然 仮説検定、必要標本数、信頼区間、多重比較、サブグループ解析、多変量解析、ベイズ理論について学ぶ。

授業計画	12	12/10(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 助教	因果 因果関係の基本原則、因果関係を支持または否定する根拠について学ぶ。
	13	12/17(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 助教	エビデンスの集約 システマティック・レビューの方法、メタ分析、エビデンスの内容を吟味する方法について学ぶ。
	14	12/24(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 助教	知識管理 臨床の知識管理に対する最新のアプローチ、臨床診療ガイドラインの利用法などについて学ぶ。
	15	2/4(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 助教	全体のまとめ、予備日
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の該当箇所を事前に読んでおくこと。</li> <li>・分担当当日は教科書該当章に関連した自験例を提示すること。</li> </ul>					
テキスト	Clinical Epidemiology: The Essentials 5th edition Robert H. Fletcher, Suzanne W. Fletcher Lippincott Williams & Wilkins, 2014 - 255 pg.・「臨床疫学」ロバート・H・フレッチャー他著 メディカルサイエンスインターナショナル					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医学的研究のデザイン」木原雅子他訳 メディカルサイエンスインターナショナル</li> <li>・「ロスマンの疫学」第2版 Kenneth J. Rothman著 篠原出版新社</li> </ul>					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習の課題6割として、分担当課題の準備2割、講義への参加度2割を評価する。</li> </ul>					

科目名	質的研究	code：EPI 241	選択	1 単位
-----	------	--------------	----	------

科目責任者	高橋 謙造 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 1, 2時限	授業方法	講義・演習

到達目標	地域における健康と保健・医療に関する課題の発見、コミュニティづくり、ステークホルダーと協働した問題解決を行うのに必要な、質的研究方法についての理論的知識、実践能力、および研究手法を身につける。						
授業の概要	地域保健に関する研究において、 1) 科学的な質的研究法についての知識の習得 2) 研究課題に即した情報提供者からの情報収集とテキスト解釈方法についての知識および技術の習得 3) 公衆衛生専門家として課題発見、解決、研究活動を行うことができるようになることをめざし、質的研究に関して講師および受講生同士でディスカッションを行う。						
授業計画	回数	日付	時限	担当者		授業内容	
	1	9/30(水)	1	高橋 謙造 准教授 高木 廣文 講師(非)	質的研究概論(混合研究法・疫学調査・質的調査)		
	2	9/30(水)	2	高木廣文 講師(非)	質的研究と量的研究		
	3	10/7(水)	1	高木廣文 講師(非)	さまざまな質的研究の方法について		
	4	10/7(水)	2	高木廣文 講師(非)	質的研究の科学性に関する諸問題		
	5	10/14(水)	1	高木廣文 講師(非)	質的研究のテキスト解釈に関する諸問題		
	6	10/14(水)	2	高木廣文 講師(非)	グラウンデッド・セオリー・アプローチによるテキスト解釈(1)		
	7	10/21(水)	1	高木廣文 講師(非)	グラウンデッド・セオリー・アプローチによるテキスト解釈(2)		
	8	10/21(水)	2	高木廣文 講師(非)	発表・討論・まとめ		
事 学 前 準 備	履修学生に事前に配布する。						
テ キ ス ト	特に指定しない。						
参 考 書	1. 質的研究を科学する(高木廣文) 医学書院 2. 質的研究実践ガイド(キャサリン・ホープ、ニコラス・メイス) 医学書院 3. グラウンデッド・セオリー・アプローチ分析ワークブック 第2版(戈木クレイグヒル滋子編) 日本看護協会出版会 4. 新版 質的研究入門<人間の科学>のための方法論(ウヴェ・フリック) 春秋社+B28						
評 価 方 法	授業への積極的な参加50%、発表およびレポート50%						

科目名	スタディクリティーク	code : EPI 301	選択	2 単位
-----	------------	----------------	----	------

科目責任者	野村 恭子 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前・後期	曜日・時限	木曜 5 時限	授業方法	演習

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疫学研究論文を実際に読んで討論し、論文を批判的に吟味する能力を実践的に習得する。</li> <li>・各種疫学研究の技法を修得し、研究論文の批判的吟味と研究計画立案の方法を学ぶ。</li> </ul>
------	--

授業の概要	<p>Study Critiqueとは日本語で批判的吟味を意味する。我々が必要な情報について科学的根拠を得るときに読む疫学論文は、結果を鵜呑みにするのではなく、何が正しく、またどこに弱点(バイアスやチャンス)がかかっているのか整理しながら情報を取捨選択しなければならない。本科目では、海外の一流雑誌New England Journal of Medicine, British Medical Journal, JAMAなどに掲載された疫学研究を批判的に読み解きエビデンスについて学ぶ。用いる論文は、歴史的に有名な疫学論文から最新の論文、あるいは参加者の希望する論文をも扱う。なお本科目は本学の女性医師・研究者支援センターが開催しているジャーナルクラブと合同で開催する。場所は病院6階医局内の女性医師・研究者支援センターにて行うので、医局の入り口で女性センターの内線(34670-2)を鳴らすようにしてください。</p>
-------	---

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/9(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
2	4/23(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
3	5/28(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
4	6/11(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
5	6/25(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
6	7/9(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
7	7/23(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
8	8/27(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
9	9/10(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
10	9/24(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
11	10/8(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
12	10/22(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
13	11/12(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
14	11/26(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
15	12/10(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique

事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回事前配布される論文を事前に読んでおくこと。</li> </ul>
------	--

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回事前配布</li> </ul>
------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医学的研究のデザイン」木原雅子他訳 メディカルサイエンスインターナショナル</li> <li>・「疫学」木原正博他訳 メディカルサイエンスインターナショナル</li> </ul>
-----	--

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極的な参加、演習の課題により評価し、判定する。</li> </ul>
------	---

科目名	特別講義(疫学) (※1)	code：(※1) EPI 401~403	選択	1 単位
-----	---------------	--------------------------	----	------

科目責任者	Martin Burton客員教授(※)						
配当年次	1・2年次	配当学期	冬季(1月)	曜日・時限	後日通知	授業方法	集中講義

到達目標	<p>本講義の目的は疫学研究のデザインとデータ解析の概念的基礎を提示することである。この「基礎」には原因を定義する概念的根拠、因果推論の理解、疾患発生と曝露の計測、信頼性と妥当性を高めるためのコホート研究と症例対照研究のデザイン、データの解析と解釈のための量的方法が含まれる。本講義の修了生の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 批判的評価とデータ分析の技術を身につける</li> <li>・ システマチックレビューの正式な過程を使ってエビデンス合成の性質と技術を理解する</li> <li>・ 治療と診断に関する論文評価に必要な基礎的統計概念を復習する</li> <li>・ ガイドラインの理論と作成を理解する</li> <li>・ 臨床ガイドラインを評価する</li> <li>・ 医療政策策定と資源配分の原理を理解する</li> <li>・ 英国医療制度を理解する</li> <li>・ 研究の価値の必要性を認識する</li> </ul>
------	--

授業の概要	<p>本講義では臨床研究のメタ解析から臨床ガイドライン作成の過程を学ぶ。 (※1)年度により開講内容が異なる場合があり、I～IIIのいずれかを開講する。</p>
-------	--

回数	日付	時限	担当者	授業内容
2			Martin Burton 教授(客)	批判的評価の理論(治療)・治療に関する論文の批判的評価(I)
3			Martin Burton 教授(客)	批判的評価の技術・治療に関する論文の批判的評価(II)
4			Martin Burton 教授(客)	ガイドライン・有効性の問題
5			Martin Burton 教授(客)	システマチックレビュー技術・臨床的問題の定義とプロトコル化
6			Martin Burton 教授(客)	批判的評価の理論(診断)・診断に関する論文の批判的評価(I)
7			Martin Burton 教授(客)	批判的評価の技術・診断に関する論文の批判的評価(II)
8			Martin Burton 教授(客)	ガイドライン・臨床研究の高価値化
9			Martin Burton 教授(客)	有効性の問題・診断検査の正確性に関する論文の批判的評価
10			Martin Burton 教授(客)	文献検索法・論文選定法
11			Martin Burton 教授(客)	批判的評価技術・システマチックレビューの評価
12			Martin Burton 教授(客)	ガイドラインの臨床導入・ガイドラインの批判的評価
13			Martin Burton 教授(客)	臨床医療のバリエーションと「共同意思決定」・バイアスの危険
14			Martin Burton 教授(客)	コクランバイアス危険ツール・システマチックレビューの評価
15			Martin Burton 教授(客)	メタ解析・医療政策と資源
16			Martin Burton 教授(客)	英国医療制度・評価

(各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。)

※担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。

※また、具体的な授業日時については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

事前準備	事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。
------	----------------------------

テキスト	Trisha Greenhalgh: How to Read a Paper: The Basics of Evidence-Based Medicine Bjorn Andersen: Methodological Errors in Medical Research - an incomplete catalogue
------	--

参考書	講義で紹介。
-----	--------

評価方法	授業への参加、小テスト、最終日の提出物
------	---------------------

<b>科目名</b>	<b>基礎生物統計学</b>	code : BIO 201	必修	4 単位
------------	----------------	----------------	----	------

<b>科目責任者</b>	山岡 和枝 教授
--------------	----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期	<b>曜日・時限</b>	水曜 1、2時限	<b>授業方法</b>	講義・演習
-------------	-----	-------------	----	--------------	----------	-------------	-------

<b>到達目標</b>	臨床試験をはじめ、医学研究における統計学と疫学方法論の基礎を学習し、さらに統計解析ソフトウェアを用いて実際のデータに適用し、簡単なデータ解析を行うことができる能力を修得する。講義と演習により、医学研究論文を批判的に読むために必要な、統計解析手法に関する基本的な知識を修得する。
-------------	--

<b>授業の概要</b>	講義前半は実例を中心として、医学研究で得られる様々なデータについて、無作為割付とデータの種類や分布の特徴を理解し、適切なデータの要約やグラフ表示の方法を学ぶ。推定(信頼区間)と仮説検定の概念を理解する。臨床試験で頻出である、反応変数が連続変数、2値変数および生存時間であるそれぞれの場合について、2群比較の方法とその際の共変量の調整方法を学ぶ。サンプルサイズの設定、相関や回帰、多群比較および多重性の調整について学ぶ。より応用的な解析手法については、幅広く入門的な知識を学習する。さらに講義後半では、基礎生物統計学で学んだ内容を演習形式で習得する。主要な統計手法について、統計解析ソフトウェアを用いて実際にデータの解析を行う。課題に対するレポートを作成し、発表する。
--------------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/8(水)	1-2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	医学研究における調査研究デザイン、無作為割付と統計学 SASの使い方
	2	4/15(水)	1-2	山岡 和枝 教授	データの種類、データの要約
	3	4/22(水)	1-2	山岡 和枝 教授	データのグラフ表示
	4	5/13(水)	1-2	山岡 和枝 教授	統計的推定と仮説検定(信頼区間とP値)
	5	5/20(水)	1-2	山岡 和枝 教授	連続変数の2群比較
	6	5/27(水)	1-2	山岡 和枝 教授	回帰分析
	7	6/3(水)	1-2	山岡 和枝 教授	2値変数(割合)の2群比較
	8	6/10(水)	1-2	山岡 和枝 教授	疫学研究における2値変数の解析
	9	6/17(水)	1-2	松浦 正明 教授	生存時間の2群比較
	10	6/24(水)	1-2	根本明日香 講師	サンプルサイズ設定
	11	7/1(水)	1-2	根本明日香 講師	分散分析・多重性の調整
	12	7/8(水)	1-2	根本明日香 講師	反応が連続変数の場合の共変量調整(共分散分析・重回帰分析)
	13	7/15(水)	1-2	丹後 俊郎 教授(客)	反応が2値変数の場合の共変量調整(ロジスティック回帰分析)
	14	7/22(水)	1-2	松浦 正明 教授	反応が生存時間の場合の共変量調整(コックス比例ハザード分析)
15	7/29(水)	1-2	根本明日香 講師	学習内容のまとめ・補充・演習、または試験	
補習	8/3(月) 8/4(火)	1-2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	講義を受けてわからなかった点、もう少し詳しく知りたい点についての質問を受け付ける。また、課題研究であるなしにかかわらず自分の研究についての統計相談を受け付ける。	



事前 学習 準備	講義までに一度テキストの内容を読んでおくこと。さらに2回目以降は前回の復習として、関連するテキストの例題を自分で解くなどの自習を行うこと。
テキ スト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後俊郎:医学への統計学 第3版、朝倉書店、2013</li> <li>・適宜資料を配布する。</li> </ul>
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後俊郎:統計学のセンス、医学統計学シリーズNo.1、朝倉書店、1998</li> <li>・医学研究における実用統計学. DJ Altman著 木船義久・佐久間昭訳(サイエンティスト社)</li> <li>・はじめて学ぶ医療統計学. TDV Swinscow, MJ Campbell著 折笠秀樹監訳(総合医学社)</li> </ul>
評 価 方 法	講義・演習の課題、グループ報告、レポートにより評価し、判定する。

科目名	応用生物統計学			code : BIO 211	選択	2 単位
-----	---------	--	--	----------------	----	------

科目責任者	山岡 和枝 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期	曜日・時限	火曜 1時限	授業方法	講義

到達目標	医学研究で頻繁に用いられる応用的で高度な統計解析手法に関する基本的な知識を修得する。解析結果を正しく解釈できるよう、モデルの特性について学ぶ。					
------	---	--	--	--	--	--

授業の概要	医学研究で頻繁に用いられる応用的で高度な統計解析手法についての基礎を学ぶ。特に統計モデルに重点を置く。各モデルの仮定を理解し、仮定が満たされているかの確認方法、仮定が満たされない場合の対処方法を学ぶ。交互作用、変数選択、モデルの当てはまり、結果の解釈などについて、医学論文でどのように報告されるかなど、実例を中心として学習する。					
-------	--	--	--	--	--	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/29(火)	1	根本明日香 講師	統計モデル入門
	2	10/6(火)	1	根本明日香 講師	線形モデル(1)
	3	10/13(火)	1	根本明日香 講師	線形モデル(2)
	4	10/20(火)	1	根本明日香 講師	線形モデル(3)
	5	10/27(火)	1	山岡 和枝 教授	ロジスティック回帰モデル(1)
	6	11/10(火)	1	山岡 和枝 教授	ロジスティック回帰モデル(2)
	7	11/17(火)	1	山岡 和枝 教授	ロジスティック回帰モデル(3)
	8	11/24(火)	1	松浦 正明 教授	コックス比例ハザードモデル(1)
	9	12/1(火)	1	松浦 正明 教授	コックス比例ハザードモデル(2)
	10	12/8(火)	1	山岡 和枝 教授	関連性の分析
	11	12/15(火)	1	丹後 俊郎 教授(客)	空間集積性
	12	12/22(火)	1	根本明日香 講師	ポアソン回帰モデル
	13	2/5(金)	1	山岡 和枝 教授	母数効果モデル・変量効果モデル・混合効果モデル(1)
	14	2/9(火)	1	山岡 和枝 教授	母数効果モデル・変量効果モデル・混合効果モデル(2)
15	2/16(火)	1	山岡 和枝 教授	母数効果モデル・変量効果モデル・混合効果モデル(3)	

事前準備	2回目以降は前回の復習をし、提出した課題についてその意味を理解し、同じ問題が出たときに対処できるようにしておくこと。					
------	--	--	--	--	--	--

テキスト	・適宜資料を配布する。					
------	-------------	--	--	--	--	--

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新版ロジスティック回帰分析. 丹後俊郎、山岡和枝、高木晴良 朝倉書店、2013</li> <li>・統計モデル入門. 丹後俊郎 医学統計学シリーズNo.2、朝倉書店、2000</li> <li>・Cox比例ハザードモデル. 中村剛. 医学統計学シリーズ No.3、朝倉書店、2001</li> </ul>					
-----	--	--	--	--	--	--

評価方法	講義の課題、レポートにより評価し、判定する。					
------	------------------------	--	--	--	--	--

科目名	データ解析演習			code : BIO 301	選択	2 単位
-----	---------	--	--	----------------	----	------

科目責任者	松浦 正明 教授
-------	----------

配当年次	1・2年次	配当学期	後期	曜日・時限	火曜 2時限	授業方法	演習
------	-------	------	----	-------	--------	------	----

到達目標	実際の医学研究におけるデータを用いて、統計解析ソフトウェアを利用し、研究デザインやデータの特性に応じた解析計画の立案・解析の実施・結果の報告について学習し、データハンドリングについての基本的能力を修得する。
------	---

授業の概要	グループ演習により、実際のデータを用いて、統計解析ソフトウェアを利用し、(1)解析計画の立案、(2)解析の実施と解析報告の作成、および(3)発表を行う。実際の医学研究で行われる、患者背景の集計、主要解析、探索的解析など一連の解析を行う。基礎統計学および応用生物統計学で学んだ各種統計手法を用いて、交絡要因の調整を含むデータ解析演習およびコンペティションにより理解を深める。基礎的データ(I)から複雑なデータ(IV)に関して演習を行い、欠損値を含むデータハンドリングについて実践に則した技術を学ぶ。
-------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/29(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 I (1)
2	10/6(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 I (2)	
3	10/13(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 I (3)	
4	10/20(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 I (4)	
5	10/27(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 I (5)	
6	11/10(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 II (1)	
7	11/17(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 II (2)	
8	11/24(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 II (3)	
9	12/1(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 II (4)	
10	12/8(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 II (5)	
11	12/15(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 III (1)	
12	12/22(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 III (2)	
13	2/5(金)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 III (3)	
14	2/9(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 III (4)	
15	2/16(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 III (5)	

事前準備	グループ演習に際して次回の授業までに解析および発表資料作成を行ってくるなど、授業時間外の取り組みを求める。
テキスト	・適宜資料を配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床試験ハンドブック. 丹後俊朗・上坂浩之編(朝倉書店)</li> <li>・臨床試験の計画と解析. 上坂浩之(朝倉書店)</li> </ul>
評価方法	演習の課題、発表、レポートにより評価し、判定する。

科目名	臨床試験概論			code : BIO 221	選択	2 単位
-----	--------	--	--	----------------	----	------

科目責任者	根本 明日香 講師						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期	曜日・時限	火曜 3時限	授業方法	講義

到達目標	臨床試験の計画、実施、解析および報告を行う際の理論的および実践的両側面を理解する。臨床試験に関する基礎的知識を得る。					
------	--	--	--	--	--	--

授業の概要	臨床試験の計画、実施、解析および報告を行う際の理論的および実践的両側面を学ぶ。各種研究デザイン(2群間比較、3群間以上の比較、用量反応試験、クロスオーバー試験、グループ逐次デザイン、臨床薬理試験)について学び、臨床試験に特徴的な概念である、対照群、プラセボ、無作為化、盲検化、優越性・非劣性・同等性試験、探索的試験と検証的試験、エンドポイントの設定、サンプルサイズの設定、多重性、中間解析、モニタリング、分析対象(ITTとPPS)、部分集団解析、およびメタアナリシスなどを理解する。臨床試験における倫理、研究計画書(プロトコル)、典型的に用いられる解析手法、および結果の報告について学ぶ。さらに、医薬品の開発における臨床試験について、関連するガイドラインとともに学ぶ。					
-------	--	--	--	--	--	--

回数	日付	時限	担当者		授業内容
1	9/29(火)	3	根本明日香	講師	臨床試験概論(1)
2	10/6(火)	3	根本明日香	講師	臨床試験概論(2)
3	10/13(火)	3	根本明日香	講師	臨床試験における倫理
4	10/20(火)	3	根本明日香	講師	試験デザイン(1)
5	10/27(火)	3	根本明日香	講師	試験デザイン(2)
6	11/10(火)	3	根本明日香	講師	研究計画書(プロトコル)
7	11/17(火)	3	根本明日香	講師	無作為化
8	11/24(火)	3	根本明日香	講師	盲検化・登録・割り付け
9	12/1(火)	3	根本明日香	講師	サンプルサイズ
10	12/8(火)	3	根本明日香	講師	中間解析・モニタリング
11	12/15(火)	3	根本明日香	講師	優越性・非劣性・同等性試験
12	12/22(火)	3	長谷川貴大	講師(非)	医薬品の開発における臨床試験
13	2/5(金)	3	内田 俊也	教授	臨床医による特別講義(がん以外の領域)
14	2/9(火)	3	根本明日香	講師	メタアナリシス
15	2/16(火)	3	江口 研二	教授	臨床医による特別講義(がん領域)

事前準備	指定した課題について、レポートの提出または授業中の発表を求められることがある。
------	---

テキスト	・適宜資料を配布する。
------	-------------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床試験ハンドブック. 丹後俊朗・上坂浩之編(朝倉書店)</li> <li>・クリニカルトライアル. SJ Pocock コントローラー委員会監訳(篠原出版社)</li> <li>・臨床試験の計画と解析. 上坂浩之(朝倉書店)</li> <li>・A Concise Guide to Clinical Trials. A Hackshaw (BMJ Books)</li> </ul>
-----	---

評価方法	講義の課題、発表、レポートにより総合的に評価し、判定する。
------	-------------------------------

科目名	臨床試験演習			code : BIO 311	選択	1 単位
-----	--------	--	--	----------------	----	------

科目責任者	根本 明日香 講師						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	火曜 4時限	授業方法	演習

到達目標	<p>医学・薬学・看護・栄養における臨床試験の研究デザインに必要な知識を深め、批判的に論文を読むことによって試験計画書(プロトコール)を書く能力を養う。実際の試験実施計画書や解析計画書の内容について学習する。臨床試験論文の特に研究デザインについて具体的な事例をとおして、理解を深める。</p>
------	--

授業の概要	<p>いくつかの疾患領域における典型的な臨床試験の論文を取り上げ、グループ討論、および発表を行い、臨床試験に関する理解を深める。CONSORT声明(無作為化比較対照試験論文の報告の質を高めるためのチェックリスト)を併用し、臨床試験の計画や報告において現在標準的に求められている水準を理解する。論文の問題点や改善点を議論する。</p>
-------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	11/24(火)	4	松浦 正明 教授 根本明日香 講師	臨床試験論文(1)、CONSORT声明
	2	12/1(火)	4	松浦 正明 教授 根本明日香 講師	臨床試験論文(2)、グループ討論
	3	12/8(火)	4	松浦 正明 教授 根本明日香 講師	臨床試験論文(3)、グループ討論
	4	12/15(火)	4	松浦 正明 教授 根本明日香 講師	臨床試験論文(4)、グループ討論
	5	12/22(火)	4	松浦 正明 教授 根本明日香 講師	臨床試験論文(5)、グループ討論
	6	2/5(金)	4	松浦 正明 教授 根本明日香 講師	臨床試験論文(6)、グループ討論
	7	2/9(火)	4	松浦 正明 教授 根本明日香 講師	臨床試験論文(7)、グループ討論
	8	2/16(火)	4	松浦 正明 教授 根本明日香 講師	臨床試験論文(8)、グループ討論

事前準備	<p>論文に基づき発表資料を準備し、指定された回のグループ討論の場で発表すること。</p>
------	---

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜資料を配布する。</li> <li>・課題論文は、教員が指定する場合と履修者が選択する場合がある。</li> </ul>
------	--

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床試験ハンドブック. 丹後俊朗・上坂浩之編(朝倉書店)</li> </ul>
-----	---

評価方法	<p>演習の課題(30%)、授業への積極的な参加(30%)、発表と討論の技術(40%)により評価し、判定する。</p>
------	---

科目名:	<b>特別講義(生物統計学)</b> (※1)	code: (※1) BIO 401~403	選択	1 単位
------	-------------------------	---------------------------	----	------

科目責任者	Marcello Pagano客員教授(※)						
配当年次	1・2年次	配当学期	冬季(1月)	曜日・時限	後日通知	授業方法	集中講義

到達目標	この講義では、モニタリングと評価(M&E)のために使われる一般的で革新的な量的方法を理解する。(統計学の入門コースを受けた学生を対象とする。)
------	---

授業の概要	講義の終了までに、下記の内容を学習する。 1. 直面する課題に対して適切なモニタリング評価システムをデザインできる。 2. データの限界を踏まえ適切に解釈することを含め、適切なデータを同定できる。 3. プログラムのモニタリング評価で使われる基本的・一般的な統計学的手法を用いることができる。 4. 包括的なM&Eシステムのための複数の方法を統合できる。 5. モニタリング評価システムについて、基本要素から複雑な手法への拡張を説明できる。 (※1)年度により開講内容が異なる場合があり、I～IIIのいずれかを開講する。
-------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	1/13(火)		Marcello Pagano 教授(客)	モニタリングと評価(M&E)の紹介
	2	1/13(火)		Marcello Pagano 教授(客)	評価の枠組みと指標
	3	1/14(水)		Marcello Pagano 教授(客)	集団の測定
	4	1/14(水)		Marcello Pagano 教授(客)	統計モデルのレビュー
	5	1/15(木)		Marcello Pagano 教授(客)	調査法1
	6	1/15(木)		Marcello Pagano 教授(客)	調査法2
	7	1/16(金)		Marcello Pagano 教授(客)	M&Eにおける共通するエラー源を修正する方法
	8	1/16(金)		Marcello Pagano 教授(客)	ヘルスシステムにおける品質管理

(各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。)  
 ※担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。  
 ※また、具体的な授業日時については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

事前学習準備	カイ2乗検定や回帰分析などの統計学的手法の基礎に関する事前知識を前提とする。 下記参考書程度の事前知識を前提とする。
--------	---

テキスト	事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。
------	----------------------------

参考書	生物統計学入門:ハーバード大学講義テキスト(Marcello Pagano, Kimberlee Gauvreau著;竹内正弘監訳.丸善)
-----	---

評価方法	コース終了後に筆記試験を行う。
------	-----------------

科目名	健康行動科学概論			code : HBS 201	必修	2 単位
-----	----------	--	--	----------------	----	------

科目責任者	中尾 睦宏 教授
-------	----------

配当年次	1年次	配当学期	前期	曜日・時限	水曜 3時限	授業方法	講義
------	-----	------	----	-------	--------	------	----

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動科学理論を健康問題へと応用した「行動医学」の概念を踏まえた上で、研修や教育の現場で説明できる。</li> <li>・医療現場での各疾患に対し行動医学的な評価法・対応法のエビデンスがどこまで集積されているか、最近の知見を理解する。</li> <li>・行動科学の手法を用いたストレスマネージメントを集団に対して指導できる。</li> </ul>
------	---

授業の概要	<p>行動科学理論に基づいた生活習慣の変容、健康増進活動などを導くための基本知識を学習する。古典的条件付け、オペラント条件付け、自己効力感、ローカス・オブ・コントロールといった行動科学の概念が健康評価にどのように役立つか討論する。医学・医療分野においては、認知行動療法がうつ病、社交(社会)不安障害、摂食障害、腰痛、高血圧など各精神・身体疾患において有効であることを示すエビデンスが蓄積されている。そうした最新の行動医学理論・手法を紹介し、心理社会的ストレスが心身に及ぼす影響について理解できる人材の養成を目指す。ストレス反応の逆であるリラクセーション反応の基礎を学び、健康行動科学演習と組み合わせることで各種リラクセーション技法も体得する。</p>
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者		授業内容
	1	4/8(水)	3	中尾 睦宏	教授	健康行動科学序論 健康行動科学の健康増進に対する価値を理解する。また健康は自分でもたらすことができるという考えに共感し、生活習慣の前向きな変化を起こす働きかけを学んでいく。
	2	4/15(水)	3	中尾 睦宏	教授	生物学的・心理学的・社会的・スピリチュアルな健康行動モデル 健康行動科学の概念について、生物学的・心理学的・社会的・スピリチュアルの面から多角的に説明できる。生活習慣に対する認知行動療法について最新の知見を学ぶ。
	3	4/22(水)	3	中尾 睦宏	教授	健康行動変容 行動変容のステージ(無関心期、関心期、活動期、維持期)を理解し、各ステージに応じた行動目標を定めることができる。
	4	5/8(金)	3	中尾 睦宏	教授	リラクセーション反応 リラクセーション練習に必要な基本要素を説明し、自分に適したリラクセーション法を身につけるようになる。
	5	5/13(水)	3	中尾 睦宏	教授	自分のこころと向き合う 不安を引き起こす脳内メカニズムについて説明し、認知の歪みに気づき、前向き思考を実践できるようにする。
	6	5/20(水)	3	中尾 睦宏	教授	身体への気付き 心と身体の相互関連、特に身体が思考や感情に及ぼす影響に対する興味を高める。
	7	5/27(水)	3	竹内 武昭	講師	食事とストレス 心身の健康維持のためには、バランスのとれた食事が大切であることを理解する。
	8	6/3(水)	3	竹内 武昭	講師	運動とストレス 身体活動と冠動脈疾患リスクの関係について説明し、患者の健康度に応じた運動療法を指導できるようになる。
	9	6/10(水)	3	竹内 武昭	講師	ストレスへの気付き:ストレス認識は、自己観察の重要な部分であり、認知再構成の土台となることを理解する。
	10	6/17(水)	3	竹内 武昭	講師	認知再構成 認知療法、行動療法、認知行動療法について、臨床応用への歴史を含めて、説明できる。
11	6/24(水)	3	竹内 武昭	講師	コーピング(ストレス対処):コーピングは、自己の対応の問題点を理解し、意識して行動選択する必要があることを学ぶ。	



授業計画	12	7/1(水)	3	竹内 武昭 講師	コミュニケーション 言語的・非言語的コミュニケーションを理解した上で、共感と主張を基にした効果的なコミュニケーションができるようになる。
	13	7/8(水)	3	竹内 武昭 講師	健康行動科学の医学への応用 うつ病、不安障害、腰痛、高血圧など行動医学的治療のエビデンスが蓄積されている病態を整理し、健康行動科学の医学への応用性について学ぶ。
	14	7/15(水)	3	中尾 睦宏 教授 竹内 武昭 講師	健康行動科学の個別テーマ 健康行動科学に関するテーマを定め、その概説をする。その後にグループ単位に分かれてテーマごとに文献検索やグループ討論を行う。
	15	7/22(水)	3	中尾 睦宏 教授	まとめ 健康行動科学の最新の文献を整理し、ストレスマネジメントプログラムの臨床応用について討論をする。
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは指定しないが、事前に自分に合った行動医学または健康行動科学関連の書籍を1通り読んでおくことが望ましい。どの書籍を読んだらよいか分からないときは、下記の指定参考書でも良い。</li> <li>・各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。</li> </ul>				
テキスト	指定なし。				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筒井 末春(著), 大谷 純(著), 久住 眞理(監修). 行動科学概論(心身健康科学シリーズ). 人間総合科学大学, 2008年</li> <li>・中尾睦宏、熊野宏昭、久保木富房(訳). リラクゼーション反応(The Relaxation Response). 星和書店, 2001年</li> </ul>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の課題、期末試験、課題レポートの提出状況を総合的に評価して判定する。</li> </ul>				

科目名	健康教育学	code : HBS 211	選択	1 単位
-----	-------	----------------	----	------

科目責任者	中尾 睦宏 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	水曜 4時限	授業方法	講義

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康教育の対象やフィールドを取り巻く諸条件の特色を理解しながら、適切な健康教育プログラムを立案・実践・評価ができるようになる。</li> <li>健康教育の成功例や失敗例の分析から、効果的かつ持続的に実施可能な健康教育プログラムのマネジメントができるようになる。</li> </ul>
------	---

授業の概要	健康教育の基礎となる健康心理学、行動科学の諸概念・理論に加え、人々の行動の大きな規定要因である社会構造や組織、規範の成り立ちについての理解を深め、健康問題の発見と解決に応用できることを目指す。社会学理論や行動科学理論をベースとしながら、政治学、経済学、管理学、人類学などの関連領域も学習することで、職域、学校、地域など各レベルでの健康教育指導をする基礎知識を身につける。またわが国で急速に進んでいる高齢化社会に際し、高齢者医療、がん医療、終末期医療、国際保健などの諸問題を学んでいく。さらに健康教育において利用可能な政策手段の有効性やその限界について考察し、自らも企画提言できる人材育成を目指す。
-------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	6/10(水)	4	中尾 睦宏 教授	健康教育学の関連理論 健康教育の行動医学の視点からとらえ、疾病予防や健康増進に役立つ理論モデルの構築を目指す。
	2	6/17(水)	4	中尾 睦宏 教授	地域における健康教育 地域で健康教育を実践する際に留意すべき諸要因を理解し、危険因子を持つ住民対象の実践事例を学ぶ。
	3	6/24(水)	4	中尾 睦宏 教授	国際保健における健康教育 国際保健における健康教育の最新動向を学び、事例検討を通して国際医療協力をする際の留意点を学ぶ。
	4	7/1(水)	4	竹内 武昭 講師	職域における健康教育 職場の作業・作業環境由来の健康問題をまとめ、適切な健康教育のあり方について考える。
	5	7/8(水)	4	竹内 武昭 講師	学校における健康教育 不登校、性関連教育、未成年の喫煙リスクなど学校固有の健康問題を取り上げ、評価・対策案を討論する。
	6	7/15(水)	4	竹内 武昭 講師	高齢化社会をめぐる健康教育 高齢者医療、がん医療、終末期医療、国際保健など個別の問題に対して、事例検討を通して評価・対策案を考える。
	7	7/22(水)	4	竹内 武昭 講師	プロジェクト・マネジメント論 健康教育において利用可能な政策手段の有効性やその限界について考察し、企画立案・実施・評価方法の基本を学ぶ。
	8	7/29(水)	4	中尾 睦宏 教授	まとめ

事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストは指定しないが、事前に自分に合った健康教育学関連の書籍を1通り読んでおくことが望ましい。どの書籍を読んだらよいか分からないときは、下記の指定参考書でも良い。</li> <li>各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。</li> </ul>
------	--

テキスト	指定なし。
------	-------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本健康教育学会(編集). 健康教育—ヘルスプロモーションの展開(単行本). 保健同人社, 2003年</li> <li>曾根 智史など(翻訳), Karen Glanzなど(編集). 健康行動と健康教育—理論、研究、実践. 医学書院, 2006年</li> </ul>
-----	--

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義の課題、期末試験、課題レポートの提出状況を総合的に評価して判定する。</li> </ul>
------	--

科目名	医療コミュニケーション学／健康行動科学演習	code :HBS 301	必修	4 単位
-----	-----------------------	---------------	----	------

科目責任者	中尾 睦宏 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 2時限	授業方法	講義・演習

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人や社会として最適な健康上のアウトカムを得るために必要な医学・医療に関する知識や情報を正確かつ効果的に伝達し、受け手に理解してもらう医療コミュニケーションの理論体系を理解する。</li> <li>・医療コミュニケーション理論を含む行動科学理論を健康問題へと応用するための評価方法について理解する。</li> <li>・具体的な状況をシミュレーションした医療コミュニケーションが実践できる。</li> <li>・健康行動・心理試験法に関する面接法や質問紙法を研修や臨床の現場で実際に応用できるようになる。</li> </ul>
------	---

授業の概要	<p>患者と医師との1対1のコミュニケーションは医療の基本であり、本講ではその分析方法やより優れたコミュニケーションスキルを身につけるための基礎知識について学習する。最近ではインターネットの普及やマスメディアの情報発信機能の向上により、医療コミュニケーションのあり方は大きく変化している。そこで、医療専門家から国民に広く発信する情報提供(診療実績、診療ガイドライン、疫学調査報告、臨床試験登録など)、医療専門家でなくマスメディアから国民に広く発信する情報提供(ニュース、健康番組など)、医療専門家の間での情報交流(専門誌、学会、研究会、インターネットなど)、患者を含む国民の間での情報交流など様々なレベルでの医療コミュニケーションについてその意義や課題について討論する。また医療コミュニケーション理論や健康行動科学概論で学んだ知識を生かし、各種健康問題に対して適切な評価と対応ができる実践能力を身につける。あらゆる現場で働くことになっても、その場の作業環境やストレスを客観的に評価し、環境調整やストレスマネジメント指導ができる力を身につける。</p>
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/16(水)	2	中尾 睦宏 教授	医療コミュニケーション／健康行動科学演習ガイダンス
2	9/30(水)	2	竹内 武昭 講師	健康行動科学演習：健康行動の聞き取り調査 聞き取り調査の視点と方法について講義し、聞き取り調査を実施した上でその調査結果をデータ化・分析・図表にまとめてみる。	
3	10/7(水)	2	竹内 武昭 講師	健康行動科学演習：健康行動の面接法演習 精神科的構造化面接法について講義し、代表的な面接法の幾つかをマニュアルにそって実施する。	
4	10/14(水)	2	竹内 武昭 講師	健康行動科学演習：質問紙法演習とまとめ 健康行動や心理状態を評価する質問紙法について講義し、各質問紙を験者・被験者双方の立場から実施する。	
5	10/21(水)	2	石川 ひろの 講師(非)	患者・医療者間のコミュニケーション 患者・医療者関係に関する理論と概念を学び、患者とのコミュニケーションのあり方について考える。	
6	10/28(水)	2	石川 ひろの 講師(非)	医療コミュニケーションの評価と実証研究 医療コミュニケーションの評価方法と実証研究を紹介し、臨床や教育への応用について考える。	
7	11/4(水)	2	石川 ひろの 講師(非)	医療におけるサイエンス・コミュニケーション リスクコミュニケーションを含め、保健医療における情報の普及に関する理論を紹介し、そこにおけるマスメディアの役割及び影響を考える。	
8	11/11(水)	2	石川 ひろの 講師(非)	新しいヘルスコミュニケーションの試み エンターテインメント・エデュケーション、シリアスゲームなど、新しい形の健康教育、ヘルスコミュニケーションの手法を紹介し、その可能性を議論する。	

事前学習準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定したテキストを事前に読んでおくこと。</li> <li>・各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。</li> </ul>
--------	--

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石川 ひろの, 武田 裕子 (翻訳). 患者と医師のコミュニケーション. 篠原出版新社, 2007年</li> </ul>
------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・杉本 なおみ. 医療コミュニケーション・ハンドブック. 中央法規, 2008年</li> <li>・松本千明. 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎. 医歯薬出版株式会社, 2007年</li> <li>・松本千明. 医療・保健スタッフのための健康行動理論 実践編. 医歯薬出版株式会社, 2007年</li> <li>・パブリックヘルスリサーチセンター. ストレススケールガイドブック. 実務教育出版, 2005年</li> </ul>
-----	---

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習の課題、期末試験、課題レポートの提出状況を総合的に評価して判定する。</li> </ul>
------	--

科目名	終末期医療実習	code : HBS 310	選択	1 単位
-----	---------	----------------	----	------

科目責任者	中尾 睦宏 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8月)	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	実習

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん治療における「末期がん患者」の位置づけを理解する。</li> <li>2. ホスピスケア、緩和ケアの概念、歴史的な変遷などを理解し、医療における両者の位置づけを理解する。</li> <li>3. 「末期がん患者」を支える医療、特に家で過ごす末期がん患者に対する医療のあり方について理解する。</li> <li>4. 在宅ホスピスケア(Home hospice care)の歴史・概念を理解し、施設ホスピスケア(Institutional hospice care)との連携について学ぶ。</li> <li>5. 地域における在宅ホスピスケアの実際に触れ、在宅ホスピスケアに必要なシステムとケアについて学ぶ。</li> </ol>
------	--

授業の概要	<p>終末期医療やホスピス・緩和ケアの臨床現場における在宅での実習を通じて、人生のターミナル期にある人とその家族に対して、尊厳ある人生を完結できるように支えるためには、医師としてどのような援助をしたら良いのか、について学習する。人間が人生の終焉を迎えるのは定めであるが、発達段階やその人の置かれた環境などによって、残された生や死の迎え方の意味が変わってくることを理解する。</p> <p>具体的には疼痛管理、ホスピスケア、デスエデュケーション、スピリチュアルケア、グリーフケアなどの考え方や手法を実習で学んでいくが、その中でターミナル期にある人の全人的苦痛、家族の悲嘆、ターミナルケアのチームアプローチ、ターミナル医療の倫理的課題についても理解を深めていく。</p>
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1			川越 厚 講師(非)	緩和医療、ホスピスケアの概念 両者の歴史を学び、現場実習を通して在宅ホスピス緩和ケアの概念を理解する。
	2			川越 厚 講師(非)	法的・倫理的課題 在宅ホスピス緩和ケアにおける法的・倫理的課題、および在宅ホスピス緩和ケアに関わる専門職の法的根拠と役割について理解する。
	3			川越 厚 講師(非)	介護保険と地域ケアシステム 在宅ホスピスケアに必要な介護保険の知識、地域ケアシステムを理解する。
	4		個別設定 ※	川越 厚 講師(非)	チームケア 在宅ホスピスケアのチームケアの原則を理解し、ケアチームの一員としてカンファレンスで意見を述べる。
	5			川越 厚 講師(非)	末期がん患者に対するケア(1) 末期がん患者を苦しめる症状の緩和、特に疼痛管理の方法と死までの病状経過を理解する。
	6			川越 厚 講師(非)	末期がん患者に対するケア(2) チーム(interdisciplinary team)として関わることを学び、在宅での末期がん患者に必要な医療計画を立案し、発表する。
	7			川越 厚 講師(非)	末期がん患者に対するケア(3) 末期がん患者と家族が抱える心理・社会・霊的な問題、および家族を失った人の悲嘆を理解し、悲嘆のケアについて述べるができる。
	8			川越 厚 講師(非)	末期がん患者に対するケア(4) 在宅死を前提とした「死の教育」および末期がん患者と家族とのコミュニケーションの原則を理解した上で、コミュニケーションをとることができる。
※尚、授業日時については、夏季休業前に本科目履修希望者と指導担当教員にて個別に設定する。					

事前準備	・指定したテキストを事前に読んでおくこと。
------	-----------------------

テキスト	・川越厚『在宅ホスピス・緩和ケアー演習形式で学ぶケアの指針』メジカルフレンド社 2004年
------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川越厚『家族で看取る癌患者ー在宅ホスピス入門』メジカルフレンド社 1991年</li> <li>・川越厚『在宅ホスピスケアを始める人のために』医学書院 1996年</li> </ul>
-----	--

評価方法	・講義や実習に関するレポート、面接
------	-------------------

科目名	社会疫学	code : HBS 212	選択	1 単位
-----	------	----------------	----	------

科目責任者	福田 吉治 教授 井上 まり子 講師		後期(後半)	曜日・時限	水曜 3時限	授業方法	講義
配当年次	1・2年次	配当学期					

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会経済的要因が健康に及ぼす影響を検証する社会疫学の概念や理論を身につける。</li> <li>2. 社会疫学の研究成果を理解して説明できるようになる。</li> <li>3. 健康の社会的決定要因の実例を挙げて問題を整理できるようになる。</li> <li>4. 社会疫学の結果を根拠にした健康を守る対策を考えられるようになる。</li> </ol>
------	--

授業の概要	<p>社会疫学について理解を深めるため、その背景と重要な概念を整理する。</p> <p>国内外の健康の社会的決定要因に関する事例や研究成果を取り上げて検討する。問題となりうる所得や教育水準などの社会経済的要因、子どもや女性の貧困、職業上の階層や雇用形態に起因する労働者の健康、地域の結びつきなどのソーシャル・キャピタルと健康について重点的に学ぶ。</p> <p>さらに、社会疫学の成果を根拠とした健康への介入について理解できるようにする。特に健康の社会的決定要因の解決方策として注目される行動経済学と社会疫学との結びつきについて理解を深める。</p>
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者		授業内容
	1	11/18(水)	3	福田吉治 井上まり子	教授 講師	オリエンテーション 社会疫学を学ぶ人のために -背景と概念-
	2	11/25(水)	3	福田吉治	教授	社会経済的地位 (Socioeconomic Status) と健康
	3	12/2(水)	3	福田吉治	教授	地域の社会経済的環境と健康
	4	12/9(水)	3	井上まり子	講師	働く人と健康格差 -職業階層・雇用形態と健康-
	5	12/16(水)	3	井上まり子	講師	子どもと女性の貧困
	6	12/25(金)	3	井上まり子	講師	ソーシャル・キャピタルと健康
	7	2/10(水)	3	福田吉治	教授	行動経済学の社会疫学への応用
	8	2/17(水)	3	福田吉治 井上まり子	教授 講師	まとめ 健康の社会的決定要因の問題解決に向けて

事前学習準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定する文献・副読本を事前に読んで理解すること</li> <li>・ 事例に関する議論の際には事例に関わる諸問題について事前に調べておくこと</li> </ul>
--------	--

テキスト	授業の初日に指定する。
------	-------------

参考書	<p>Berkman LF, Kawachi I, Glymour MM. Social Epidemiology 2nd edition. Oxford University Press. 2014</p> <p>Wilkinson R &amp; Marmot M. Social Determinants of Health 2nd edition. Oxford University Press. 2005</p> <p>近藤克則『健康格差社会—何が心と健康を蝕むのか』医学書院. 2005年</p> <p>川上憲人, 小林廉毅, 橋本英樹『社会格差と健康』東京大学出版会. 2006年</p> <p>イチロー・カワチ 『命の格差は止められるか: ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業』小学館. 2013年</p> <p>近藤克則『「健康格差社会」を生き抜く』朝日新聞出版. 2010年</p>
-----	---

評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 講義の課題 (10%)</li> <li>(2) 授業への積極的な参加(事前学習の理解度、討議での発言など) (30%)</li> <li>(3) 課題に関する発表 (10%)</li> <li>(4) 最終レポート (50%)</li> </ol>
------	--

科目名:	<b>特別講義(行動科学)</b> (※1)	code: (※1) HBS 401~403	選択	1 単位
------	------------------------	---------------------------	----	------

科目責任者	Ichiro Kawachi客員教授(※)						
配当年次	1・2年次	配当学期	冬季(1月)	曜日・時限	後日通知	授業方法	集中講義

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会階級、性別、貧困、収入格差、ソーシャルネットワーク/サポート、コミュニティの結束、心理社会的な仕事環境、近隣関係など社会的要因が人々の健康に及ぼす影響について理解できるようになる。</li> <li>・上記の考え方をいながらハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを説明し、コミュニティレベルの健康決定要因、ソーシャルキャピタル、職場ストレスモデルなどに基づいた人々の健康問題への介入方法を提言できるようになる。</li> </ul>
------	---

授業の概要	<p>人々の健康状態を評価しその理論モデルを構造化するための基本知識を網羅する講義を行う。疫学研究を実証的に進めるために必要な概念や手法を学ぶ。</p> <p>(※1)年度により開講内容が異なる場合があり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。</p>
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1			Ichiro Kawachi 教授(客)	健康の社会決定要因の概説
	2			Ichiro Kawachi 教授(客)	予防のパラドックスと予防の戦略
	3			Ichiro Kawachi 教授(客)	社会経済状態、測定と原因とみなせるエビデンス
	4			Ichiro Kawachi 教授(客)	収入格差と健康
	5		後日通知	Ichiro Kawachi 教授(客)	ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポートと健康
	6			Ichiro Kawachi 教授(客)	ソーシャルキャピタル、社会の結束と健康
	7			Ichiro Kawachi 教授(客)	心理社会的な仕事環境と健康
	8			Ichiro Kawachi 教授(客)	健康格差の是正:政策の観点から

(各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。)

※担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。

※また、具体的な授業日時については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

事前準備	事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。
------	----------------------------

テキスト	Berkman LF & Kawachi I (eds). Social Epidemiology. New York: Oxford University Press, 2000.
------	---

参考書	講義で紹介。 カワチ イチロー. 命の格差は止められるか: ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業, 小学館101新書, 2013年
-----	---

評価方法	4つのショートエッセイ形式の問題を含めた2時間の筆記試験を行う。
------	----------------------------------

科目名	保健医療政策概論			code : HPM 201	必修 (選択必修)	2 単位
-----	----------	--	--	----------------	--------------	------

科目責任者	山本 秀樹 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 3、4時限	授業方法	講義

到達目標	我が国の保健医療政策について歴史および現状を知り、保健医療政策に関する基本的な考え方を身につけ、実際に保健医療専門職として従事する場合に、国・自治体、国際機関などの政策を理解した上で自分の専門業務を行うことができる能力の基礎を育成する。
------	--

授業の概要	保健医療政策とは限られた保健医療資源を如何に適正に分配するための原理・原則と行動計画を策定することにある。保健医療政策とは幅広い分野であり、この講義では我が国の保健医療政策を中心に基本事項を中心にするが、国際的視野で学ぶことを目指す。 *：本科目の「医療管理学・安全管理学概論」とは <u>選択必修</u> で、いずれかの科目を1科目履修すること。
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/7(火)	3	山本 秀樹 教授	オリエンテーション (健康とは？保健医療政策について)
	2	4/7(火)	4	山本 秀樹 教授	医療資源の配分に関する考え方 (公衆衛生と倫理・人権的側面)
	3	4/14(火)	3	山本 秀樹 教授	我が国の保健医療政策の歴史
	4	4/14(火)	4	井口 直樹 教授	我が国の保健医療政策の概要(現状)
	5	4/21(火)	3	山本 秀樹 教授	医療費・医療サービスの価格の仕組みについて
	6	4/21(火)	4	山本 秀樹 教授	我が国の医療保険制度について
	7	4/28(火)	3	山本 秀樹 教授	世界の公衆衛生の課題について
	8	4/28(火)	4	山本 秀樹 教授	世界の医療制度・医療保険制度について
	9	5/12(火)	3	橋本 英樹 講師(非)	健康と社会的決定要因 (1)
	10	5/12(火)	4	橋本 英樹 講師(非)	健康と社会的決定要因 (2)
	11	5/19(火)	3	田宮菜奈子 講師(非)	Health Service research 保健医療サービスの質・その評価について
	12	5/19(火)	4	田宮菜奈子 講師(非)	高齢者福祉医療・介護保険制度について (3)
	13	5/26(火)	3	山本 秀樹 教授	保健医療統計と政策評価について
	14	5/26(火)	4	高橋 謙造 准教授	感染症対策・母子保健対策(ワクチンの評価について)
15	6/2(火)	3	山本 秀樹 教授	まとめ	
試験	6/2(火)	4	山本 秀樹 教授	試験	

事前準備 学習	<p>本コースでは、受講生の間での討論を重視するので、講義中に指示された資料・参考書・文献・ビデオを事前に熟読しておくこと。</p> <p>b学期で開講される「国際保健学概論〔火曜日、3-4時限〕」の中で行われる渋谷健司教授の講義〔2コマ〕も受講すること。</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に指定しない〔講義開始時に参考書・教材を指示する〕</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民衛生の動向 2013/2014(厚生統計出版)、</li> <li>・入門 医療政策、真野俊樹著(中公新書)2012年</li> <li>・OECD publications (Health at a glance 2013:OECD Indicators , Health Care Quality Indicators Project Initial Indicators Report – OECD Health Working Papers No.22, 2006他)</li> <li>・Encyclopedia of Bioethics (丸善) 他</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終試験(70%)、レポート(20%)、講義における議論の参加度(10%)で総合評価する。</li> </ul>



科目名:	<b>医療管理学・安全管理学概論</b>	code : HPM-202	必修 (選択必修)	2 単位
------	----------------------	-------------------	--------------	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	月曜 3、4、5時限	授業方法	講義

到達目標	1. 医療管理の基本的経営手法を理解する。 2. 医療安全上の問題点を正確に把握し、解決方法を提示する。
------	---

授業の概要	医療現場では様々な問題が日々起こり、それに対して適切な対応を適時に求められる。そのためには医療現場の現状を知り、起こりうる問題の根本原因を見いだせることが必要となる。本講では医療現場の現実やその問題点を管理者の立場で理解する。また、医療管理に必要な経営学・経済学なども身につけることを目標にする。具体的には医療管理上必要な医療組織・法律・医療制度・医療安全管理・医療倫理等を概観し、それぞれの問題点について議論し理解を深めてゆく。また昨今マスコミなどで話題となっている医療問題についても適宜取り上げて、その根本原因を議論しながら複雑な医療制度・体制・組織を理解する一助とし、将来医療管理者の立場に立ったときに応用できるように準備する。 * :保健医療政策概論と選択必修とする。
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/13(月)	3	中田 善規 教授	導入
	2	4/13(月)	4	上野 京子 講師(非)	有害事象の未然防止(上野・安全管理部/専従安全管理者)
	3	4/20(月)	3	中田 善規 教授	会計学の基礎
	4	4/20(月)	4	川崎 義隆 講師(非)	医療機器に関する安全管理(川崎・安全管理部/ME部)
	5	4/27(月)	3	中田 善規 教授	医療と会計学
	6	4/27(月)	4	坂本 哲也 教授	医療安全と医療訴訟の基本(坂本・安全管理部/管理担当副院長)
	7	5/1(金)	3	内田れい子 講師(非)	苦情相談への対応(内田・患者相談室)
	8	5/1(金)	4	松永 直久 講師	感染症に関する安全管理(松永・感染制御部/部長)
	9	5/11(月)	3	成松 宏人 講師(非)	分子疫学と医療体制①
	10	5/11(月)	4	森 健 講師(非)	暴力対応・刑事事件化対応など(森・安全管理部/総務課調査役)
	11	5/18(月)	3	成松 宏人 講師(非)	分子疫学と医療体制②
	12	5/18(月)	4	渡邊真知子 教授	薬剤に関する安全管理(渡邊・安全管理部/薬剤部長)
	13	5/25(月)	3	成松 宏人 講師(非)	分子疫学と医療体制③
	14	5/25(月)	4	松野 彰 教授	発生した有害事象への適切な対応(松野・安全管理部/部長)
	15	5/25(月)	5	中田 善規 教授	組織行動管理・まとめ

※帝京大学医学部附属病院安全管理部会のメンバーを招聘しての講義またはスモール・グループ・ディスカッションなどの形式で議論する。

事前準備	・第1回講義時に指定する書籍(参考書・論文など)を当該授業までに熟読し、授業中に行う議論の準備をする。
------	---

テキスト	・なし
------	-----

参考書	・第1回講義時に指定する。
-----	---------------

評価方法	・積極的な授業参加、討論の論点の把握と対応力:50% ・レポート提出:50%
------	---

科目名	医療経済学	code : HPM-BIZ 211	選択	2 単位
-----	-------	--------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	月曜 3、4時限	授業方法	講義

到達目標	<p>1. ミクロ経済学的ツールを用いて医療問題を分析する。</p> <p>2. 現在日本が直面する医療に関する問題を経済学的視点から理解し、解決方法を提示する。</p>
------	---

授業の概要	<p>医療は大きな社会システムの一部である。その医療を正確に分析するには社会システム分析ツールである経済学が必要である。特にミクロ経済学は絶対不可欠な分析ツールである。また医療経済学で語られる言葉も大半は厳密な経済学的定義があり、それを正確に理解しておくことが有意義な議論の第一歩となる。本講ではすべての基礎となるこの古典的ミクロ経済学を初歩から徹底的に理解し、それを医療に的確に応用できるようになることを目標とする。具体的には初級ミクロ経済学を医療者向けにアレンジして解りやすく時間をかけて講義する。さらに現在社会問題となっている医療問題を取り上げて、ミクロ経済学的分析を応用して問題の経済学的原因を議論する。</p>
-------	--

回数	日付	時限	担当者	授業内容
2	6/8(月)	4	中田 善規 教授	経済学的思考・相互依存と交易の利益②③
3	6/15(月)	3	中田 善規 教授	医療の需要・供給と平衡④⑥
4	6/15(月)	4	中田 善規 教授	医療の弾力性⑤
5	6/22(月)	3	小林 廉毅 講師(非)	不確実性と保険1
6	6/22(月)	4	小林 廉毅 講師(非)	不確実性と保険2
7	7/6(月)	3	中田 善規 教授	医療消費者・医療生産者と市場効率⑦
8	7/6(月)	4	中田 善規 教授	税のコスト⑥⑧
9	7/13(月)	3	中田 善規 教授	外部性・公共財と共有資源⑩⑪
10	7/13(月)	4	中田 善規 教授	患者の需要理論(消費者選択理論)⑫
11	7/23(木)	3	中田 善規 教授	医療の生産理論・生産費用⑬
12	7/23(木)	4	中田 善規 教授	完全競争市場での医療の価格と生産⑭
13	7/27(月)	3	中田 善規 教授	独占での医療の価格と生産⑮
14	7/27(月)	4	中田 善規 教授	独占的競争と寡占の下での医療の価格と生産⑯⑰
15	8/3(月)	3	中田 善規 教授	まとめとテスト

※授業計画:講義とグループワーク、討論を適宜組み合わせる。(①②などは教科書の予習すべき章を示す。)

事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の各章を当該授業までに熟読し、授業中に行う議論の準備をする。</li> </ul>
------	---

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>Mankiw NG. Principles of microeconomics. 5th Ed. Cengage Learning, Mason, OH. 2008 (訳本:マンキュー経済学第2版ミクロ編、東洋経済新報社)</li> </ul>
------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>柿原浩明 入門医療経済学。日本評論社、2005年</li> <li>その他一般的なミクロ経済学教科書</li> </ul>
-----	--

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な授業参加、討論の論点の把握と対応力:50%</li> <li>講義内でのテスト:50%</li> </ul>
------	---

科目名	医療保障政策論	code : HPM-BIZ 212	選択	2 単位
-----	---------	--------------------	----	------

科目責任者	井口 直樹 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	火曜 4、5時限	授業方法	講義

到達目標	保健医療(とくに医療)分野における行政制度・政策の概要、政策課題について理解し、今後保健医療の現場において指導的な役割を果たすための基礎的知識を得るとともに、今後の保健医療政策のあり方について自ら考え提案できる力を養うことを目標とする。				
授業の概要	我が国の社会保障保障制度全体における保健医療制度の位置づけを理解しつつ、我が国の保健医療制度の現状、課題につき医療提供体制及び公的医療保険制度のあり方を中心に検討する。また併せて介護保険制度など他の福祉制度との連携の在り方についても考えていく。なお、授業はなるべく双方向的に進めたいと考えているので積極的意欲をもった参加者を期待する。				
授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/15(火)	4	井口 直樹 教授	社会保障とは～歴史と理論
	2	9/15(火)	5	井口 直樹 教授	日本の社会保障制度の現状と課題
	3	9/29(火)	4	井口 直樹 教授	日本の保健医療政策～政策体系と政策立案プロセスを考える
	4	9/29(火)	5	井口 直樹 教授	医療保障政策とは～医療サービスの特性と公的関与の必要性
	5	10/6(火)	4	井口 直樹 教授	医療提供体制Ⅰ～医療施設と医療マンパワー
	6	10/6(火)	5	井口 直樹 教授	医療提供体制Ⅱ～地域医療計画
	7	10/13(火)	4	井口 直樹 教授	公的医療保険制度Ⅰ～公的医療保険の仕組みと必要性
	8	10/13(火)	5	井口 直樹 教授	公的医療保険制度Ⅱ～日本の公的医療保険制度の現状と課題
	9	10/20(火)	4	井口 直樹 教授	公的医療保険制度Ⅲ～医療保険改革①(医療費適正化対策)
	10	10/20(火)	5	井口 直樹 教授	公的医療保険制度Ⅳ～医療保険改革②(制度再編と財政調整)
	11	10/27(火)	4	井口 直樹 教授	諸外国の医療保障制度～ドイツ・英国・米国
	12	10/27(火)	5	井口 直樹 教授	公的医療保険制度と介護保険制度～在宅医療・介護を考える
	13	11/10(火)	4	井口 直樹 教授	今後の社会保障制度改革と保健医療政策の行方
	14	11/10(火)	5	井口 直樹 教授	「あるべき医療のあり方」について～討論①
15	11/17(火)	4	井口 直樹 教授	「あるべき医療のあり方」について～討論②	
事前準備	事前に池上直己『ベーシック医療問題』(日本経済新聞社)、島崎謙治『日本の医療』(東京大学出版会)などを読んでおくことを期待する。				
テキスト	とくに用いない。必要に応じ資料を配布する。				
参考書	上記文献のほか、厚生労働省『厚生労働白書』(厚生労働省HP)、厚生労働協会『国民衛生の動向』など				
評価方法	授業における発言、提出レポートなどにより総合的に評価する。				

科目名	医療経営学演習	code : HPM-BIZ 301	選択	2 単位
-----	---------	--------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	月曜 3、4時限	授業方法	講義

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療経済学の標準的理論を学習し、基本的分析ツールを理解する。</li> <li>2. 医療経営上の具体的問題点を経済学的観点から把握し、これを分析する能力を涵養する。</li> </ol>
------	--

授業の概要	<p>医療経営においては通常の経営学の知識のみならず、医療現場の現実にも精通していることが重要である。特に医療従事者はほぼすべて免許を持つ専門職であるため、通常の経営学的手法での管理は困難な場合がある。さらに外部要因として医療は厳しく規制された産業である。この制約の中で医療従事者たちが本来の専門能力を十分に発揮できるシステム・仕組みを構築し状況に合わせて維持してゆくことが医療経営の要であり、ひいては患者が医療の恩恵を十分に享受できるようになる。本講では、通常の経営学的な知識(ミクロ経済学・会計学・人材管理学・組織行動学など)を医療現場でどのように適応させるかについて理解することを目標とする。同時に医療現場の現実に関する知識も身につける。</p>
-------	--

回数	日付	時限	担当者	授業内容	
				回数	日付
1	9/14(月)	3	中田 善規 教授	導入・解説・輪読分担決定(第1章)	
2	9/14(月)	4	中田 善規 教授	医療経済学のためのミクロ経済学ツール(第2章)	
3	9/28(月)	3	中田 善規 教授	健康の生産(第5章)	
4	9/28(月)	4	中田 善規 教授	医療の生産・費用・技術(第6章)	
5	10/5(月)	3	中田 善規 教授	健康資本の需要(第7章)	
6	10/5(月)	4	中澤 達 講師(非)	DPCに関する諸問題	
7	10/19(月)	3	中田 善規 教授	健康保険の需要と供給(第8章)	
8	10/19(月)	4	中田 善規 教授	消費者選択と需要(第9章)	
9	10/26(月)	3	中田 善規 教授	非対称情報とエージェンシー(第10章)	
10	10/26(月)	4	大嶽 浩司 教授(客)	医療を取りまく経済と経営	
11	11/2(月)	3	中田 善規 教授	健康保険市場の構成(第11章)	
12	11/2(月)	4	中田 善規 教授	マネージド・ケア(第12章)	
13	11/9(月)	3	中田 善規 教授	非営利組織(第13章)	
14	11/9(月)	4	中田 善規 教授	医療保険・年金・福祉など	
15	11/16(月)	3	中田 善規 教授	議論とまとめ	

※授業出席者全員による分担報告、相互討論と教官による補足コメント等を組み合わせる(輪読形式)。教科書の第5章から第13章を順番に学生が報告する。

事前準備	・教科書の各章を当該授業までに熟読し、授業中に行う議論の準備をする。
------	------------------------------------

テキスト	・Folland S, Goodman AC, Stano M. The economics of health and health care. 7th Ed. Pearson, Upper saddle River, NJ. 2013
------	---

参考書	・橋本英樹、泉田信行:医療経済学講義 東京大学出版会 2011
-----	---------------------------------

評価方法	・プレゼンテーション・積極的な授業参加・討論の論点の把握と対応力で評価する。
------	--

科目名：	<b>医療情報学概論</b>	code：HPM-INF 221	選択	2 単位
------	----------------	------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 3、4時限	授業方法	講義

到達目標	医療の特質をふまえ、最適な情報処理技術に基づき、医療情報を安全かつ有効に活用・提供することができる知識・技術を身につける。				
授業の概要	臨床の現場では、診療、診断、治療など様々な場面で、数多くの形式や特徴を持つ情報(臨床検査値や画像データ、医薬品情報、診療録など)を効率よく処理する必要がある。そのために必要な基本的知識を身につけると同時に、これから重要となる医療情報標準化(HL7、DICOMなど)や3Dバーチャルデータの特徴などについて理解する。また、臨床以外の医療制度や病院管理、社会医学などで必要となる医療情報に関する基礎知識も身につける。				
授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1			中田 善規 教授	医療情報の特性と医療情報システム
	2			中田 善規 教授	医療情報倫理
	3			中田 善規 教授	病院情報システムの構成と機能
	4			中田 善規 教授	病院情報システムのハードウェア
	5			中田 善規 教授	病院情報システムの導入と管理
	6			中田 善規 教授	医療・福祉・保健情報システム
	7	平成27年度 開講なし		中田 善規 教授	広域医療情報システム
	8			中田 善規 教授	医療情報の標準化
	9			中田 善規 教授	医療情報のデータ分析と評価
	10			中田 善規 教授	臨床医学と医療プロセス
	11			中田 善規 教授	臨床検査と画像診断
	12			中田 善規 教授	処置・治療と看護
	13			中田 善規 教授	診療録およびその他医療記録
	14			中田 善規 教授	医療安全管理と施設管理
15			中田 善規 教授	まとめ	
事前準備	・教科書の各章を当該授業までに熟読し、授業中に行う議論の準備をする。				
テキスト	・「医療情報サブノート」 篠原出版新社				
参考書	・「医療情報 医療情報システム編」 篠原出版新社 ・「医療情報 医学・医療編」 篠原出版新社				
評価方法	・講義の課題(ミニレポート)50%+試験50%				

科目名	医療情報学演習	code : HPM-INF 321	選択	1 単位
-----	---------	--------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 2時限	授業方法	演習

到達目標	コミュニケーションの礎となる情報を手許に手繰り寄せ、伝達していくための基礎的方法を学ぶ。また、公衆衛生の実践における問題解決能力に与するよう、多様なステークホルダーとの間の戦略的な情報活用能力を身につける。
------	---

授業の概要	医療現場における諸問題に対処するために必要な能力のうち、「情報」に関する部分を俯瞰的、多面的に取り扱う。1) 情報の取得能力を左右する、文献検索をはじめとする検索能力、2) 情報システムのハードおよびソフトの体系的理解、3) 情報を役立てるための共有・アーカイブ・マネジメントの理論および倫理について、演習の形で実践的テクニックおよび思考回路を身につける。
-------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/7(火)	2	中田 善規 教授 山村 朋子 助手	コンピュータとネットワークの基礎 (ハードウェアとソフトウェア、OSとアプリケーション、通信プロトコル)
	2	4/14(火)	2	中田 善規 教授 山村 朋子 助手	各種ネットワークサービス(WWW、メール、FTP、DHCP、DNS) 情報セキュリティとクラウド・サービス
	3	4/21(火)	2	中田 善規 教授 山村 朋子 助手	文献書誌情報(citation)の管理
	4	4/28(火)	2	中田 善規 教授 山村 朋子 助手	書誌情報と検索(サーチのストラテジー) I :クエリとインデックス
	5	5/12(火)	2	中田 善規 教授 山村 朋子 助手	書誌情報と検索(サーチのストラテジー) II :ブール演算
	6	5/19(火)	2	中田 善規 教授 山村 朋子 助手	書誌情報と検索(サーチのストラテジー) III:メタデータ・統制語彙・シソーラス
	7	5/26(火)	2	中田 善規 教授 山村 朋子 助手	リレーショナル・データベースの概念と活用(Excel、Access)
	8	6/2(火)	2	中田 善規 教授 山村 朋子 助手	[まとめ] 検索可能な情報とその共有: 効果的な情報発信と受信のために

事前準備	リーディング、課題を事前に指定することがある。
------	-------------------------

テキスト	適宜資料を配布する。
------	------------

参考書	・梅棹忠夫「情報の文明学」 中公文庫
-----	--------------------

評価方法	演習の課題、レポートにより評価し、判定する。
------	------------------------

科目名	医療管理学実習	code : HPM-INF 351	選択	1 単位
-----	---------	--------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8月)	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	実習

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療管理上の問題を実地体験する。</li> <li>2. 管理上の問題点を的確に把握し、解決方法を提示する。</li> </ol>
------	---

授業の概要	<p>医療経営・管理・経済学の理論を踏まえたうえで、現実の医療現場を経営・管理・経済学の視点から見て、その問題点を把握することが重要である。一専門職としてではなく、一步離れた立場から問題点を俯瞰し、全体最適化を目指すトレーニングを行う。本実習では医療現場が実際に直面する問題を例として取り上げ、その解決の可能性をグループ・プロジェクトとして議論・提示して、現代の医療の抱える問題点を実感することを目標とする。実習する医療現場としては下記の3つの選択肢の中から選ぶ。</p> <p>尚、医療管理学概論の履修を前提とする。</p>
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	<p>I. 帝京大学医学部附属病院での医療管理学実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事務次長または実習担当者の指示に従い、病院各部門の実務を見学する。</li> <li>2. 単位認定希望者のみ附属病院における医療管理上の問題点を発見しその解決案を報告する(A4版2～3枚程度)。</li> <li>3. 提出された報告書は、附属病院幹部にも配布して実際の業務改善につなげる予定である。</li> </ol> <p>II. 他施設での医療管理学実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療管理学実習は1単位なので、それ相当のコミットメントが必要となる。</li> <li>2. 単位認定希望者のみ実習施設における医療管理上の問題点を発見しその解決案を報告する(A4版3枚程度)。</li> </ol> <p>尚、授業日時については、夏季休業前に本科目履修希望者と指導教員にて個別に設定する。</p>				

事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの実習課程で決められた事前課題を予習する。</li> </ul>
------	--

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>
------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>
-----	---

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習への積極的参加:50%</li> <li>・実習テーマに関するレポート:50%</li> </ul>
------	--

科目名	リーダーシップ・マネジメント論	code : HPM-BIZ 211	選択	1 単位
-----	-----------------	-----------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 2時限	授業方法	講義

到達目標	医療は大きな社会システムの一部である。その医療も人間から成り立つ組織であることには変わりはない。そうした医療に関する組織でリーダーシップを発揮し組織に貢献するには人間組織の理解が不可欠である。本講義では、組織一般の理解を深めるために一般の経営学を基礎にした学習を行う。また、いわゆる正解のない分野であるため、異なる視点からの討論を中心に講義を進める。これらの内容を通じて、公衆衛生分野で将来のリーダーとなるべき人材として必須の知識・技能を修得することを基本目標とする。					
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間組織一般について説明できる</li> <li>2. その一般理論を保健医療の分野に応用できる</li> </ol>					
授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容	
	1	9/16(水)	2	中田 善規 教授	導入	
	2	9/30(水)	2	中田 善規 教授	リーダーシップ	
	3	10/7(水)	2	中田 善規 教授	組織の質の改善	
	4	10/14(水)	2	中田 善規 教授	人材管理戦略	
	5	10/21(水)	2	石川ひろの 講師(非)	コミュニケーション①	
	6	10/28(水)	2	石川ひろの 講師(非)	コミュニケーション②	
	7	11/4(水)	2	石川ひろの 講師(非)	コミュニケーション③	
	8	11/11(水)	2	石川ひろの 講師(非)	コミュニケーション④	
事 学 前 準 備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定文献を授業出席者全員が事前に読むことを求める。</li> </ul>					
テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業で予習すべき文献を指定する。</li> </ul>					
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Drucker PF. Management: tasks, responsibilities, practices. Harper, 1973</li> <li>・岩崎夏海:もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら ダイヤモンド社 2009年P.F.ドラッカー 著、上田惇生編訳「エッセンシャルズ版マネジメント―基本と原則」ダイヤモンド社 2013年</li> </ul>					
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション・積極的な授業参加・討論の論点の把握と対応力で評価する。</li> </ul>					



科目名	地域保健学	code : HPM-CH 221	選択	2 単位
-----	-------	----------------------	----	------

科目責任者	高橋 謙造 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	火曜 1, 2時限	授業方法	講義・演習

到達目標	地域における健康と保健・医療に関する課題の発見、コミュニティづくり、ステークホルダーと協働した問題解決を行うのに必要な、理論的知識、実践能力、および研究手法を身につける。
------	---

授業の概要	地域保健に関して、 1) 住民／患者の視点：健康づくり、医療の利用、患者医師関係、医療情報利用の観点 2) 医療提供者の視点：家庭医療、地域医療の現場における医療活動、住民・患者との関係構築の観点 3) 地域社会の視点：さまざまなステークホルダーの協働による健康なまちづくり、コミュニティづくりの観点から、公衆衛生専門家として課題発見、解決、研究活動を行うことができるようになることをめざし、講師および受講生同士でディスカッションを行う。
-------	--

回数	日付	時限	担当者		授業内容
1	6/9(火)	1	高橋 謙造	准教授	プライマリ・ヘルス・ケアからヘルス・プロモーションへ
2	6/9(火)	2	高橋 謙造	准教授	地域におけるフィールド調査概論
3	6/16(火)	1	石崎 達郎	講師(非)	高齢社会における地域保健医療と研究事例
4	6/16(火)	2	石崎 達郎	講師(非)	高齢社会における地域保健医療と研究事例
5	6/23(火)	1	高橋 謙造	准教授	地域診断概論(計画・立案)
6	6/23(火)	2	高橋 謙造	准教授	地域診断概論(調査・分析・データの取り扱い)
7	6/30(火)	1	小林 潤	講師(非)	サポーターシップ・スーパービジョン
8	6/30(火)	2	小林 潤	講師(非)	サポーターシップ・スーパービジョン
9	7/7(火)	1	高橋 謙造	准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(講義/実習)
10	7/7(火)	2	高橋 謙造	准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習1)
11	7/14(火)	1	高橋 謙造	准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習2)
12	7/14(火)	2	高橋 謙造	准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習3)
13	7/21(火)	1	高橋 謙造	准教授	発表・討論・まとめ
14	7/21(火)	2	松浦 正明	教授	反応が生存時間の場合の共変量調整(コックス比例ハザード分析)
15	7/28(火)	1	根本明日香	講師	その他の統計解析手法(経時データ解析など)

事前準備	履修学生に事前に配布する。
------	---------------

テキスト	特に指定しない。
------	----------

参考書	1. 日本の保健医療の経験 <a href="http://jica-ri.jica.go.jp/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/field/200403_02.html">http://jica-ri.jica.go.jp/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/field/200403_02.html</a> 2. 開発援助のためのプロジェクト・サイクル・マネジメント：参加型計画編 <a href="http://www.fasid.or.jp/publication/6_index_detail.shtml">http://www.fasid.or.jp/publication/6_index_detail.shtml</a> 3. Supportive supervision/mentoring and monitoring for community IYCF <a href="http://www.unicef.org/nutrition/files/Supervision_monitoring_module_Nov_2012.pdf">http://www.unicef.org/nutrition/files/Supervision_monitoring_module_Nov_2012.pdf</a> 4. Guidelines for Implementing Supportive Supervision. A step-by-step guide with tools to support immunization <a href="http://www.path.org/vaccineresources/files/Guidelines_for_Supportive_Supervision.pdf">http://www.path.org/vaccineresources/files/Guidelines_for_Supportive_Supervision.pdf</a>
-----	--

評価方法	講義・演習の課題50%、発表およびレポート50%
------	--------------------------

科目名	地域保健学実習	code : HPM-CH 361	選択	1 単位
-----	---------	----------------------	----	------

科目責任者	高橋 謙造 准教授
-------	-----------

配当年次	1・2年次	配当学期	夏期(9月)	曜日・時限	個別設定	授業方法	実習
------	-------	------	--------	-------	------	------	----

到達目標	<p>「地域保健学」の授業内容にもとづき、</p> <p>①地域保健医療の現場でフィールドワークを通して、現状と課題を述べることができる。</p> <p>②ステークホルダーと協働して、コミュニティにおける活動の計画立案を行うことができる。</p> <p>③活動の評価について研究計画を立案できる。</p>
------	--

授業の概要	<p>地域の保健医療福祉のフィールドを訪問し、ステークホルダーへのインタビュー、地域保健活動への参加などを通して、公衆衛生専門家の観点から問題発見、解決、研究方法について考察する。「地域保健学」の履修を前提とする。</p>
-------	---

	回数	日付	時限	担当者	授業内容
授業計画	<p>学生、担当教員、現地受け入れ担当者との相談により、フィールドにおける実習スケジュールを計画する。実習日時についても、相談の上、個別に設定する。</p> <p>&lt;実習テーマ・訪問先&gt;</p> <p>1) フィールド実習(日本の離島での訪問看護等)</p> <p>2) 在宅医療施設 等</p> <p>3) フィールド調査実習(ラオス国チャンパサック県等)</p>				

事前準備	個別に指示する。
------	----------

テキスト	特に指定しない。
------	----------

参考書	特に指定しない。
-----	----------

評価方法	現地での実習参加50%、およびレポート50%
------	------------------------

科目名	国際保健概論	code : HPM-GH 231	選択	2 単位
-----	--------	-------------------	----	------

科目責任者	井上まり子 講師
-------	----------

配当年次	1・2年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	火曜 3、4時限	授業方法	講義
------	-------	------	--------	-------	----------	------	----

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在のグローバル・ヘルスに関する代表的な課題を人口統計や健康指標を用いて説明できる。</li> <li>・世界で問題になる主要な公衆衛生の問題(貧困、母子保健、感染症、非感染性疾患など)の概要と現在の対策を述べられる。</li> <li>・グローバル・ヘルスの過去から現在に至る世界での取り組みや国際援助の概要を把握して説明できる。</li> <li>・上記課題に関する各種ステークホルダーの役割を理解できる。</li> </ul>
------	--

授業の概要	<p>国際保健を理解するうえで重要な健康指標と各種疾病の現状について学び、統計情報を用いて問題の程度を説明できるようにする。公衆衛生の課題は現在国際社会で優先度を高めている。世界全体でのグローバル・ヘルスの取り組みや昨今の国際的な公衆衛生政策について理解を深める。各課題に対する国際社会での方針や合意など世界の動向に注目する。</p> <p>特に、個別の内容である母子保健、学校保健、感染症対策、非感染性疾患(Non-Communicable Diseases: NCD)等の主要課題について背景と問題点を整理し、これらの状況をとりまく医療人類学の素養や保健医療システムの評価、財政といった内容も検討する。</p> <p>行政や国際機関等で活躍した実務経験のある教員により、現場の問題への取り組み方の実践を学ぶ。</p>
-------	--

回数	日付	時限	担当者		授業内容
1	6/9(火)	3	山本 秀樹 教授 高橋 謙造 准教授 井上 まり子 講師		授業オリエンテーション グローバル・ヘルス -国際的取組の流れ-
2	6/9(火)	4	井上まり子 講師		人口転換と疫学転換 -Non-Communicable Diseases-
3	6/16(火)	3	高橋 謙造 准教授		母子保健
4	6/16(火)	4	高橋 謙造 准教授		子どもの健康 -世界における学校保健の取り組み-
5	6/23(火)	3	山本 秀樹 教授		感染症(1) (HIV/AIDS、結核)
6	6/23(火)	4	山本 秀樹 教授		感染症(2) (新興感染症・再興感染症・顧みられない熱帯病(NTD))
7	6/30(火)	3	山本 秀樹 教授		環境と健康 (気候変動と感染症(マラリアを含む)), Education for Sustainable Development (ESD)
8	6/30(火)	4	山本 秀樹 教授		グローバル・ヘルスと社会・文化 -医療人類学
9	7/7(火)	3	山本 秀樹 教授		在日外国人の保健医療の問題
10	7/7(火)	4	井上 まり子 講師		Universal Health Coverage
11	7/14(火)	3	渋谷 健司 講師(非)		グローバル・ヘルスの最新動向
12	7/14(火)	4	渋谷 健司 講師(非)		Global Burden of Diseases & Global Health Policy and Practices
13	7/21(火)	3	井上 まり子 講師		喫煙とアルコール -生活習慣・健康リスク・公衆衛生と社会政策-
14	7/28(火)	3	錦織 信幸 講師(非)		国際機関で公衆衛生課題に取り組む-世界保健機関での経験から-
15	7/28(火)	4	錦織 信幸 講師(非)		国際機関で公衆衛生課題に取り組む-世界保健機関での経験から-

事前準備	事前に指定する資料や文献を授業前に読み、ディスカッションに参加できるようにしておくこと
------	---

テキスト	初回授業時に配布する資料・文献等を指定する。
------	------------------------

参考書	World Health Organization 各年次報告書、World Development Report, Human Development Report等
-----	--

評価方法	・講義の課題10%、授業での発言と参加(課題の発表等を含む) 40%、最終課題 50%
------	---

科目名	国際保健学演習	code : HPM-GH 321	選択	2 単位
-----	---------	-------------------	----	------

科目責任者	高橋 謙造 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 3・4時限	授業方法	演習

到達目標	国際保健分野のHot issueの概要について学ぶことを目的とし、特定分野(母子保健、PHC等)の文献を読み込み議論していく過程を通じて、具体的な政策提言を創出していくことを目標とする。				
授業の概要	国際保健分野の特定の課題を取り上げ、 1)何が問題なのか?について特定し、 2)どのような議論が交されてきたかを把握し、 3)具体的な政策提言を作っていく(英語、日本語いずれでも可だが、英語が望ましい)。				
授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/16(水)	3	井上まり子 講師 高橋 謙造 准教授	オリエンテーション
	2	9/16(水)	4	井上まり子 講師 高橋 謙造 准教授	オリエンテーション
	3	9/30(水)	3	高橋 謙造 准教授	在日ニューカマー外国人の保健サービス
	4	9/30(水)	4	高橋 謙造 准教授	政策提言立案・プレゼンテーション(在日ニューカマー外国人)
	5	10/7(水)	3	高橋 謙造 准教授	Maternal Health
	6	10/7(水)	4	高橋 謙造 准教授	政策提言立案・プレゼンテーション(Maternal Health)
	7	10/14(水)	3	高橋 謙造 准教授	Newborn Health
	8	10/14(水)	4	高橋 謙造 准教授	政策提言立案・プレゼンテーション(Newborn Health)
	9	10/21(水)	3	井上まり子 講師	公衆衛生に対する住民ボランティアの活躍ーソーシャル・キャピタルー
	10	10/21(水)	4	井上まり子 講師	政策提言立案・プレゼンテーション(住民の力の活用)
	11	10/28(水)	3	井上まり子 講師	民間企業とBOPビジネス
	12	10/28(水)	4	井上まり子 講師	政策提言立案・プレゼンテーション(民間企業とBOPビジネス)
	13	11/4(水)	3	児玉 光也 講師(非)	緊急援助
	14	11/4(水)	4	高橋 謙造 准教授	緊急援助
15	11/11(水)	3	井上まり子 講師 高橋 謙造 准教授	総括討議	
事前準備	当日、簡潔な背景説明は行うが、文献類(事前に配布する)は読み込んでおくことが望ましい。				
テキスト	指定する文献・副読本を事前に読んで理解すること				
参考書	後日指定します				
評価方法	(1) 授業への積極的な参加(事前学習の理解度、討議での発言など) (20%) (2) プレゼンテーション(文献レビュー、演習結果、課題活動報告等) (40%) (3) レポート (40%)				

科目名	国際保健実習	code : HPM-GH 371	選択	1 単位
-----	--------	-------------------	----	------

科目責任者	山本 秀樹 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	冬季(12月)	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	実習

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の国際協力における国際保健協力の実践を学ぶ。</li> <li>・海外協力の専門家と意見交換し、将来のキャリア形成について考える。</li> <li>・国際保健専門職として組織のマネジメント・経営について考え方の基礎を身につける</li> <li>・国際保健における新しい潮流、特に社会的起業(entrepreneurship)の考え方を学ぶ</li> </ul>
------	--

授業の概要	<p>近年、国際保健を取り巻く潮流の変化が生じており、従来の国連機関・政府機関が実施する国際協力から、民間の機関が果たす役割が大きくなっている。本年は、従来最貧国といわれてきたが、近年経済発展も著しく、社会的起業(entrepreneurship)やBOPビジネスのメッカともいえるバングラデシュ国を訪問し、同国における新しい国際協力のあり方について学ぶ事を予定している。</p> <p>なお、詳細な現地のプログラムは履修者の国際保健での経験や希望を考慮し企画する。訪問国の政情や自然災害等状況により実習実施が困難である場合については、実習場所と内容を変更することがある。履修者が3名以上に達しないときは、開講しないこともある。10人以上希望者がある場合は制限を行うこともある。本実習への参加の費用(渡航費・滞在費・海外旅行傷害保険料)は各自負担すること。</p> <p>自らが企画または海外の機関[提携大学も含む]が実施する既定の国際的コース等に参加する場合等、本実習と同等の意義があると認めた場合、実習として認定することがある。[実施時期等、要相談]</p>
-------	---

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	渡航前に別途指示		山本 秀樹 教授	導入:訪問地(バングラデシュ国)の事前学習 (渡航前) 11月24日〔火曜日〕午後、3時限を予定
2	[12月22-29日]を予定]		山本 秀樹 教授	社会的起業・BOP(Bottom of Pyramid)ビジネスについて 日本Poly Gly社, Mothers House 社等
3	同上		山本 秀樹 教授	現地学術研究機関 バングラデシュ国際下痢研究所(ICDDR,B) BRAC University School of Public Health (BRAC大学公衆衛生大学院)
4	同上		山本 秀樹 教授	現地国連機関 WHO, World Bank, UNESCO, UNICEF, UNFPA等
5	同上		山本 秀樹 教授	現地NGO DAM (Dhaka Ahsania Mission), AMDA, BRAC他
6	同上		山本 秀樹 教授	医療施設訪問 Japan Bangladesh Friendship Hospital (JBFH)他
7	同上		山本 秀樹 教授	帰路のシンガポールに寄港〔オプション〕 医療アシスタンス機関訪問(SOS社、現地クリニック)
8	帰国後、レポート作成、報告会を行う		山本 秀樹 教授	帰国後のまとめ・討論・レポート作成について 報告会 2月5日〔火曜日〕午後、3時限を予定

・バングラデシュに約一週間の現地滞在する予定である。(山本同行予定)  
・帰路〔シンガポール経由〕にSOS社、現地クリニック訪問も検討〔希望者のみ〕  
・履修者は事前に公衆衛生学・国際保健学・国際開発学の観点からテーマを決めて実習にのぞむ。  
・現地訪問の日時については、12月下旬の冬季休業時〔12月22-29日〕を計画しているが、現地受け入れ機関の都合を調整して設定する。  
・現地訪問前と訪問後に担当教員と打ち合わせとまとめを行う。(日時は別途指示する)

事前準備	<p>本実習を履修するには、事前に保健医療政策概論、国際保健学概論、国際保健学演習の履修することを条件とする。</p> <p>履修登録する前に山本(hidekiy@med.teikyo-u.ac.jp)まで連絡をすること。</p> <p>本科目の履修者(単位取得希望者)は、全日程〔バングラデシュ部分〕に参加すること。</p> <p>課題研究報告会・課題研究論文作成の時期と重なるので、H28年3月修了予定者は本実習に参加する場合に留意すること。</p>
------	---

テキスト	・なし
------	-----

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バングラデシュ国づくり奮闘記——アジア「新・新興国」から日本へのメッセージ、池田 洋一郎 (世界銀行職員、著)</li> <li>・裸でも生きる—25歳女性起業家の号泣戦記、山口絵理子 (ハーバードビジネススクール日本支部、2012年度起業家大賞受賞者)</li> <li>・BOPを変革する情報通信技術—バングラデシュの挑戦、グラミン銀行総裁 ムハマド・ユヌス序文、アシル・アハメッド/大杉 卓三 (著) 他</li> </ul>
-----	--

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習への参加(50%)、帰国後のレポート(50%)</li> <li>・実習の形態によっては受け入れ先機関からの評価を考慮することがある。</li> </ul>
------	--

科目名:	<b>特別講義(保健医療政策学)</b> (※1)	code: (※1) HPM 401~403	選択	1 単位
------	---------------------------	---------------------------	----	------

科目責任者	Andrew Farmery客員教授(※)
-------	-----------------------

配当年次	1年次	配当学期	冬季(1月)	曜日・時限	後日通知	授業方法	集中講義
------	-----	------	--------	-------	------	------	------

到達目標	<p>本講義の目的は疫学研究のデザインとデータ解析の概念的基礎を提示することである。この「基礎」には原因を定義する概念的根拠、因果推論の理解、疾患発生と曝露の計測、信頼性と妥当性を高めるためのコホート研究と症例対照研究のデザイン、データの解析と解釈のための量的方法が含まれる。本講義の修了生の到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 批判的評価とデータ分析の技術を身につける</li> <li>・ システマチックレビューの正式な過程を使ってエビデンス合成の性質と技術を理解する</li> <li>・ 治療と診断に関する論文評価に必要な基礎的統計概念を復習する</li> <li>・ ガイドラインの理論と作成を理解する</li> <li>・ 臨床ガイドラインを評価する</li> <li>・ 医療政策策定と資源配分の原理を理解する</li> <li>・ 英国医療制度を理解する</li> <li>・ 研究の価値の必要性を認識する</li> </ul>
------	--

授業の概要	<p>本講義では臨床研究のメタ解析から臨床ガイドライン作成の過程を学ぶ。 (※1)年度により開講内容が異なる場合があり、I～IIIのいずれかを開講する。</p>
-------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1			Andrew Farmery 教授(客)	オックスフォード式教育法・システマチックレビューとコクラン共同計画
	2			Andrew Farmery 教授(客)	批判的評価の理論(治療)・治療に関する論文の批判的評価(I)
	3			Andrew Farmery 教授(客)	批判的評価の技術・治療に関する論文の批判的評価(II)
	4			Andrew Farmery 教授(客)	ガイドライン・有効性の問題
	5			Andrew Farmery 教授(客)	システマチックレビュー技術・臨床的問題の定義とプロトコル化
	6			Andrew Farmery 教授(客)	批判的評価の理論(診断)・診断に関する論文の批判的評価(I)
	7			Andrew Farmery 教授(客)	批判的評価の技術・診断に関する論文の批判的評価(II)
	8			Andrew Farmery 教授(客)	ガイドライン・臨床研究の高価値化
	9			Andrew Farmery 教授(客)	有効性の問題・診断検査の正確性に関する論文の批判的評価
	10			Andrew Farmery 教授(客)	文献検索法・論文選定法
	11			Andrew Farmery 教授(客)	批判的評価技術・システマチックレビューの評価
	12			Andrew Farmery 教授(客)	ガイドラインの臨床導入・ガイドラインの批判的評価
	13			Andrew Farmery 教授(客)	臨床医療のバリエーションと「共同意思決定」・バイアスの危険
	14			Andrew Farmery 教授(客)	コクランバイアス危険ツール・システマチックレビューの評価
	15			Andrew Farmery 教授(客)	メタ解析・医療政策と資源
	16			Andrew Farmery 教授(客)	英国医療制度・評価

(各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。)  
 ※担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。  
 ※また、具体的な授業日時については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

事前準備	事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。
------	----------------------------

テキスト	Trisha Greenhalgh: How to Read a Paper: The Basics of Evidence-Based Medicine Bjorn Andersen: Methodological Errors in Medical Research - an incomplete catalogue
------	--

参考書	講義で紹介。
-----	--------

評価方法	授業への参加、小テスト、最終日の提出物
------	---------------------

科目名	産業環境保健学概論			code : OEH 201	必修	1 単位
-----	-----------	--	--	----------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	木曜 5時限	授業方法	講義

到達目標	産業保健・環境保健を専門としない公衆衛生専門職が様々な形で関わることの多い、産業保健、環境保健について包括的認識を持つ。そのためにも、この分野の第一線級の経験を聞く。
------	---

授業の概要	産業医学の対象は5千万労働者であり、公衆衛生の個別領域としては最も大きな集団を対象とすることになる。50人以上の事業所全てに義務づけられた産業医制度をはじめ各種の職域健診制度により、産業医学は、それを専門としない者も含め多くの医師や公衆衛生専門職にとって学ぶ必要のある領域となった。そこで必ずしも産業医学を専門としない公衆衛生の実務家のために、基本的な産業保健の制度、法、組織および産業中毒学の概要を学ぶ必要がある。また、環境保健学とは、様々な環境中の有害要因による健康影響を制御して健康を保つことを目的としている。環境問題とそのマネジメントを俯瞰しつつ、環境からの有害影響別に対策とともに詳しく理解する必要がある。また、日本の経験である公害からも学び、公害健康被害補償法、発生源負担原則(PPP原則)や環境基本法と関連法令についても体系的に理解する必要がある。 後期の選択科目である産業保健学および環境保健学の基礎的部分について、各担当教官が包括的に解説する。
-------	--

回数	日付	時限	担当者	授業内容
2	4/16(木)	5	矢野 榮二 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	職場の因子による健康障害 事業場における有害因子と健康障害と対策
3	4/23(木)	5	矢野 榮二 教授 橋本 晴男 講師(非)	物理的有害因子__石綿 有害因子の中の物理的有害因子の一つ、石綿(アスベスト)と健康障害と対策
4	4/30(木)	5	原 邦夫 教授 吉川 徹 准教授(客)	自主対応型労働安全衛生活動 「職場ドック」など職場の良好事例に学ぶ取組み
5	5/7(木)	5	原 邦夫 教授 神山 宣彦 講師(非)	化学的有害因子__有機溶剤 有害因子の中の化学的有害因子の一つ、有機溶剤と健康障害と対策
6	5/14(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 榮二 教授	公害から環境問題 環境中の有害因子による健康障害の実例に学ぶ
7	5/21(木)	5	原 邦夫 教授 東川 麻子 講師(非)	リスク評価・管理 リスクアセスメントに基づくリスク管理方法について学ぶ
8	5/28(木)	5	矢野 榮二 教授 原 邦夫 教授	環境疫学 人を対象とした因果関係の研究である疫学の概要とその適用

事前準備	・中央災害防止協会の『労働衛生のしおり』の第三章・最近の労働衛生対策の展開の部分に事前に目を通して置く。
------	--

テキスト	・毎回授業開始時に資料として配布する。
------	---------------------

参考書	・中央災害防止協会. 労働衛生のしおり
-----	---------------------

評価方法	・レポートおよび試験
------	------------

科目名	環境保健学	code : OEH 211	選択	2 単位
-----	-------	----------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期	曜日・時限	木曜 5時限	授業方法	講義

到達目標	人間の健康と環境の関係を理解し、例を挙げて説明することができる。
------	----------------------------------

授業の概要	人は様々な環境からの影響を制御して健康を保っている。とくに産業革命以降は自ら作り出した有害な環境をも制御し、健康を維持せざるをえなくなっている。現在、地球自身の限界も踏まえた世界的な取り組みも進められている。環境保健学は、環境からの有害影響をその要因から理解し、対策を検討することを目的としている。環境リスク論をベースに環境保健学を理解し、環境問題とそのマネジメントを俯瞰しつつ、環境からの有害影響別に対策とともに詳しく理解することを狙いとする。また、日本の経験である公害からも学び、公害健康被害補償法、発生者負担原則(PPP原則)や環境基本法と関連法令についても体系的に理解することも狙いとする。
-------	---

回数	日付	時限	担当者	授業内容	
				回数	日付
1	9/17(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 榮二 教授	環境保健学とは	・環境有害因子と健康／・健康影響メカニズム／基準値／・疫学・毒性学・リスク学との関連
2	9/24(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 榮二 教授	リスク管理の考え方	・有害性特定・量反応関係評価・曝露評価・リスク判定・リスク管理・リスクコミュニケーション ・1983年の米国科学アカデミー／EPA白書 ・化審法／・良好事例(化学物質管理のCOSHH Essentialsなど)
3	10/1(木)	5	原 邦夫 教授 橋本 晴男 講師(非)	有害性の特定	・物理的・化学的・生物的・社会心理的な危険性・有害性 ・GHS(分類とラベル化)・SDS(ハザード・コミュニケーションツール)
4	10/8(木)	5	宮川 宗之 教授 矢野 榮二 教授	毒性学I	・国連GHS文書の分類基準と実際の分類作業の紹介 ・栄養と毒性／・摂取、分布、代謝、排泄； 解毒代謝／・PBPKモデル
5	10/15(木)	5	矢野 榮二 教授 橋本 晴男 講師(非)	毒性学II	・神経毒性(含発達神経毒性・生殖毒性)の評価(OECDガイダンス文書等に記載された生物試験法・行動試験の紹介)
6	10/22(木)	5	原 邦夫 教授 宮川 宗之 教授	曝露評価	・曝露とは何か 環境曝露と職業性ばく露、曝露の評価と測定／・大気汚染、室内汚染／・曝露評価モデル
7	10/29(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 榮二 教授	量反応関係評価	・量反応関係と疫学・動物実験 ・外挿法(Benchmark dose),安全係数,不確実係数,NOAEL,LOAEL
8	11/5(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 榮二 教授	環境疫学	・環境疫学の基本的事項の解説 ・環境疫学の適用例の紹介
9	11/12(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 榮二 教授	リスク判定__産業衛生学会・許容濃度委員会	・リスクの概念／・判定指標／・許容濃度、管理濃度など様々な基準
10	11/19(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 榮二 教授	リスクコミュニケーション	・ラベル化とSDS／・ファンリテーター論
11	11/26(木)	5	矢野 榮二 教授 神山 宣彦 講師(非)	物理的有害因子__石綿I	・戦後の最大規模の労災／・分析から対策まで
12	12/3(木)	5	矢野 榮二 教授 神山 宣彦 講師(非)	物理的有害因子__石綿II	
13	12/10(木)	5	矢野 榮二 教授 神山 宣彦 講師(非)	物理的有害因子__石綿III	
14	12/17(木)	5	原 邦夫 教授	一般環境管理論	・環境影響評価とその課題／・環境法体系、環境基準、排出基準、条例
15	12/24(木)	5	原 邦夫 教授	環境マネジメントシステム	・マネジメントシステムの規格化の流れ／・ISO規格／・環境アセスメント法 ・一般環境管理の実際、排ガス処理・管理__公害管理者／・環境計量士



事前 学習 準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森澤眞輔の「環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－」を事前に通読し、環境リスク管理の考え方を大まかに理解しておく。</li> </ul>
テキ スト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として講義資料を使用する。</li> </ul>
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森澤眞輔. 環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－、コロナ社、2011.</li> <li>・中西準子、他. 演習 環境リスクを計算する. 岩波書店、2003.</li> <li>・その他、講義の中で紹介する。</li> </ul>
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生割り当て部分の発表(レポート)と期末の試験による。</li> </ul>

科目名	産業保健学	code: OEH 221	選択	2 単位
-----	-------	---------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	木曜 1, 2時限	授業方法	講義

到達目標	産業医や産業看護師など労働衛生を専門とする者が、当該領域の経験や知識を体系化し、より高度な専門実務能力を身につける。とくに、職場巡視における視点を理解し、実際に適用できる能力を獲得する。
------	---

授業の概要	労働を取り巻く環境に対する社会の要求がより厳しくなるなか、事業者の期待に応えられるだけの高い能力を持った産業医・産業保健師等の必要性が高まっている、一方特に実務能力に関して高度な教育・訓練を受ける機会を提供できる機会は絶対的に不足している。そこでこうした社会的要請に応えられるだけの実践的な専門知識を持った産業医・産業保健師を育成するためのカリキュラムを提供する。具体的には、労働衛生関連法規並びに国の指針・通達についての専門的な知識と理解、労働衛生管理体制の確立、労働衛生マネジメントシステムの構築と運用、有害業務の自主的な管理の方法、健診の実施と事後措置、職場改善を含めた作業管理実務、より効果的な衛生教育の実施のための方法等を学び、選任産業医のみならず専属産業医としてはもちろん、労働衛生コンサルタントとしても活躍出来る人材、あるいは自立した産業保健活動ができる高度な産業保健師としての人材育成を目指す。
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/17(木)	1-2	原 邦夫 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	職場巡視の心得(労働安全衛生法の義務、マネジメント) チェックリストエクササイズ:WISE方式について
	2	9/24(木)	1-2	原 邦夫 教授 東川 麻子 講師(非)	職場現場巡視。従業員面談
	3	10/1(木)	1-2	矢野 榮二 教授 小木 和孝 教授(客) 東川 麻子 講師(非)	産業医の実務について 安全衛生のこれからについて
	4	10/8(木)	1-2	原 邦夫 教授 東川 麻子 講師(非)	職場現場巡視。従業員面談
	5	10/15(木)	1-2	原 邦夫 教授 吉川 徹 准教授(客) 杉澤 誠祐 講師(非)	職場ドッグについて・労働安全法令による組織運営・取組みについて グループディスカッション
	6	10/22(木)	1-2	原 邦夫 教授 東川 麻子 講師(非)	職場現場巡視。従業員面談
	7	10/29(木)	1-2	矢野 榮二 教授 原 邦夫 教授 東川 麻子 講師(非)	産業医の実務について・労働安全衛生マネジメントシステムについて グループディスカッション
	8	11/5(木)	2	矢野 榮二 教授 原 邦夫 教授	全体討論。成果のまとめ発表
※授業計画:講義とグループワーク、討論を適宜組み合わせる。(①②などは教科書の予習すべき章を示す。)					

事前準備	・中央災害防止協会の「労働衛生のしおり」を事前に読んでおく。
------	--------------------------------

テキスト	・毎回授業開始時に資料として配布。
------	-------------------

参考書	・中央災害防止協会. 労働衛生のしおり.
-----	----------------------

評価方法	・試験6割、自らの経験の発表3割、他者の発表への批判的検討1割。
------	----------------------------------

科目名：	<b>産業中毒学</b>	code：OEH 231	選択	2単位
------	--------------	--------------	----	-----

科目責任者	矢野 栄二 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 3,4時限	授業方法	講義

到達目標	産業有害因子による健康障害を系統的に学ぶことで、健康障害を環境因子との関係で考えられるようになる。様々な作業環境についてそこにおける健康障害を想起、診断する能力を身につけるとともに、その管理を行えるようになる。
------	---

授業の概要	産業現場でひとが有害要因に曝露することにより特異的、非特異的な健康障害がひき起こされることがある。このコースでは代表的な産業有害要因について現場での曝露態様、管理、規制および新規の問題の発見と研究について考える。受講にあたっては一定の基礎知識と能力および毎回の事前準備が必要であるので、履修しようとする者は科目責任者と事前の話し合いを持つこと。
-------	--

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/16(水)	3	矢野 栄二 教授	許容濃度、管理濃度、IARC発がん分類
		4		
2	9/30(水)	3	橋本 晴男 講師(非)	環境因子による健康障害の評価と管理
		4	杉澤 誠祐 講師(非)	
3	10/7(水)	3	矢野 栄二 教授	現場見学(日産横浜工場を予定)
		4		
4	10/14(水)	3	矢野 栄二 教授	金属、発がん物質
		4		
5	10/21(水)	3	熊谷 信二 講師(非)	石綿工場周辺住民の中皮腫
		4		
6	10/28(水)	4	宮川 宗之 教授	生殖毒性
		5		
7	11/4(水)	3	村田 勝敬 講師(非)	ベンチマークドース
		4		
8	11/11(水)	3	矢野 栄二 教授	まとめ

事前学習準備	講義前週に事前学習の指示
--------	--------------

テキスト	・中央災害防止協会. 労働衛生のしおり.
------	----------------------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央災害防止協会. 目で見える職業病と労働環境</li> <li>・Peter J Baxter, et al.. Hunter's Disease of Occupations. Hodder Arnold.</li> <li>・William A. Burgess Recognition of Health Hazards in Industry: A Review of Materials Processes1995/1/9 Wiley-Interscience</li> <li>・Barry S. Levy, David H. Wegman, Sherry L. Baron, and Rosemary K. Sokas Occupational and Environmental Health: Recognizing and Preventing Disease and Injury; Sixth edition. Oxford University Press</li> <li>・Curtis Klaassen John B. Watkins III Casarett &amp; Doull's Essentials of Toxicology, Second Edition McGraw-Hill Professional</li> </ul>
-----	--

評価方法	・講義の課題、各自の事前学習内容の呈示、および講義中の討論による。
------	-----------------------------------

科目名	産業環境保健学実習		code : OEH 351	選択	1 単位
-----	-----------	--	----------------	----	------

科目責任者	矢野 栄二 教授					
配当年次	1・2年次	配当学期	夏期(8又は9月)	曜日・時限	(個別設定)	授業方法
						実習

到達目標	産業環境保健学概論の講義で学んだ成果を活かす場として実際の現場を巡視する。現場の巡視を通して、環境を評価・改善するための視点を獲得する。
------	--

授業の概要	企業内で、あらかじめ設定された騒音・粉じん・暑熱等の有害な環境を実際に巡視し、必要に応じて改善の方法等を検討する。
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	8/3(月)	1	矢野 栄二 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	総論 有害作業と健康障害についての説明を行う。
2	8/3(月)	2,3,4	矢野 栄二 教授 原 邦夫 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	宇都宮清原工業団地内のA工場での職場巡視	
A工場の課題・対策についてグループディスカッション					
3					
4	8/4(火)	1,2,3	矢野 栄二 教授 原 邦夫 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	宇都宮清原工業団地内のB工場での職場巡視	
A工場の課題・対策についてグループディスカッション					
6					
7	8/4(火)	4	矢野 栄二 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	総括	
8	8/31(月)	1	原 邦夫 教授 矢野 栄二 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	職場巡視工場についてのグループディスカッション	
9	8/31(月)	2			
10	8/31(月)	3			
11	8/31(月)	4			
12	9/1(火)	1	原 邦夫 教授 矢野 栄二 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	職場巡視工場についてのグループ発表と報告書作成	
13	9/1(火)	2			
14	9/1(火)	3			
15	9/1(火)	4			

※尚、授業日時については、夏期休業前に本科目履修希望者と指導教員にて個別に設定する。

事前準備	・中央災害防止協会の「労働衛生のしおり」の作業環境管理の章を事前に読んでおく。
------	---

テキスト	・原則として講義資料を使用する。
------	------------------

参考書	・中央災害防止協会. 労働衛生のしおり
-----	---------------------

評価方法	・実習中の主体的な学習態度と終了までにまとめるレポートで評価。
------	---------------------------------

科目名:	<b>特別講義(産業環境保健学)</b> (※1)	code: (※1) OEH 401~403	選択	1 単位
------	---------------------------	---------------------------	----	------

科目責任者	David Christiani客員教授(※)
-------	-------------------------

配当年次	1・2年次	配当学期	冬季(1月)	曜日・時限	後日通知	授業方法	集中講義
------	-------	------	--------	-------	------	------	------

到達目標	<p>環境要因への曝露と健康影響の分析を中心に学ぶ。主要な到達目標のひとつは介入可能な環境因子がいかに公衆衛生にとって重要かを学ぶことである。このコースを履修することにより学生は環境要因と疾病の関係を評価するための通常の分析機器や手法を理解し結果を考察できるようになる。さらに環境要因と疾病の関連を量的に評価するための手法を理解することで、学生は公衆衛生施策を立案するに当たりエビデンスに基づく意思決定ができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場の特定の有害物質への曝露で発生した疾患の診断と医療について述べるができる。また、石綿、鉛、発がん物質、反復動作等によく見られる有害要因について説明できる。</li> <li>・化学物質や有害要因の器官系への初期の影響についての調査やスクリーニングの方法について、説明できる。</li> <li>・損傷や障害の程度評価の方法について説明できる。</li> <li>・職業保健の政治的側面について、概略を考える。</li> </ul>
------	---

授業の概要	<p>通常の米国の大学院の授業がそうであるように、予習を重視し、教室では単なる知識付与というより、事例を基にした討論を行う。できれば産業現場での自験例を持ちよってほしい。 (※1)年度により開講内容が異なる場合があり、I～IIIのいずれかを開講する。</p>
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1			David Christiani 教授(客)	産業環境保健の歴史
	2			David Christiani 教授(客)	スクリーニングと調査の基本
	3			David Christiani 教授(客)	発がん
	4			David Christiani 教授(客)	慢性損傷
	5		後日通知	David Christiani 教授(客)	じん肺(1)
	6			David Christiani 教授(客)	じん肺(2): ILO方式、呼吸機能検査の実際
	7			David Christiani 教授(客)	その他の職業性呼吸器疾患
	8			David Christiani 教授(客)	重金属、有機溶剤、化学物質損傷の緊急処置

(各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。)

※担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。

※また、具体的な授業日時については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

事前学習準備	事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開されるので授業前に教材を読んでおくこと。
--------	--

テキスト	Occupational and Environmental Health: Recognizing and Preventing Disease and Injury; Sixth edition. Barry S. Levy, David H. Wegman, Sherry L. Baron, and Rosemary K. Sokas.
------	--

参考書	各講義のText Chapterに対応する内容の日本語の教科書を読んでおくことは有用かもしれない。
-----	---

評価方法	8回の講義終了後に試験を行うが、講義への参加も評価に加える。
------	--------------------------------

科目名	医学基礎・臨床医学入門	code : OEH 351	必修(*)	2 単位
-----	-------------	----------------	-------	------

科目責任者	竹内 武昭 講師						
配当年次	1年次	配当学期	前期	曜日・時限	月曜 1、2時限	授業方法	講義

到達目標	公衆衛生の実務者となるうえで必要とされる医学的知識を包括的に理解すること、基本的な疾患の病因・病態を理解することを到達目標とする。
------	---

授業の概要	<p>臨床医学の入門となる必須事項を適切に理解するための講義をする。医療系出身者以外の学生への配慮から、まず人体の構造と機能について理解するため、細胞レベルから臓器レベルに至るまでの解剖学、生化学、生理学など基礎医学全般を学ぶ。そうした基礎医学の学習の中で「病気」と「健康」を分ける根拠は何であるか、個人と集団それぞれの見地からアプローチする。臨床医学は、消化器、循環器、呼吸器、腎・泌尿器、神経・筋、内分泌・代謝、メンタルヘルス、免疫・アレルギー、感染症、血液、悪性新生物、中毒の各分野に分け、各種疾患を理解するための基本的事項を中心として、病気の成り立ちを理解するため重要な病態生理、病気の診断に必要な各種検査の原理や意義、最新の治療技術などについて学ぶ。理解を助けるためにビデオ学習を積極的に取り入れる。</p> <p>*:非医療系の学生のみ必修</p>
-------	--

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/13(月)	1	竹内 武昭 講師	医学の定義・歴史
2	4/13(月)	2	竹内 武昭 講師	医の倫理
3	4/20(月)	1	顧 艶紅 講師	メタボリックシンドローム・健康増進
4	4/20(月)	2	顧 艶紅 講師	人口統計と疾病の変化
5	4/27(月)	1	高橋 謙造 准教授	人体の構成
6	4/27(月)	2	高橋 謙造 准教授	人体の構造と機能:骨・筋肉
7	5/1(金)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能:呼吸器系
8	5/1(金)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学:呼吸器疾患・中毒性疾患
9	5/11(月)	1	中田 義規 教授	人体の構造と機能:循環器系
10	5/11(月)	2	中田 義規 教授	臨床医学:循環器系疾患
11	5/18(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能:消化器系
12	5/18(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学:消化器系疾患
13	5/25(月)	1	高橋 謙造 准教授	主要症状
14	5/25(月)	2	高橋 謙造 准教授	主要症状
15	6/1(月)	1	竹内 武昭 講師	人体の構造と機能:神経系
16	6/1(月)	2	竹内 武昭 講師	臨床医学:神経筋疾患・運動器疾患
17	6/8(月)	1	高橋 謙造 准教授	人体の構造と機能:生殖器系
18	6/8(月)	2	高橋 謙造 准教授	臨床医学:婦人科疾患・小児疾患
19	6/15(月)	1	高橋 謙造 准教授	人体の構造と機能:皮膚・感覚器系
20	6/15(月)	2	高橋 謙造 准教授	臨床医学:皮膚疾患・眼疾患・耳鼻科疾患
21	6/22(月)	1	竹内 武昭 講師	人体の構造と機能:血液、臨床医学:血液・造血器疾患
22	6/22(月)	2	竹内 武昭 講師	臨床医学:感染症

授業計画	23	7/6(月)	1	中尾 睦宏 教授	臨床医学:精神疾患
	24	7/6(月)	2	中尾 睦宏 教授	臨床医学:精神疾患
	25	7/13(月)	1	内田 俊也 教授	人体の構造と機能:泌尿器系・内分泌系
	26	7/13(月)	2	内田 俊也 教授	臨床医学:代謝内分泌疾患・腎泌尿器疾患
	27	7/23(木)	1	顧 艶紅 講師	臨床医学:アレルギー疾患・遺伝病
	28	7/23(木)	2	顧 艶紅 講師	臨床医学:母子保健
	29	7/27(月)	1	竹内 武昭 講師	まとめ・テスト
	30	7/27(月)	2	竹内 武昭 講師	まとめ・テスト
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの各項目と事前配布資料(ある場合)を講義前に必ず熟読してくること。</li> </ul>				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学概論(コメディカルのための専門基礎分野テキスト)[単行本]北村 諭(著) 出版社: 中外医学社; 5版</li> </ul>				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適時、講義時に紹介する。</li> </ul>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の課題、試験、課題レポートの提出状況を総合的に評価して判定する。</li> </ul>				

科目名	公衆衛生倫理学	code : ID 201	必修	1 単位
-----	---------	---------------	----	------

科目責任者	中尾 睦宏 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	水曜 4時限	授業方法	講義

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健医療の現場において意思決定を行う際に必要な医療倫理の基本的な知識・考え方を身に付ける。</li> <li>倫理的観点から対応が困難と想定される事例において、自分の考えを述べることができる。</li> </ul>
------	--

授業の概要	<p>公衆衛生領域の政策決定や臨床現場で必要となる倫理的判断の基礎について学ぶ。ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言といった生命倫理と医の倫理に関する規範の意味やその歴史的流れをふまえながら、患者の基本的権利について理解する。真実の告知、インフォームド・コンセント、パターナリズム、死の受容、安楽死、尊厳死などの具体的問題に対して、事例を通じた討論を行う。さらに医師法や医療法といった関連する医事法制を整理し、守秘義務、応召義務、医学的無益性、医療資源の配分、メタ倫理といった様々な倫理的問題についても学ぶ。</p>
-------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/8(水)	4	中尾 睦宏 教授	医療・公衆衛生倫理学総論 医療倫理に関する歴史的背景を中心に、概略について学ぶ。
2	4/15(水)	4	瀧本 禎之 講師(非)	医療従事者・患者関係 医療従事者が患者関係を築く上で必要となる基本的事項について学ぶ。	
3	4/22(水)	4	竹内 武昭 講師	終末期医療 終末期医療(安楽死、尊厳死を含む)の現状を学ぶとともに、医学的無益性や医療資源の配分といった観点を含めて検討し、その問題点について討論する。	
4	5/8(金)	4	中尾 睦宏 教授	公衆衛生倫理学の実際 医学的研究を行うに当たって必要な倫理的知識、具体的な倫理申請の手続きなどについて学ぶ。	
5	5/13(水)	4	瀧本 禎之 講師(非)	インフォームド・コンセント 患者の権利、インフォームドコンセントについて、その歴史的背景、法的根拠などについて学ぶ。	
6	5/20(水)	4	瀧本 禎之 講師(非)	ケース・アプローチ 臨床現場で遭遇する具体的な倫理的問題を分析する手法を学ぶ。	
7	5/27(水)	4	井上まり子 講師	公衆衛生倫理(1) 公衆衛生倫理学の沿革、主要な倫理的課題、アプローチ方法について学ぶ。	
8	6/3(水)	4	井上まり子 講師	公衆衛生倫理(2) パターナリズム、正義など主要な考え方の整理を行い、ケーススタディを用いて討論する。	

事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。</li> </ul>
------	--

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定のテキストは設けない。必要に応じて資料を配布する。</li> </ul>
------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に指定なし。</li> </ul>
-----	---

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記到達目標を確認するレポートやディスカッションを課す。講義の課題、レポートやディスカッションの内容を総合的に評価する。</li> </ul>
------	--



科目名	課題研究	code : ID 500	必修	6 単位
-----	------	---------------	----	------

科目責任者	各指導教員						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期・後期	曜日・時限	金曜 1-5時限	授業方法	演習・実習

到達目標	<p>国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して、各々の専門領域で指導的立場で問題解決型の対処ができる、すなわち現場での実践に資する高度専門職業人養成の集大成として課題研究を行う。</p> <p>到達目標は、講義・演習科目を通じて学んだ知識の体系化を図ることにある。すなわち、各人材養成像に沿ったコースワークの後半期間を用いて、より専門的・実務的な研究課題として取り組み、学んだ知識を実践の場に還元できる能力を身に付けるものである。この高度専門職業人に資する実務適応能力を身に付けるため、プラクティカルな要素が有効であると考え、課題研究の期間内に学習手段の一つとして短期間の現場実習、現場見学、専門家(指導教員)との協働、フィールドワーク、シミュレーションワーク等を含めるものとする。</p>
------	---

授業の概要	<p>特定の課題について個別に研究の実践、指導を行い、現地でのフィールドワーク、調査、情報収集、分析等を経て研究報告書を作成する。実習先での現場実習や現場見学を含む場合には実習報告書を提出する。課題研究を指導する教員(学内)・指導者(学外)を定め、受講生は研究指導を受ける。</p>
-------	---

回数	日付	時限	担当者	授業内容
<p>授業計画欄に記載のある分野別のテーマ毎に研究指導教員と学生間にて授業日程(指導日程)を個別に設定する。</p> <p>課題研究に関する中間報告会と最終報告会を実施し、報告内容を専任教員が評価を行う。</p> <p>○オリエンテーション : 平成27年4月6日</p> <p>○合同ガイダンス : 平成27年4月16日</p> <p>○課題研究テーマ提出 : 平成27年7月6日-10日(予定)</p> <p>○研究計画・中間報告会 : 平成27年7月30日(予定)</p> <p>○中間報告会 : 平成27年10月8日(予定)</p> <p>○最終報告会 : 平成27年12月17日(予定)</p> <p>(上記日程に関しての詳細は別途指示)</p>				

事前準備	<p>・各指導教員より指示あり</p>
------	---------------------

テキスト	<p>・特に定めなし・各指導教員より指示あり</p>
------	----------------------------

参考書	<p>・各指導教員より指示あり</p>
-----	---------------------

評価方法	<p>・各研究課題に関する報告会で専任教員による審査による。外部での実習・現場調査を含む場合は報告書と受け入れ先の評価結果も審査の対象となる。</p>
------	---

#### 授業計画(分野別)

【疫学・臨床疫学の課題研究/指導教員: 矢野栄二・福田吉治・大脇和浩(非常勤講師)・顧艶紅・桑原 恵介】

講義・演習で学んだ臨床疫学研究の知識を用い、関心のあるテーマで研究を行う。実際にPubMedやコクランライブラリーを用いて、系統的レビューを行い、研究仮説を立てる。研究対象は自分の持つデータから厚生労働省統計局ホームページで入手できる二次データまで広範囲に扱い、データセットを作成するという実務と同様の作業を経験する。統計学的な処理・結果の解釈を加えたのちに研究報告書としてまとめる。従って、本課題研究では研究報告書と作成したデータセットをその研究成果とする。

尚、本課題研究は、臨床疫学専門家を志す学生を対象とする。

## 授業計画(分野別)

### 【生物統計学の課題研究/指導教員:山岡和枝・松浦正明・根本明日香】

講義・演習で学んだ生物統計の知識を用い、臨床研究等、医薬分野のテーマについて、研究計画・解析計画をたて、データを収集し、データの特性に応じた要約、解析を行い、報告書としてまとめるまでの一連の研究を行う。

課題においては、解析は統計ソフトを用いて行う。自分で収集したデータを課題研究対象とする。一連の解析結果を発表し、質疑応答の結果をふまえ、統計解析報告書を作成する。データ解析の内容及びそれぞれのテーマに応じ作成した統計解析報告書をもとに研究報告書を作成する。従って、本課題研究では研究報告書と統計解析報告書(解析結果)をその研究成果とする。研究解析報告書を作成するまでの一連の過程は、臨床試験に係わる実務家(臨床試験統括医師、臨床試験看護師、解析実務家)が理解し報告書作成の技能を修得することが必要であるが、一方で臨床試験におけるそれぞれの職能に応じた役割・責任や、他職能との連携の重要性についても作業プロセスを通じて身に付ける。

### 【行動科学・健康教育学の課題研究/指導教員:中尾睦宏】

講義・演習で学んだ行動科学・健康教育の知識を用い、下記のような現実に発生している問題(テーマ)に対して実際の情報・活動に触れながら研究を行う。

行動科学系テーマ:日本の自殺予防対策の現状と将来戦略

日本では1997年より自殺者数が年間3万人を超える状況が続いており、その対策は公衆衛生的に重要な問題となっている。国立精神神経センターにある自殺予防総合対策センターでは地域での取り組みや医療機関での取り組みについて情報の収集・分析をしているので、その活動に参加して課題研究(実習を含む)を行う。従って、本課題研究では研究報告書(実習報告書も含む)をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、行動科学・健康教育の専門家(メンタルヘルス)を志す学生を対象とする。

健康教育学系テーマ:労働者の健康教育とメンタルヘルス

変化が激しい社会経済状況の下、職域では多様化する雇用・就労形態、過重労働による健康影響、メンタルヘルスの問題の急増など労働者の就労環境は厳しさを増している。横浜労災病院にある勤労者メンタルヘルスセンターでは同病院の心療内科と提携して、労働者のメンタルヘルス相談や生活習慣指導、予防医学的なストレスマネジメントなどに積極的に取り組んでいる。その活動に参加して課題研究(実習を含む)を行う。従って、本課題研究では研究報告書(実習報告書も含む)をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、行動科学・健康教育の専門家(職場のメンタルヘルス、生活習慣指導)を志す学生を対象とする。

### 【行動科学・健康教育学の課題研究/指導教員:竹内武昭】

講義・演習で学んだ行動科学・健康教育の知識を用い、生活習慣と行動変容をテーマとした研究を行う。

日本人の3大死因(がん、心臓病、脳血管疾患)、さらに、精神疾患(うつ病、睡眠障害など)にも長年の生活習慣が深く影響している。これらの生活習慣病は予防可能とされる一方、実際の対応策は難しいとされている。病院、職域、学校などで実際に生活習慣病の予防と治療に従事している専門家の活動(指導教員の本学付属病院における実際の取り組み)を通して、生活習慣と行動変容の関係を深く学ぶ。従って、本課題研究では研究報告書をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、行動科学・健康教育の専門家(メンタルヘルス、生活習慣予防)を志す学生を対象とする。

### 【終末期医療の課題研究/指導教員:中尾睦宏】

講義・演習で学んだ行動科学・健康教育の知識を用い、主に末期がん患者の在宅ケアを中心課題とした課題研究を行う。具体的には、緩和ケアクリニック(医療法人社団バリアンクリニック川越)での実習を通じて、外来診療、訪問診療、他職種との連携の実際を学ぶ。その具体的な目標は、バリアンにおける先進的な在宅医療、ホスピスケアに触れることにより、これからの臨床医としての基盤を作ることである。

在宅医療としては、在宅で実施可能な医療の内容、具体的な施行方法や問題点を学ぶことが目標であり、ホスピス・緩和ケアとしては、家族ケア、トータルケアの概念、特にスピリチュアルケアについての洞察を深め、グリーフケア、地域への啓発活動などを学ぶ。とりわけ、地域におけるチームアプローチ、いわゆるInterdisciplinary Team Approachの実際を他職種の専門家と協働して学ぶことも大きな目標である。短期間で多くの課題を学ぶことになるが、研修を受ける者の将来の専門領域がより深まるよう、課題を持って研修できるようなプログラムを準備している。従って、本課題研究では研究報告書(実習報告書も含む)をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、行動科学・健康教育の専門家(がん終末期医療)を志す学生を対象とする。

### 【社会疫学の課題研究/指導教員:福田吉治・井上まり子】

講義・演習で学んだ社会疫学の知識を用い、健康の社会的格差とその縮小ならびに公衆衛生の向上を課題とした研究を行う。特に、(1)健康の社会的格差の状況と背景の把握ならびに機序の解明を基にした政策の立案・実施・評価、(2)非正規雇用者、高齢者、一人親家庭等の個別集団の健康問題とその解決、(3)健康の地域格差に関連する医療・保健等のヘルスキアの質的および量的評価に基づく政策立案、(4)健康の社会的格差を縮小させるための行動経済学の応用、などを個別テーマとする。本研究課題では、エビデンスの蓄積だけでなく、具体的な政策立案から評価までの過程を含めた研究報告書を研究成果とする。

尚、本課題研究は、医療、地域保健、産業保健等を含む保健行政と実務の専門家を志す学生を対象とする。

## 授業計画(分野別)

### 【医療管理学の課題研究/指導教員:中田善規】

講義・演習で学んだ医療管理や医療経済、医療経営の知識を用い、帝京大学医学部附属病院での実習を通じて、管理経営者が日常直面する医療管理上の問題点を実際に体験し、その解決策を優先順位を付けて提案できる能力を身につけることを目標とする。さらにその解決策のコストとベネフィットを理解し、組織運営上の最適解を決定し、その具体的な実行方法まで踏み込んで考えられるようにする。こうした経営分析手法の科学的根拠となるのは、医療経済学の講義で学んだマイクロ経済学や医療管理学の講義で学んだ組織行動学などが中心となる。こうした病院管理者の活動に参加して課題研究を行う。従って、本課題研究では研究報告書(実習報告書も含む)をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、医療管理(医療経営、コメディカル部門管理、病院事務管理)の専門家を志す学生を対象とする。

### 【保健行政の課題研究/指導教員:山本秀樹・井口直樹】

講義で学んだ保健医療政策の知識を用い、世界的に急速に高齢化が進展しつつある我が国が直面する高齢者の医療制度、介護保険制度の政策の基礎情報の分析を通じて課題研究を行う。指導教員がこれまでの研究事業で実施してきた協力施設と連携して、施設ケアの質の評価となるQI(Quality Index)のデータ収集や国民生活基礎調査等の公的データを利用した分析と政策研究の実務経験を織り交ぜながら研究を行う。従って、本課題研究では研究報告書をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、保健行政の専門家を志す学生を対象とする。

### 【国際保健の課題研究/指導教員:高橋謙造・井上まり子】

講義・演習で学んだ国際保健の知識を用い、受講生のバックグラウンド(経歴・資格)に応じて公衆衛生に関連した、課題研究・実務研修(インターンシップ)を実施する。

国際保健の業務上生じる課題解決能力の向上を図るために、特定のテーマの元に、文献や二次データを活用した研究や、連携研究機関(タイ国・チュラロンコン大学、コンケン大学、インドネシア・バンダアチエ大学、スリランカ・国立保健科学院、バングラデシュ・バングラデシュ工科大学、バングラデシュ国際下痢研究所(ICDDR-B)、ザンビア大学、タンザニア・ムヒンビリ大学等)と協力して現地研究調査を行い(例:気候変動と健康影響、津波・洪水災害復興調査など)、研究報告書を作成する。なお、国際保健での実務経験を積む必要のある受講生については、課題研究期間中に国際協力機関等での受け入れ研修を検討する。現地での実務経験の内容をベースに研究報告書を作成し、それを成果とする。

尚、本課題研究は、国際保健の専門家を志す学生を対象とする。

### 【地域保健学の課題研究/指導教員:高橋謙造】

講義・演習で学んだ、実践において生じた疑問や仮説に対して行うPractice based researchの方法論を用いて、(保健、福祉などを含む広義の)地域医療の現場で発生している臨床あるいは社会医学的テーマについての研究を行う。そのことにより、学習者が将来業務を行う中での研究テーマに気づき、それについての解明を現場で自らが行え、その成果を情報発信する能力を取得することを目指す。また、Practicebased researchは研究の端緒から主体的に行えることから、研究における自己研鑽能力を涵養することも主眼とする。

研究テーマは、本来的には学生自身がこれまでの経験から得られた研究仮説・疑問を基に学生自身のデータに対して行う。しかしながら、当課題研究においては、①実践を通じて得られた疑問や仮説を、2次的データを使用して解明する、②指導教員との討論のもとに、提供するデータについての疑問や仮説を主体に作成し解明する、これらのタイプの研究も含める。

本課題研究は、将来においても主体的にPractice based researchを実践する地域保健の専門家たる志を持つ学生を対象とする

### 【医療情報の課題研究/指導教員:中田善規】

講義・演習で学んだ医療管理や医療経済、医療経営の知識を用い、大規模病院における電子カルテの導入効果や検討課題等について実際の医療現場での調査を通じて課題研究を行う。

2006年の「IT新改革戦略」の中で、「電子カルテやオーダーリングシステムを2010年度までに200床以上の医療機関のほとんどに導入する」などと記載されているものの、その達成は既に絶望的である。帝京大学付属病院でも今まで何度も電子カルテ化を計画したものの、各種オーダーリングシステムの導入のみに留まっていた。しかし今回、新病院への移行に伴い、電子カルテの導入に成功している。そこで、今回の電子カルテへの移行にかかわった職員や実際に電子カルテに接する医師・コメディカル等に対して、移行前後での問題点や意識・行動の変化、医療の現場での効用や経済効果を調査解析し、今後の大規模病院の電子カルテ化に資するような情報を研究報告書としてまとめる。従って、本課題研究では研究報告書をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、医療管理(医療情報システム)の専門家を志す学生を対象とする。

## 授業計画(分野別)

### 【環境衛生の課題研究/指導教員:矢野榮二・原邦夫】

講義や実習で学んだ環境衛生の知識や技術を用い、既に基礎となるデータが一定ある下記の3領域のテーマの中から選択し、関連論文検索・レビュー、研究仮説設定、データ解析、結果をとりまとめ、研究報告書を作成する。従って、本課題研究では研究報告書をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、環境衛生の専門家(作業環境測定士受験希望者も対象)を志す学生を対象とする。

#### 1) 大気汚染物質の動態・大気汚染の健康影響

国内もしくはタイ・バンコクにおける大気汚染測定データを用いて汚染物質の濃度と変動に影響を与える要因を解析する。また行政的な保健衛生統計や医療機関のデータを用いて、大気汚染との関係を調べる。可能であれば現地での環境測定や健康影響調査にも参加する。

#### 2) 産業有害物質の健康影響

国内鉛取り扱い作業場の作業環境測定データと健診データまたは中国石綿取り扱い工場の作業環境測定データと作業者の長期の死因観察データとの関連を調べる。可能であれば現地の調査にも参加する。

#### 3) 事業所の健康管理データ

10年以上の長期に観察されている事業所の健康診断データを経時的に観察し、労働者の就業・雇用状況と生活習慣の影響を、年齢、コホート、時代モデルを用いて解析する。

### 【産業保健の課題研究/指導教員:矢野榮二・原邦夫】

講義や実習で学んだ産業保健の知識や技術を用い、指導教員と相談し個別にテーマ設定し課題研究を行い研究報告書としてまとめる。また、希望者に対しては、企業の工場内の労働衛生管理・産業保健担当部署における実際の作業現場で実務を見学、可能な範囲で自ら参画し、現場における実務を経験・学習する。従って、本課題研究では研究報告書(実習参加者は実習報告書も含む)をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、産業保健の専門家(労働衛生コンサルタント受験希望者も対象)を志す学生を対象とする。

### 【災害復興特別課題研究/指導教員:帝京大学石巻研究班(矢野榮二他)・武藤真祐(非常勤講師)】

東日本大震災で最も人的被害の大きかった、宮城県石巻市において在宅医療施設を開業している祐クリニックおよび石巻医療圏・健康生活復興協議会(RCI)と協力して、被災者の健康問題の調査、地域の復興等の諸問題について調査研究活動に参加し、その中で研究課題を見つけ調査研究としてまとめる。

## 調査・研究法概論

科目責任者：高橋謙造、井上まり子

配当学期：前期

曜日、時間：水、木（暫定） 昼休み

本講においては、MPH 取得の上で是非身に付けておくべき、調査・研究法の基礎（情報の入手・管理法、情報の分析法、情報の表出法：output）について習得することを目的とする。加えて、本学の特徴である、問題解決型アプローチの実例についても紹介する。効率的かつ確実な業務・研究の取り回しは、仕事の成果を左右する。このような理解の上に、幅広い視点から調査・研究法の基礎を学び、実践できることを目標とする。

1. 問題解決型アプローチの実践例-日々の疑問を調査・研究につなげる-：-高橋謙造准教授、井上まり子講師
2. ファイルの行方不明をなくす-ファイル名管理法 -高橋謙造准教授-
3. 文献検索と英文を効率よく読む方法 -井上まり子講師-
4. 論文管理データベースと Journal Alert 登録 -高橋謙造准教授-
5. 倫理審査の心得、手順 -中尾 睦宏教授、竹内武昭講師-
6. 質問票とスケールの基礎 -竹内武昭講師-
7. 質問票調査の手順（サンプリング・サイズ決定、サンプリング法、フィールドとの交渉法）-高橋謙造、桑原恵介助教-
8. 入力：Excel シートのデザイン、ダブル・エントリーと代替法、データクリーニング -高橋謙造准教授-
9. Excel 活用法（関数、ピボットテーブルなど） -高橋謙造准教授-
10. Academic Writing Method1：Thesis statement -高橋謙造准教授-
11. Academic Writing Method2：Synthesizing an manuscript -井上まり子講師-
12. 英文による CV の書き方、自己アピール法 -山村朋子助手-

平成27年度 公衆衛生学研究科 履修届

専門職学位課程

提出日 平成 年 月 日

学籍番号

アカデミックアドバイザー

学生氏名

Ⓔ

職位

氏名

Ⓔ

	分野名	Code	number	科目名	単位数	登録	登録単位	特記事項
必修科目	疫学	EPI	201	疫学概論	4		0	
	生物統計学	BIO	201	基礎生物統計学	4		0	
	社会行動科学	HBS	201	健康行動科学概論	2		0	
	保健行政・医療管理学	HPM	201	保健医療政策概論	2		0	選択必修
		HPM	202	医療管理学・安全管理学概論	2		0	選択必修
	産業環境保健学	OEH	201	産業環境保健学概論	1		0	
	共通	ID	101	医学基礎・臨床医学入門	2		0	
ID		201	公衆衛生倫理学	1		0		
ID		500	課題研究	6		0		
選択科目	疫学	EPI	221	臨床疫学概論	4		0	
		EPI	301	スタディクリティーク	2		0	
		EPI	241	質的研究	2		0	
		EPI	401~403	特別講義(疫学)	1		0	I~IIIいずれかを開講
	生物統計学	BIO	211	応用生物統計学	2		0	
		BIO	301	データ解析演習	2		0	
		BIO	221	臨床試験概論	2		0	
		BIO	311	臨床試験演習	1		0	
	社会行動科学	BIO	401~403	特別講義(生物統計学)	1		0	I~IIIいずれかを開講
		HBS	211	健康教育学	1		0	
		HBS	301	医療コミュニケーション学/健康行動科学演習	1		0	
		HBS	310	終末期医療実習	1		0	
		HBS	212	社会疫学	1		0	
	保健行政・医療管理学	HBS	401~403	特別講義(行動科学)	1		0	I~IIIいずれかを開講
		HPM-BIZ	211	医療経済学	2		0	
		HPM-BIZ	212	医療保障政策論	2		0	
		HPM-BIZ	301	医療経営学演習	2		0	
		HPM-INF	221	医療情報学概論	2		0	本年度は開講なし
		HPM-INF	321	医療情報学演習	1		0	
		HPM-BIZ	351	医療管理学実習	1		0	
		HPM-BIZ	211	リーダーシップ・マネジメント論	1		0	
		HPM-CH	221	地域保健学	2		0	
		HPM-CH	361	地域保健学実習	1		0	
		HPM-GH	231	国際保健概論	2		0	
		HPM-GH	321	国際保健学演習	2		0	
HPM-GH		371	国際保健実習	1		0		
産業環境保健学	HPM	401~403	特別講義(保健医療政策学)	1		0	I~IIIいずれかを開講	
	OEH	211	環境保健学	2		0		
	OEH	221	産業保健学	2		0		
	OEH	231	産業中毒学	2		0		
	OEH	351	産業環境保健学実習	1		0		
OEH	401~403	特別講義(産業環境保健学)	1		0	I~IIIいずれかを開講		

※提出は4月21日までとします。

総単位数 0

※選択必修科目について

「保健医療政策概論」、「医療管理学・安全管理学概論」についてはどちらかを必ず選択のこと。

※「医学基礎・臨床医学入門」(2単位)について

医療系学部の出身者については、受講は必要ありません。但し、履修届とともに単位認定申請書を提出してください。

理事長・学長	常務理事・副学長

研究科長

## 単位認定申請書(願)

平成 年 月 日

帝京大学長 殿

学籍番号

学生氏名 印

アカデミックアドバイザー

教員名 印

大学院学則、第14条の2により、下記科目の単位認定を申請いたします。

記

共通科目 「医学基礎・臨床医学入門」 2単位

取得資格

以上

※大学院学則第14条の2 指導教授が教育上有益と認めるときは、研究科委員会の議を経て、入学する前に他の大学院等において修得した単位について、入学後の当該研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

--	--

帝京大学 大学院 公衆衛生学研究科

研究科長	教務部長

## 履修科目変更届 (願)

平成 年 月 日

公衆衛生学研究科長 殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ (印)

アカデミックアドバイザー

職 位 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_ (印)

下記のとおり履修科目の変更を申請いたします。

	科目区分	科目名称	単位数	変更後 (該当に○印)
1				履修 ・ 取り消し
2				履修 ・ 取り消し
3				履修 ・ 取り消し
4				履修 ・ 取り消し
5				履修 ・ 取り消し
6				履修 ・ 取り消し
7				履修 ・ 取り消し
8				履修 ・ 取り消し

事務部記入欄

受付日:

処理日:

--	--

公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻 専門職学位課程



# 博士後期課程

## 目 次

1. 教育目的	97
2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）	97
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	98
4. コンピテンシー	99
5. 学位論文について	102
6. 履修の申込・変更届け、学位申請等について	103
7. 授業科目の履修について	104
8. 成績評価に対する質問・異議申出	106
9. 主な年間スケジュール	107
10. 実習について	108
11. その他留意事項	109
12. 授業科目の概要	110
13. 成績評価	113
14. 学位授与について（学位運用規程の要約）	113
15. 成績優秀者に対する留学推薦	114
16. 教員一覧	117
17. 授業科目一覧	120
18. 授業時間割	121
19. 授業計画（シラバス）	125
20. 履修届・履修科目変更届（見本）	170
21. 帝京大学組織図	175
22. 帝京大学大学院学則	176
23. 帝京大学学位規程	183
24. 帝京大学大学院 博士後期課程学位運用規程	185
25. 帝京大学大学院 博士論文公表に関する施行細則	192
26. 大学院プログラムT A・R A規程	194

## 博士後期課程

1. 教育目的
2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）
4. コンピテンシー
5. 学位論文について
6. 履修の申込・変更届け、学位申請等について
7. 授業科目の履修について
8. 成績評価に対する質問・異議申出
9. 主な年間スケジュール
10. 実習について
11. その他留意事項
12. 授業科目の概要
13. 成績評価
14. 学位授与について（学位運用規程の要約）
15. 成績優秀者に対する留学推薦

## 1. 教育目的

公衆衛生学研究科は、建学の精神に則り、患者や地域住民の健康回復・増進と、社会全体の健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するという基本理念を実現するために、様々な公衆衛生上の諸課題に対して指導的立場で且つ科学的判断に基づく問題解決型の対処ができる高度専門職業人と、その活動を統括指導できる公衆衛生の高度な実践能力とリーダーシップを併せ持つ上級管理者・上級指導者としての人材の養成を目的とする。

- 公衆衛生学専攻（博士後期課程）は、公衆衛生学研究科の教育目的に則り、変動発展する社会と科学技術に対応し、新規の問題に対して科学的な分析を行う知識と技能を身につける。その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価する能力を養う。そのような成果を達成するために求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を併せ持つ上級管理職・上級指導者の養成を目的とする。

## 2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

学位授与に要求される知識・能力を取得するために、公衆衛生学専攻(博士後期課程)では、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 公衆衛生の実際の場合における問題解決のために、公衆衛生の5つのコア領域を統合する役割を果たすことができる能力を有する人材を養成する。その素養として共通科目の公衆衛生学特論Ⅰ～Ⅴ(国際標準として公衆衛生高等教育に求められる5つの領域)を設け、さらに3つの専門分野(「疫学・生物統計学分野」、「産業保健・環境保健学分野」、「保健政策・医療管理学分野」)の授業科目を設ける。
2. 変動発展する社会と科学技術に対応し、新規の問題を発見し、それに対して科学的な分析を行い、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できようになるため、各専門分野の研究指導教員による「特殊研究」科目を設ける。
3. 公衆衛生の実践と教育・研究を行う実施チームのリーダーとして適切かつ迅速に対応できるリーダーシップを核とする能力を身につけるため、養成する人材像にかかわらず、分野共通の必修科目を設ける。(※)
4. 研究と実践のバランスを図るため、各専門分野の科目群には演習形式やケーススタディ形式を含む授業科目を設ける。
5. 国際通用性の観点から、海外の最新事情や最先端の知識に触れグローバルな視点を身につけるため、公衆衛生学の5つのコア領域について海外提携校の教授陣による授業科目を設ける。  
(※)分野共通の必修科目は、「リスク科学特論(医療判断学含む)」、「組織管理学特論」、「公衆衛生倫理学特論」の3科目である。

### 3. ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

公衆衛生学専攻(博士後期課程)では、変動発展する社会と科学技術に対応し、新規の問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる能力を身につける。そのような成果を達成するために求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を併せ持つ上級管理職・上級指導者の養成を目指している。従って、本博士後期課程においては、上級管理職・上級指導者育成という観点から以下のような能力を身につけ、3年以上在学し、所定の単位を修めた上で学位論文の審査と最終試験に合格した者に対して博士（公衆衛生学）の学位を授与する。

なお、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。ただしその場合、修士課程、博士前期課程、または専門職学位課程の在学期間とあわせ、3年以上在学していなければならない。

詳細については、巻末の学位運用規程を参照のこと。

1. 公衆衛生の実際の場における問題解決のために公衆衛生の5つのコア領域(疫学、生物統計学、保健政策・医療管理学、産業保健・環境保健学、健康行動科学)を統合する役割を果たすことができる能力を有している。
2. 変動発展する社会と科学技術に対応し、新規の問題に対して科学的な分析を行い、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価することのできる能力を有している。
3. 公衆衛生の実践において求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を有している。
4. 患者や地域住民の健康回復・増進と、社会全体の健全な医療体制の持続的な発展と医療と公衆衛生活動の質の継続的な向上に寄与するために、様々な公衆衛生上の諸課題に対して指導的立場で且つ科学的判断に基づく問題解決型の対処ができるとともに、その活動を統括指導できる能力を有している。
5. グローバルな視点から身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた個人及び社会の立場を理解し全人的医療及び地域医療を含めた公衆衛生活動を指導的立場から実践する能力を有している。

#### 4. コンピテンシー

公衆衛生活動を統括指導できる公衆衛生の高度な実践能力とリーダーシップを併せ持つ上級管理者・上級指導者としての人材の養成を目的とする大学院公衆衛生学専攻（博士後期課程）は、そのような上級管理職・上級指導者にふさわしい能力・資質を明示することが、学習を行う上でもその教育を行う上でも有用と考えられる。いま欧米で広がっているアウトカム基盤型教育と修得すべきコンピテンシー設定は世界的流れになっている。大学院公衆衛生学専攻（博士後期課程）に求められるコンピテンシーについて、米国公衆衛生大学院協会（ASPPH）は2009年に7つの項目を提示している。本研究科ではこれらの背景も含め検討した結果、以下の8項目の資質・能力を博士後期課程（DrPH）コアコンピテンシーとして定めた。

##### I. 職業意識と倫理

倫理的問題を同定し分析する能力  
個人の自由の追求と集団の健康をまもり増進するという専門職としての責任のバランスを取り、公衆衛生の研究や実践において、社会正義や人権の概念に基づいて行動する能力

1. 肉体的・精神的・社会的に弱い状況におかれた者の立場を十分に理解し、公衆衛生上の倫理規範に基づいて公衆衛生の実践を指導することができる。
2. 公衆衛生実践者、研究者、機関が遭遇する可能性のある利益相反について適切に対処することができる。
3. 公衆衛生活動、研究、法律、政策、における倫理的懸念を解決するための戦略を策定できる。
4. 保健事業、政策、研究に関わる個人や共同体のプライバシーを保護するための方法を実施できる。

##### II. 批判的分析

論理的かつエビデンスに基づいて公衆衛生活動を行う能力

1. 医学公衆衛生学領域の学術的成果・広範な領域からの考え方・健康関連データを統合し適用することによって、公衆衛生の向上のためのプログラム・施策・しくみを発展させることができる。
2. 地域と住民の公衆衛生上のニーズと資源の評価、健康サーベイランスシステムの開発、健康増進プログラム・施策の評価など一連のプロセスを主導することができる。
3. 問題を定式化し、データを定量的かつ定性的に解釈し、リスク・ベネフィットを見積もり、多様な情報を統合して実践することができる。
4. 実践の過程や結果として得られた新規性・普遍性・発展性のある情報を広く利用できる形で発信し、その普及を図ることができる。

### Ⅲ. 地域・文化交流

公衆衛生活動において、多様な地域に属する人々や異なる文化背景にある人々と交流し、相互活性化する能力

1. 地域、職域、その他のグループや行政組織と交流し共に活動できる。
2. 地域の健康面における文化、環境及び社会的公正性の現状を評価し、改善策を探究できる。
3. 地域等での人々の活動を参加者の主体性の観点から評価し、主導できる。

### Ⅳ. コミュニケーション

個人・集団・地域・政策に情報を提供し公衆衛生活動の方向性を示す目的で、人々に対してどのようにコミュニケーション戦略を立てれば良いのかを提案・評価し活用する能力

1. ヘルスリテラシーが異なる様々な集団に働きかけるため、理論と戦略に基づいたコミュニケーションのゴール、目的、優先度を設定できる。
2. 個人どうし、ならびに集団と社会を対象にしたヘルスコミュニケーションとソーシャルマーケティングについて説明し、活用することができる。
3. 専門家や政策策定者などに対して、コミュニケーションプログラムの提案を行い、その評価方法について説明できる。
4. 内外の協力者を含めた必要な人的ネットワークを構築できる。

### Ⅴ. 運営管理

現状の法令や社会制度と調整しつつ、構成員の積極的参加をはかり、目標達成に向けて保健医療組織を運営できる能力

1. 戦略的に決められたプロセスに沿って保健計画及びその実施のための財政・事業計画を策定できる。
2. 保健計画の策定・実施のための方策・手順と法令上の制約との調整を行える。
3. 責任、権限、コミュニケーション及びガバナンス（統率）が明確化かつ体系化された組織を構築するとともに適正な人事管理を行える。
4. 組織の活動目標の達成度を適正に評価できる。

## VI. リーダーシップ

公衆衛生活動を強化するために共有できる展望(価値)を創造して伝え、他者からの信頼感を高めてやる気を出させ、根拠に基づく戦略を用いる能力

1. 共有できる展望を創造できる。
2. 新たな保健活動の取り組みを実施するための効果的なチームを構築して率いることができる。
3. 内外の状況調査に基づいて組織の意思決定と企画立案を指導できる。
4. 個人、組織、地域社会ごとの能力向上戦略を開発できる。

## VII. アドボカシー

公衆衛生を増進する政策やその実践のための意思決定に影響を与える能力

1. 健康問題に関して法律や政策の役割を説明して利用できる。
2. 科学的根拠・利害関係者からの視点・世論データに基づき健康政策やプログラムの意思決定に影響を与えることができる。
3. 合意形成・交渉・対立回避などの決議技術を利用できる。
4. 健康政策や法律を変更するために根拠に基づく戦略を立案できる。

## VIII. 国際通用性

国際水準の活動、国際的な場でのコミュニケーションができ、国際機関・NGO 等で専門家としての役割を果たすことができる。

1. 公衆衛生にかかわる最新の国際的専門知識や現場の実務的情報を把握し、活用できる。
2. 公衆衛生活動の内容・成果を海外向けに口頭や文書で情報発信できる。
3. 関連国の保健医療政策・制度の知識を有し、国際機関・NGO 等において公衆衛生の専門家としての役割を果たすことができる。

## 5. 学位論文について

博士後期課程ではその最終成果として、「学位論文」の提出を求める。5つのコア領域の知識と技能を体系的に活かして、現在の公衆衛生上の実践課題の分析に取り組み、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価する。そのうえで、主体的にフィールドでの実際の活動、介入やその事後評価といった社会を動かす上級管理職たる素養を示す成果物（学位論文）とする。

こうした上級管理職・上級指導者としての公衆衛生活動を指導的立場から実践する能力をより具体化し、8つのコンピテンシーとして明示化し、教育課程においてその各項の習得を目指す。

問題解決型アプローチは、帝京大学公衆衛生学研究科で目指す問題解決能力を備えた実務を担う高度専門職養成に必要な素養である。課題研究、特殊研究の報告形式に限らず、授業などを通じてこのアプローチで問題を考える力を育むことを目指している。問題解決型アプローチは公衆衛生上の問題を発見し、その問題の具体的な原因と結果を考えることから始まる。そして原因と結果の定式化をもとに定量的に問題を解析して問題の程度を把握する。同時に、既存の文献等の情報から当該公衆衛生課題に対する既存の知見を分析する。その中で、自らが取り組む公衆衛生の問題がいかんにして検証されているか否かを把握しておく。さらに問題をとりまく社会的要因や利害関係者（ステークホルダー）を列挙して、問題解決に際して配慮すべき関係者の整理を行う。このような分析を中心としたプロセスの後、問題解決の実践のために解決策の計画を立案する。複数立案された施策についてはその優先順位をつけて実行する。その後、行った施策の評価を行い、次のプロセスにつなげる。こうした一連の実践的プロセスが問題解決型アプローチで、5つのステップ、(1)課題形成、(2)問題の分析、(3)解決策立案、(4)解決策実施、(5)評価、に整理している。



## 6. 履修の申込・変更届け、学位申請等について

### (1) 履修の申込み

大学院生は毎年、年度始めに、研究指導教員のアドバイスを受けて、その年度内に履修を希望する科目を選び、所定の用紙（履修届）で受講を申し込むことが必要である。

### (2) 履修科目の変更

履修科目を変更する場合（年度始めに受講申請した科目の受講を取り止める場合、および、新たな科目の履修を希望する場合）には、研究指導教員と相談して、所定の用紙（履修変更届）で届け出を行う必要がある。尚、年次途中で新たな科目の履修を希望する場合には、その科目の履修が可能かどうか、科目責任者に事前に問い合わせる（すでに定員を満たしている場合や、希望者がおらず講義が予定されていない場合等がありえる）。

### (3) 学位申請

大学院生は第3学年の11月中旬頃までに、学位申請書類の提出が必要である。

ただし、優れた研究業績を上げた者については、1年間の在学で学位授与を申請することができる。

尚、具体的な学位申請の手続き内容やスケジュール、学位授与までの流れ等の詳細に関しては、第3学年の4月上旬に対象者に対して別途ガイダンスが行われる。

### (4) 休学について

在学中に一身上の都合で、休学を希望する場合、研究指導教員に相談の上、所定の用紙にて届け出を行う。

※ 上記（1）～（4）の届け出・申請の提出先は事務部教務課（大学院担当）となる。

### (5) 科目の聴講について

実習を除くすべての科目で単位履修を目的とせず聴講として講義を受けることができる。但し、科目責任者の許可を事前に求めること。

## 7. 授業科目の履修について

### (1) 履修の概略

①公衆衛生学に関する専門職学位課程または修士課程出身者	原則として、1年目に必修3科目と分野別の指定科目を履修し、1年目後期からは学位論文作成のための研究活動に集中する。
②上記①以外の医療系出身者(※1)	原則として、1年目に「公衆衛生学特論Ⅰ～Ⅴ」と必修3科目、分野別の指定科目を履修し、2年目以降は学位論文作成のための研究活動に集中する。
③非医療系出身者(※2)	原則として、1年目に「公衆衛生学特論Ⅰ～Ⅴ」、「医学基礎・臨床医学特論」と必修3科目、分野別の指定科目を履修し、2年目以降は学位論文作成のための研究活動に集中する。

(※1) 医療系出身者とは、医療系国家資格(医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、臨床工学技士等)の各免許を取得するための所定の課程を修了し、かつ修士(および専門職学位)課程を修了した者(6年制課程修了者はここでいう修士課程修了者に含まれる)。

(※2) 非医療系出身者とは、上記①②以外の修士(および専門職学位)課程修了者。

### (2) 修了要件(=学位授与の要件)

- i) 共通科目として必修3科目(3単位)を取得する。
- ii) 「疫学・生物統計学」、「産業保健・環境保健学」、「保健政策・医療管理学」の3分野から1分野を選択し、専門科目として各分野の分野指定3科目(14単位)を取得する。尚、履修科目の登録の上限は、年間20単位までである。
- iii) 上記17単位を含む19単位以上を取得すれば卒業要件を満たすことになり、公衆衛生の実践において求められる職業意識と倫理、批判的分析、地域・文化交流、コミュニケーション、運営管理、リーダーシップ、アドボカシー、国際通用性のDrPHコアコンピテンシーを有しているとみなされ、その上で学位論文審査と学位申請者に対する最終試験に合格すれば学位授与の要件が満たされる。

#### ◆共通科目

リスク科学特論(医療判断学含む)	1単位	必修
組織管理学特論	1単位	必修
公衆衛生倫理学特論	1単位	必修
公衆衛生学特論Ⅰ(疫学)	2単位	選択(※1)(※2)
公衆衛生学特論Ⅱ(生物統計学)	2単位	選択(※1)(※2)
公衆衛生学特論Ⅲ (産業保健・環境保健学)	1単位	選択(※1)(※2)
公衆衛生学特論Ⅳ (保健政策・医療管理学)	2単位	選択(※1)(※2)

公衆衛生学特論Ⅴ（社会行動科学）	2 単位	選択（※1）（※2）
医学基礎・臨床医学特論	2 単位	選択（※2）

（※1）公衆衛生学に関する専門職学位課程または修士課程出身以外の者で、医療系出身者は、共通科目の「公衆衛生学特論Ⅰ～Ⅴ」（9 単位）の取得も求められる。

（※2）非医療系出身者は、共通科目の「公衆衛生学特論Ⅰ～Ⅴ」（9 単位）および「医学基礎・臨床医学特論」（2 単位）、合計 11 単位の取得も求められる。医療系学部出身者については、「医学基礎・臨床医学特論」（2 単位）の受講は必要ない。但し、履修届とともに単位認定申請書を提出し審査の上単位認定を受ける必要がある。

尚、在学期間は 6 年を超えることはできない。（大学院学則 第 9 条）

◆専門科目（疫学・生物統計学分野）

疫学特論Ⅰ（臨床疫学）	1 単位	選択（分野指定）
生物統計学特論Ⅰ（生物統計学応用）	1 単位	選択（分野指定）
疫学・生物統計学特殊論文	1 2 単位 （4 単位/年）	選択（分野指定）（※3）

◆専門科目（産業保健・環境保健学分野）

産業保健学特論	1 単位	選択（分野指定）
産業・環境工学特論	1 単位	選択（分野指定）
産業・環境保健学特殊論文	1 2 単位 （4 単位/年）	選択（分野指定）（※3）

◆専門科目（保健政策・医療管理学分野）

保健政策学特論Ⅰ	1 単位	選択（分野指定）
医療管理学特論	1 単位	選択（分野指定）
保健政策・医療管理学特殊論文	1 2 単位 （4 単位/年）	選択（分野指定）（※3）

（※3）各分野の特殊論文は各年次で毎年の履修登録（4 単位/年）となる。

## 8. 成績評価に対する質問・異議申出

1. 成績評価に対して質問がある場合は当該科目の担当教員（科目責任者）に質問をする。
2. 成績評価に対して異議がある場合は内容および理由をできる限り詳細に記入し（様式任意）事務部教務課大学院担当まで提出する。
3. 成績評価に対しての質問・異議申出は成績発表後の2週間以内まで受付ける。期間外またはやむを得ない事由で成績通知書を受領しなかった場合も、期間の延長は認めない。

## 9. 主な年間スケジュール

内容	対象学年	日程
入学式	1年生	4月4日(金) 午前
健康診断	全学年	4月1日(火) - 9日(木)
オリエンテーション (学生証の発行、科目履修の手続き、アウトカム 基盤型教育とコアコンピテンシーの概要、等)	1年生	4月6日(月)
前期授業の期間 (a学期、b学期)	全学年	4月7日(火) - 8月3日(木)
学位申請に関するガイダンス (申請手続き)	3年生	4月上旬(今年度は対象外)
学位論文 研究計画報告会	2年生	4月上旬から順次開始
履修届けの提出期限	全学年	4月21日(火)(※1)
学位論文に関するガイダンス	1年生	5月7日(木) 10:00-12:00
学位論文審査 申請受付開始	3年生 (※2)	5月初旬(今年度は対象外)
創立記念日(休校日)	全学年	6月29日(月)
学位論文 研究計画報告会	1年生 (※2)	7月下旬
夏季休業期間	全学年	8月4日(火) - 9月13日(日)
後期授業の期間 (c学期、d学期)	全学年	9月14日(月) - 2月17日(水)
学位論文 中間報告会	2年生～ 3年生 (※2)	9月下旬
学位論文審査 申請受付終了	3年生 (※2)	11月中旬(今年度は対象外)
学位論文 最終報告会	3年生 (※2)	12月中旬(今年度は対象外)
学位授与式 (帝京大学グループ卒業式)	学位授与者	3月中旬(今年度は対象外)

(※1) 履修変更届けは、各学期内で実施される授業科目ごとに以下のようになる。

◇ 前期前半 (a 学期) : 履修届け提出により確定 / 締切日 : 4月21日 (火)

◇ 前期後半 (b 学期) : 学期開始日から2週間以内

◇ 後期前半 (c 学期) : 学期開始日から2週間以内

◇ 後期後半 (d 学期) : 学期開始日から2週間以内

注) d 学期の1月に実施される集中講義 (海外客員教授による特論) に関しては、履修届け提出前に研究指導教員と十分に相談した上で決定する。変更可能時期は講義開始の1ヶ月前までである。

(※2) 早期修了を希望する者 (1年生もしくは2年生) は、研究指導教員にその旨を相談するとともに、学位論文審査の受付時期等について事務部教務課 (大学院担当) へ詳細を問合わせる。

## 10. 実習について

実習においては指導教員または実習先の担当者の指導のもと、十分留意の上で行う。

(1) 万が一、事故等が生じた場合

- ・通学中や、実習先への移動中に転倒してケガをした場合等
- ・炎天下での実習中に熱中症となり入院した場合等

①次のいずれかまで連絡する。

- ・帝京大学 公衆衛生学研究科 受付 TEL 03-3964-2108
- ・帝京大学板橋キャンパス 事務部教務課大学院担当 TEL 03-3964-3294 (直通)

②事故の報告書の提出 (様式任意) が必要である。

(2) 入学時に加入している保険について

- ・「学研災」・・・学生教育研究災害傷害保険
- ・「学研賠」・・・学研災付帯賠償責任保険
- ・「こども保険」・・・こども総合保険 (感染予防等)

(3) 海外への実習の場合

治療費等は立替払いである。必ず領収書を保険請求の際は診断書等を提出する、英文の場合は日本語訳が必要となる。あくまでの実習中の事故等が対象である。

通常の海外旅行保険への申し込みを勧める。

取扱代理店 : 株式会社 帝京サービス 保険部

帝京大学 大学棟3号館2階 Tel 03-5943-1988

## 1.1. その他留意事項

### (1) 交通機関の不通と警報による休講

交通機関が事故等で不通になった場合、または台風、大雪等でキャンパスの在る地域に、暴風警報(大雨、洪水警報のみは除く)、大雪警報が発令された場合は、以下の通り休講とする。授業、実習が開始されてから発令された場合は、大学、実習先の指示に従う。

#### 1. 埼京線、山手線、京浜東北線のすべてが不通となった場合

暴風警報または大雪警報が、**東京 23 区**に発令された場合

運転再開の時刻、警報の解除時刻	授業、実習の取扱い
午前 6 時 00 分まで	平常どおり
午前 6 時 00 分から午前 10 時 00 分まで	3 時限目より授業を行う
午前 10 時 00 分以降	1 日休講

#### 2. 上記以外の交通機関の不通、警報が発令されている地域があっても、休講とはしない。登校不可能な状態の場合は必ず大学あるいは実習先に連絡し、指示を受ける。

### (2) 学費納入について

1. 所定の学費は、前期・後期の二期に分け、前期は 5 月末日まで、後期は 10 月末日まで、それぞれ定められた期限内に納入する。詳細は、大学から送付される振込用紙と案内を参照する。
2. 期限内に納入することが困難な場合は、納入期限までに所定の学納金延納願を事務部教務課大学院担当に提出し、許可を得る。
3. 留年した場合、及び復学した場合の学納金については、新たに定められた金額を納入する。
4. 在学中に授業料、その他納付金に変更があった場合には、新たに定められた金額を納入する。
5. 休学中及び停学中であっても学費は全額納入しなければならない。
6. 既納の学費は如何なる理由があっても返還しない。

## 12. 授業科目の概要

### ① 共通科目

公衆衛生の5つのコア領域を統合し、実践と教育・研究を行う実施組織のリーダーとして適切かつ迅速に対応することのできる管理職・指導者としての能力等を修得するため、研究者・科学者としての思考、リーダーシップ、コミュニケーション能力等に優れていることが重要である。

そこで、選択する専門分野にかかわらず、共通科目として、「リスク科学特論（医療判断学を含む）」、「組織管理学特論」、「公衆衛生倫理学特論」の3つの必修科目を設ける。

また、公衆衛生学専門職学位(MPH)保有者以外の入学生に対しての配慮から、すなわち専門職学位課程との接続性の観点からも履修を求める「公衆衛生学特論Ⅰ～Ⅴ」の5科目を設定している。さらに、医療系修士課程修了者以外の入学者に対しての配慮から履修を求める「医学基礎・臨床医学特論」も設けている。

### ② 専門科目（疫学・生物統計学分野）

生物統計学分野の幅広い専門性から、生物統計学のテクニカルサイエンスのもとに公衆衛生学分野の知識・技能を有し、研究者・科学者としての思考、リーダーシップに優れていること、交渉能力といったコミュニケーション能力が高いことが重要であり、そのため講義および演習ではインタラクティブな教員・学生との連携に重点を置く。

必要な場合には個別教員による適切な指導も行い、この際、研究能力の育成および優れた指導力を備えた大学教員の育成という視点にも配慮した教育を行う。

また、研究論文の指導にあたっては、そのために必要となる知識・技能の習得を広く深く行えるよう、学生のそれまでの過程、能力に応じて、コアコンピテンシーや研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について、補完的な指導を適切に実施するよう配慮して指導する。

そこで本博士後期課程では、研究指導目的の「疫学・生物統計学特殊研究」に加えて、「疫学特論Ⅰ（臨床疫学）」、「生物統計学特論Ⅰ（生物統計学応用）」といった3科目を、本分野を選択した学生への分野指定科目としている。また、その他の専門特化した科目は選択科目として設定し研究テーマに沿った学習の機会を与える。具体的には、「疫学特論Ⅱ（理論と方法）」、「生物統計学特論Ⅱ（統計モデル）」、「データ解析演習」、「臨床試験特論」の4科目を設定している。

また、国際的な視野での教育機会を与えるため海外提携校（米国ハーバード大学、英国オックスフォード大学、英国ケンブリッジ大学、英国ダラム大学）に在籍する世界的権威である客員教授による「疫学特論Ⅲ（疫学研究の展開）」と「疫学特論Ⅳ（行動科学・社会疫学）」と「生物統計学特論Ⅲ（生物統計学の展開）」の3科目（選択科目）も設けている。



### ③ 専門科目（産業保健・環境保健学分野）

博士後期課程の教育内容として、環境産業保健学分野の実践性からケーススタディを重視し、実例とその対処を考える中で公衆衛生学分野の知識・技能を有し、研究者・科学者としての思考、リーダーシップに優れていること、交渉にあたっての高いコミュニケーション能力があることが重要であり、講義および演習ではインターラクティブな教員・学生との連携に重点を置く。

必要な場合には個別教員による適切な指導も行い、この際、研究能力の育成および優れた指導力を備えた大学教員の育成という視点にも配慮した教育を行う。

また、学位論文の指導にあたっては、そのために必要となる知識・技能の習得を広く深く行えるよう、学生のそれまでの過程、能力に応じて、コアコンピテンシーや研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について、補完的な指導を適切に実施するよう配慮して指導する。

産業保健・環境保健が取り扱うべき健康影響要因は様々である。ヒトへの有害な健康影響が分かっている要因に対してはリスクを評価する判定指標が示されているが、そもそもヒトへの影響がはっきりしない要因も多い。そのような未解明の要因も多い産業保健・環境保健分野では、現在までに培われてきた産業保健学・環境保健学の知識の習得だけではなく、習得した知識を組み替えて新たな課題に対応する能力（研究能力）が必要である。そのような能力の習得には、これまでの論文・書籍の理解とともに、産業現場（工場でありオフィス）・自然環境というフィールドでの新たな課題に対する研究を通じた能力向上が必要である。

そこで本博士後期課程では、研究指導目的の「産業・環境保健学特殊研究」に加えて、「産業保健学特論」、「産業・環境工学特論」といった 3 科目を、本分野を選択した学生への分野指定科目としている。また、その他の専門特化した科目は選択科目として設定し研究テーマに沿った学習の機会を与える。具体的には、「産業・環境医学特論」、「公害特論」、「地球環境・災害科学特論」の 3 科目を設定している。

また、国際的な視野での教育機会を与えるため海外提携校（米国ハーバード大学、英国オックスフォード大学、英国ケンブリッジ大学、英国ダラム大学）に在籍する世界的権威である客員教授による「産業・環境保健学特論」の 1 科目（選択科目）も設けている。

### ④ 専門科目（保健政策・医療管理学分野）

我が国では人口構造や経済環境が変化する中で、増加する一途の医療費の問題、社会保障制度など保健医療制度の見直しは喫緊の課題である。さらに、新興感染症や災害への取組などの危機管理の点からも保健医療政策が果たすべき役割は大きい。国際的にみても、現在は人口の高齢化や疫学転換と呼ばれる疾病構造の変化が起こっており、高齢社会や非感染性疾患の対策を国際機関も主導している。社会問題の中でも特に人々の生活や生命に

直結する保健医療政策での取り組みは、人々への説明責任が問われる。その際に事実をデータで実証し、論理的に政策を検証して社会の変革に資する学術界の貢献に対する期待は高い。

医療管理学では、医療経済学、医療経営学の知識と共に、医療の質を向上させながらも経営の効率化、臨床データの有効活用、医療安全の確保等が求められている。これを実現するためには各種医療と経営情報を分析する能力と多業種に説明する力が求められる。そのため、保健医療政策と医療管理学の基本理論や基礎知識を活かし、実際に日本国内や世界での医療システムと保健医療制度、もしくは病院管理上の問題を探し出して研究を行うことを念頭に置いている。その際、病院や住民の行動といった個人レベルのデータ分析とともに、地域や国単位でのデータ分析方法も指導する。さらに政策分析手法や経営学などの量的データ分析以外の研究手法の教育にも配慮する。研究は論文として公表し、実際の保健医療政策や医療管理に影響を与えうる水準の科学的根拠を目指すよう指導する。

そこで、本博士後期課程では、研究指導目的の「保健政策・医療管理学特殊研究」に加えて、「保健政策学特論Ⅰ」、「医療管理学特論」といった3科目を、本分野を選択した学生への指定科目としている。また、その他の専門特化した科目は選択科目として設定し研究テーマに沿った学習の機会を与える。具体的には、「医療経済学特論」、「地域医療学特論」、「国際保健学特論」の3科目を設定している。

また、国際的な視野での教育機会を与えるため海外提携校（米国ハーバード大学、英国オックスフォード大学、英国ケンブリッジ大学、英国ダラム大学）に在籍する世界的権威である客員教授による「保健政策学特論Ⅱ」（選択科目）の1科目も設けている。

## ⑤ 特殊研究

特殊研究は専門科目として設けられており、その目的は「現実の保健医療問題の改善・解決や人々の健康水準の向上を図るという公衆衛生課題に対する具体的な成果を達成し、またそれを達成するための能力（コンピテンシー）、ならびに学位論文の作成能力を身に付ける」ことにある。すなわち、本科目では学位の申請に先立って申請者がそのための能力水準を満たしているかの評価を実施することを主眼としている。具体的には、科目責任者（＝研究指導教員）によりコンピテンシー基盤型教育と問題解決型アプローチの考え方に沿って在学期間中（1年次～3年次）継続的な指導が行われると共に、本研究科内に設置される内部審査会による計画審査と中間審査により学位申請前の評価が行われる。

そこで、本博士後期課程では、「疫学・生物統計学特殊研究」「産業保健・環境保健学特殊研究」「保健政策・医療管理学特殊研究」の3つの科目を設けており、院生はいずれか1つの分野の特殊研究を選択（分野指定科目）する必要がある。

### 13. 成績評価

授業科目の成績評価については、試験・レポート等（筆記試験・口述試験・実技試験・レポート・発表内容）を中心として評価するが、科目によっては講義への参加（出席・討論への参加）等の学習状況等を加味して評価する。学外の実習に参加した場合については、実習先の外部評価も成績評価に反映させる。

なお、成績評価基準は、下記の通りA B C D評価で判定する。

A評価…80点～100点

B評価…70点～79点

C評価…60点～69点

D評価…59点以下および出席不足・未受験

C評価以上を合格とし、単位を認める。D評価は不合格とし、未認定となる。

尚、学位論文作成の評価内容や審査のプロセスについては、学期中の適切な時期に院生向けに別途ガイダンスを実施する。

### 14. 学位授与について（学位運用規程の要約）

本博士後期課程の教育目的に沿って、現実の保健医療問題の改善・解決や人々の健康水準の向上を図るという公衆衛生課題に対する具体的な成果を達成し、また、それを達成するための能力（コンピテンシー）を有すると認められた者に学位を授与する。

学位を申請できる者は、第3学年に在学し所要の単位を修得（見込みを含む）している者とする。ただし、優れた研究業績をあげた者については、在学年限に関わらず学位を申請することができる。また、満期退学した後に学位申請する場合は、満期退学後3年以内であれば随時学位を申請することができる。

学位審査は、審査委員会により学位論文の審査と最終試験により実施される。

本博士後期課程において学位論文とは、公衆衛生課題の対策に向けた計画（以下、「プロジェクト」という）の策定ならびにこれについての調査・研究、さらに可能な場合は部分的な対策実施を行い、これら全ての活動の結果をまとめた成果報告書をいう。審査のため必要があるときは、学位論文の一部としてプロジェクトの成果に関連する参考論文、さらに学位論文とは別に参考資料の提出も求められる。

学位論文の審査は、学位申請者がその専攻分野において、プロジェクトと具体的な成果をまとめた成果報告書が、学位申請者自らの計画と調査・研究、対策実施に基づいたものであることを確認するとともに、本学が博士（公衆衛生学）の学位を授与するにふさわし

い、成果の達成状況や、それを達成するための能力（コンピテンシー）を有することを確認するものである。最終試験は、学位論文を中心とし、審査委員全員により原則として口答（必要に応じて筆答）にて行い、その判定結果は可または否のいずれかとなる。

詳細については、巻末の学位運用規程を参照のこと。

なお、学位申請の手続きや提出書類、論文作成のための指導方法とその過程、評価内容、および公表方法等については、学期中の適切な時期に院生向けに別途ガイダンスを実施する。

## 15. 成績優秀者に対する留学推薦

成績優秀者に対しては本人が留学を希望する場合、一定の選考基準に基づきハーバード大学公衆衛生大学院等に推薦し、そこでの勉学・研究・学位取得を援助するシステムを準備している。以下の要件をおおよその基準として、研究指導教員等との協議を経て研究科長による推薦を行う。

(ア) 語学力 (TOEFL 587点以上)

TOEFLに関しては紙ベース587点、現在はコンピュータベースが主流なのでその換算だと240点となる。

(イ) GREスコア

- ・ Verbal と Quantitative の合計で最低1200
- ・ Analytical Writing で4以上

(ウ) 公衆衛生学専攻（博士後期課程）での成績

## 博士後期課程

- 16. 教員一覽
- 17. 授業科目一覽
- 18. 授業時間割



## 16. 教員一覧

### ◆専任教員

氏名	役職	科目区分	授業科目	
山岡 和枝	教授 (研究科長)	共通科目	公衆衛生学特論Ⅰ(疫学)	
			公衆衛生学特論Ⅱ(生物統計学)	
		疫学・生物統計学分野	疫学特論Ⅱ(理論と方法)	
			生物統計学特論Ⅰ(生物統計学応用)	
			生物統計学特論Ⅱ(統計モデル)	
			データ解析演習	
			臨床試験特論	
疫学・生物統計学特殊研究				
矢野 榮二	教授	共通科目	リスク科学特論(医療判断学含む)	
			公衆衛生学特論Ⅲ(産業保健・環境保健学)	
		産業保健・環境保健学分野	産業・環境医学特論	
			産業保健学特論	
			地球環境・災害科学特論	
		産業・環境保健学特殊研究	保健政策・医療管理学分野	保健政策・医療管理学特殊研究
			保健政策・医療管理学分野	保健政策・医療管理学特殊研究
中尾 睦宏	教授	共通科目	公衆衛生倫理学特論	
			公衆衛生学特論Ⅴ(社会行動科学)	
			医学基礎・臨床医学特論	
		疫学・生物統計学分野	疫学特論Ⅱ(理論と方法)	
			疫学・生物統計学特殊研究	
中田 善規	教授	共通科目	組織管理学特論	
			公衆衛生学特論Ⅳ(保健政策・医療管理学)	
			医学基礎・臨床医学特論	
		保健政策・医療管理学分野	医療経済学特論	
			医療管理学特論	
			保健政策・医療管理学特殊研究	
福田 吉治	教授	疫学・生物統計学分野	疫学・生物統計学特殊研究	
		産業保健・環境保健学分野	産業・環境保健学特殊研究	
		保健政策・医療管理学分野	保健政策学特論Ⅰ	
			国際保健学特論	
			保健政策・医療管理学特殊研究	
松浦 正明	教授	共通科目	公衆衛生学特論Ⅰ(疫学)	
			公衆衛生学特論Ⅱ(生物統計学)	
		疫学・生物統計学分野	疫学特論Ⅰ(臨床疫学)	
			疫学特論Ⅱ(理論と方法)	
			生物統計学特論Ⅱ(統計モデル)	
			データ解析演習	
			臨床試験特論	
疫学・生物統計学特殊研究				
原 邦夫	教授	共通科目	リスク科学特論(医療判断学含む)	
			公衆衛生学特論Ⅲ(産業保健・環境保健学)	
		産業保健・環境保健学分野	産業保健学特論	
			産業・環境工学特論	
			公害特論	
			地球環境・災害科学特論	
			産業・環境保健学特殊研究	
山本 秀樹	教授	共通科目	公衆衛生学特論Ⅳ(保健政策・医療管理学)	
			医学基礎・臨床医学特論	
井口 直樹	教授	共通科目	公衆衛生学特論Ⅳ(保健政策・医療管理学)	

氏名	役職	科目区分	授業科目
高橋 謙造	准教授	共通科目	医学基礎・臨床医学特論
		保健政策・医療管理学分野	地域医療学特論 保健政策・医療管理学特殊研究
竹内 武昭	講師	共通科目	公衆衛生倫理学特論 公衆衛生学特論Ⅴ(社会行動科学) 医学基礎・臨床医学特論
		産業保健・環境保健学分野	産業・環境保健学特殊研究
		共通科目	公衆衛生倫理学特論
井上まり子	講師	保健政策・医療管理学分野	国際保健学特論 保健政策・医療管理学特殊研究
		共通科目	医学基礎・臨床医学特論
顧 艶紅	講師	共通科目	医学基礎・臨床医学特論
		疫学・生物統計学分野	疫学特論Ⅱ(理論と方法) 疫学・生物統計学特殊研究
		共通科目	公衆衛生学特論Ⅱ(生物統計学)
根本明日香	講師	疫学・生物統計学分野	疫学特論Ⅱ(理論と方法) 生物統計学特論Ⅱ(統計モデル) データ解析演習 臨床試験特論 疫学・生物統計学特殊研究
		共通科目	公衆衛生学特論Ⅱ(生物統計学)
		共通科目	疫学・生物統計学特殊研究
		共通科目	疫学・生物統計学特殊研究
		共通科目	疫学・生物統計学特殊研究
桑原 恵介	助教	共通科目	公衆衛生学特論Ⅰ(疫学)
		疫学・生物統計学分野	疫学特論Ⅱ(理論と方法) 疫学・生物統計学特殊研究
		共通科目	疫学・生物統計学特殊研究

◆他学部(兼担)

氏名	役職	科目区分	授業科目
内田 俊也	教授	共通科目	医学基礎・臨床医学特論
野村 恭子	准教授	共通科目	公衆衛生学特論Ⅰ(疫学)
松田 彩子	助教	共通科目	公衆衛生学特論Ⅰ(疫学)

◆非常勤教員

氏名	役職	科目区分	授業科目
David Christiani	客員教授	産業保健・環境保健学分野	産業・環境保健学特論
Ichiro Kawachi	客員教授	疫学・生物統計学分野	疫学特論Ⅳ(行動科学・社会疫学)
Martin Burton	客員教授	疫学・生物統計学分野	疫学特論Ⅲ(疫学研究の展開)
Marcello Pagano	客員教授	疫学・生物統計学分野	生物統計学特論Ⅲ(生物統計学の展開)
Andrew Farmery	客員教授	保健政策・医療管理学分野	保健政策学特論Ⅱ
丹後 俊郎	客員教授	共通科目	公衆衛生学特論Ⅱ(生物統計学)
		疫学・生物統計学分野	生物統計学特論Ⅰ(生物統計学応用)
小木 和孝	客員教授	産業保健・環境保健学分野	産業保健学特論
吉川 徹	客員准教授	共通科目	公衆衛生学特論Ⅲ(産業保健・環境保健学)
石川ひろの	非常勤講師	共通科目	組織管理学特論
渋谷 健司	非常勤講師	共通科目	公衆衛生学特論Ⅳ(保健政策・医療管理学)
瀧本 禎之	非常勤講師	共通科目	公衆衛生倫理学特論
田宮菜奈子	非常勤講師	共通科目	公衆衛生学特論Ⅳ(保健政策・医療管理学)
橋本 英樹	非常勤講師	共通科目	公衆衛生学特論Ⅳ(保健政策・医療管理学)
成松 宏人	非常勤講師	共通科目	公衆衛生学特論Ⅳ(保健政策・医療管理学)
杉澤 誠祐	非常勤講師	共通科目	公衆衛生学特論Ⅲ(産業保健・環境保健学)
		産業保健・環境保健学分野	産業保健学特論
神山 宣彦	非常勤講師	共通科目	公衆衛生学特論Ⅲ(産業保健・環境保健学)
橋本 晴男	非常勤講師	共通科目	公衆衛生学特論Ⅲ(産業保健・環境保健学)
東川 麻子	非常勤講師	共通科目	公衆衛生学特論Ⅲ(産業保健・環境保健学)
		産業保健・環境保健学分野	産業保健学特論
小林 廉毅	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	医療管理学特論





17. 授業科目一覧

科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態	授業時間割				科目責任者	備考
		必修	選択	自由		配当年次	学期	曜日	時限		
共通科目	リスク科学特論(医療判断学含む)	1			講義	1	b	木	5	矢野 榮二 教授	オムニバス
	組織管理学特論	1			講義	1	c	水	2	中田 義規 教授	オムニバス
	公衆衛生倫理学特論	1			講義	1	a	水	4	中尾 睦宏 教授	オムニバス
	公衆衛生学特論Ⅰ(疫学)			2	講義 演習	1	a,b	木	3,4	松浦 正明 教授	オムニバス
	公衆衛生学特論Ⅱ(生物統計学)			2	講義 演習	1	a,b	水	1,2	山岡 和枝 教授	オムニバス
	公衆衛生学特論Ⅲ(産業保健・環境保健学)			1	講義	1	a	木	5	原 邦夫 教授	オムニバス
	公衆衛生学特論Ⅳ(保健政策・医療管理学)			2	講義	1	a	月 火	3,4	中田 義規 教授 山本 秀樹 教授	オムニバス
	公衆衛生学特論Ⅴ(社会行動科学)			2	講義	1	a,b	水	3	中尾 睦宏 教授	オムニバス
	医学基礎・臨床医学特論			2	講義	1	a,b	月	1,2	内田 俊也 教授(兼)	オムニバス
疫学・生物統計学分野	疫学特論Ⅰ(臨床疫学)		1		講義	1	a,b c,d	火 木	5,6 3,4	松浦 正明 教授	
	疫学特論Ⅱ(理論と方法)		1		講義	1	b	火	4	松浦 正明 教授	オムニバス
	疫学特論Ⅲ(疫学研究の展開)		1		講義	1	w	個別設定		Martin Burton 客員教授	集中講義
	疫学特論Ⅳ(行動科学・社会疫学)		1		講義	1	w	個別設定		Ichiro Kawachi 客員教授	集中講義
	生物統計学特論Ⅰ(生物統計学応用)		1		講義	1	a,b c,d	火	1	山岡 和枝 教授	
	生物統計学特論Ⅱ(統計モデル)		1		演習	1	b	水	4	松浦 正明 教授	オムニバス
	生物統計学特論Ⅲ(生物統計学の展開)		1		講義	1	w	個別設定		Marcello Pagano 客員教授	集中講義
	データ解析演習		1		演習	1	c, d	火	2	松浦 正明 教授	共同 オムニバス
	臨床試験特論		1		講義	1	b	火	3	山岡 和枝 教授	オムニバス
	疫学・生物統計学特殊研究		12		演習	1~3	通年	-		山岡 和枝 教授	
産業保健・環境保健学分野	産業・環境医学特論		1		講義	1	c	水	3,4	矢野 榮二 教授	
	産業保健学特論		1		講義 演習	1	c	木	1,2	原 邦夫 教授	オムニバス
	産業・環境工学特論		1		講義	1	c	木	6	原 邦夫 教授	
	公害特論		1		講義 演習	1	c	木	5	原 邦夫 教授	
	地球環境・災害科学特論		1		講義	1	d	木	5	原 邦夫 教授	オムニバス
	産業・環境保健学特論		1		講義	1	w	個別設定		David Christiani 客員教授	集中講義
	産業・環境保健学特殊研究		12		演習	1~3	通年	-		矢野 榮二 教授	
保健政策・医療管理学分野	保健政策学特論Ⅰ		1		講義	1	b c	火 水	5,6 5,6	福田 吉治 教授	
	保健政策学特論Ⅱ		1		講義	1	w	個別設定		Andrew Farmery 客員教授	集中講義
	医療経済学特論		1		講義	1	d	水	4	中田 善規 教授	
	医療管理学特論		1		講義	1	b, c	月	3,4	中田 善規 教授	
	地域医療学特論		1		講義 演習	1	b	火	1,2	高橋 謙造 准教授	
	国際保健学特論		1		講義 演習	1	b	水	5,6	福田 吉治 教授	オムニバス
	保健政策・医療管理学特殊研究		12		演習	1~3	通年	-		中田 義規 教授	

18. 授業時間割

公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻博士後期課程時間割

		前期		後期		
曜日	時限	前半8週(a学期)	後半8週(b学期)	前半8週(c学期)	後半8週(d学期)	
		4/7(月)~6/10(火)	6/4(水)~7/31(木)	9/16(火)~12/1(月)	11/12(水)~2/26(木)	
月	1	9:00 10:30	医学基礎・臨床医学特論			
	2	10:45 12:15				
	3	13:15 14:45	公衆衛生学特論IV (保健政策・医療管理学)	医療管理学特論		
	4	15:00 16:30				
	5	16:45 18:15				
	6	18:30 19:45				
火	1	9:00 10:30	生物統計学特論 I (生物統計学応用)	地域医療学 特論	生物統計学特論 I (生物統計学応用)	
	2	10:45 12:15			データ解析演習	
	3	13:15 14:45	公衆衛生学特論IV (保健政策・医療管理学)	臨床試験特論		
	4	15:00 16:30		疫学特論II(理論と方法)		
	5	16:45 18:15	疫学特論 I (臨床疫学)		保健政策学 特論I	
	6	18:30 19:45				
水	1	9:00 10:30	公衆衛生学特論II (生物統計学)			
	2	10:45 12:15			組織管理学特論	
	3	13:15 14:45	公衆衛生学特論V (社会行動科学)		産業・環境医学特論	
	4	15:00 16:30	公衆衛生倫理学特論	生物統計学特論 II (統計モデル)		医療経済学特論
	5	16:45 18:15		国際保健政策学特論	保健政策学特論I	
	6	18:30 19:45				
木	1	9:00 10:30			産業保健学特論	
	2	10:45 12:15				
	3	13:15 14:45	公衆衛生学特論 I (疫学)		疫学特論 I (臨床疫学)	
	4	15:00 16:30				
	5	16:45 18:15	公衆衛生学特論III (産業保健・環境保健学)	リスク科学特論	公害特論	地球環境・災害科学特論
	6	18:30 19:45			産業・環境工学特論	
金	1	9:00 10:30	特殊研究		特殊研究	
	2	10:45 12:15				
	3	13:15 14:45				
	4	15:00 16:30				
	5	16:45 18:15				
	6	18:30 19:45				

冬季(w学期)

1月集中講義	疫学特論III(臨床疫学の展開)	生物統計学特論III(生物統計学の展開)
	疫学特論IV(行動科学・社会疫学)	保健政策学特論II
	産業・環境保健学特論	

公衆衛生学専攻 博士後期課程 時間割表

平成27年度

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木		
4月				入学式				公衛II					医学基礎	統計I	公衛II						医学基礎	統計I	公衛II					医学基礎	統計I			
								公衛II						医学基礎	統計I	公衛II						医学基礎	統計I	公衛II					医学基礎	統計I		
								公衛IV	公衛V	公衛I				公衛IV	公衛V	公衛I	公衛I					公衛IV	公衛V	公衛I	公衛I				公衛IV	公衛V	公衛I	公衛I
								公衛IV	公衛倫	公衛I				公衛IV	公衛倫	公衛I	公衛倫					公衛IV	公衛倫	公衛I	公衛倫				公衛IV	公衛倫	公衛I	公衛倫
								疫学I		公衛III					疫学I		公衛III					疫学I		公衛III					疫学I		公衛III	公衛III
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土		
5月	医学基礎											医学基礎	統計I	公衛II					医学基礎	統計I	公衛II					医学基礎	統計I	公衛II				
	医学基礎											医学基礎	統計I	公衛II					医学基礎	統計I	公衛II					医学基礎	統計I	公衛II				
	公衛IV						公衛I	公衛V				公衛IV	公衛V	公衛I					公衛IV	公衛V	公衛I					公衛IV	公衛V	公衛I	公衛I			
	公衛IV						公衛I	公衛倫				公衛IV	公衛倫	公衛I						公衛IV	公衛倫	公衛I					公衛IV	公衛倫	公衛I	公衛倫		
							公衛III						疫学I		公衛III					疫学I		公衛III					疫学I		公衛III	公衛III		
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火		
6月	医学基礎	統計I	公衛II				医学基礎	統計	地域	公衛II				医学基礎	統計I	公衛II			医学基礎	統計I	公衛II					医学基礎	統計I	公衛II				
	医学基礎		公衛II				医学基礎	統計	地域	公衛II				医学基礎	統計I	公衛II			医学基礎	統計I	公衛II					医学基礎	統計I	公衛II				
		公衛IV	公衛V	公衛I				医療管理		公衛I	公衛I			医療管理	臨床試験	公衛V	公衛I			医療管理	臨床試験	公衛V	公衛I			医療管理	臨床試験	公衛V	公衛I	臨床試験		
			公衛倫	公衛I				疫学II	統計II	公衛I				疫学II	統計II	公衛I				疫学II	統計II	公衛I				疫学II	統計II	公衛I	疫学II	疫学II		
		疫学I		リウ科学				疫学	保健	国際	リウ科学			疫学	保健	国際	リウ科学			疫学	保健	国際	リウ科学			疫学	保健	国際	リウ科学	疫学		
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木		
7月	公衛II					医学基礎	地域	公衛II					医学基礎	統計	地域	公衛II				統計I	公衛II	医学基礎				医学基礎	統計I	統計	公衛II			
	公衛II					医学基礎	地域	公衛II					医学基礎	統計	地域	公衛II				統計I	公衛II	医学基礎				医学基礎	統計I	統計	公衛II			
	公衛V	公衛I					医療管理	臨床試験	公衛V	公衛I			医療管理	臨床試験	公衛V	公衛I				臨床試験	公衛V	公衛I				医療管理	臨床試験	公衛V	公衛I	臨床試験		
	統計II	公衛I					疫学II	統計II	公衛I				疫学II	統計II	公衛I					疫学II	統計II	公衛I				疫学II	統計II	公衛I	疫学II	疫学II		
	国際	リウ科学					疫学I		リウ科学				疫学I		リウ科学					疫学I		リウ科学				疫学I		リウ科学	リウ科学			
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
曜日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土			
8月																																
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水		
9月																	産業															
																	産業															
																	組織															
																	医療															
																	産環															

公衆衛生学専攻 博士後期課程 時間割表

平成27年度

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土			
10月	産業保健 産学I 疫学I 公害特論 産環工学					統計I データ解析	組織管理 産学I 疫学I 産環工学						統計I データ解析	組織管理 産学I 疫学I 産環工学						統計I データ解析	組織管理 産学I 疫学I 産環工学					統計I データ解析	組織管理 産学I 疫学I 産環工学							
	11月				組織管理						統計I データ解析	組織管理														統計I データ解析								
		12月	統計I データ解析																															
			1月	Harvard Special Session 2015 ◆疫学特論Ⅲ(疫学研究の展開)◆疫学特論Ⅳ(行動科学・社会疫学)◆生物統計学特論Ⅲ(生物統計学の展開)◆産業・環境保健学特論◆保健政策学特論Ⅱ																														
				2月					統計I データ解析																									
3月					リスク科学特論(医療判断学含む)	組織管理学特論	公衆衛生倫理学特論																											
	産環医学				産業保健	産環工学	公害特論	地球環境																										
	産学I	疫学I			疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	
	産学I	疫学I	疫学I		疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I		
	産学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I	疫学I		



# 博士後期課程

## 19. 授業計画（シラバス）

共通科目	・リスク科学特論（医療判断学含む）	・・・	127
	・組織管理学特論	・・・	128
	・公衆衛生倫理学特論	・・・	129
	・公衆衛生学特論Ⅰ（疫学）	・・・	130
	・公衆衛生学特論Ⅱ（生物統計学）	・・・	132
	・公衆衛生学特論Ⅲ（産業保健・環境保健学）	・・・	134
	・公衆衛生学特論Ⅳ（保健政策・医療管理学）	・・・	135
	・公衆衛生学特論Ⅴ（社会行動科学）	・・・	137
	・医学基礎・臨床医学特論	・・・	139
疫学・生物統計学分野 （専門科目）	・疫学特論Ⅰ（臨床疫学）	・・・	141
	・疫学特論Ⅱ（理論と方法）	・・・	143
	・疫学特論Ⅲ（疫学研究の展開）	・・・	144
	・疫学特論Ⅳ（行動科学・社会疫学）	・・・	146
	・生物統計学特論Ⅰ（生物統計学応用）	・・・	147
	・生物統計学特論Ⅱ（統計モデル）	・・・	149
	・生物統計学特論Ⅲ（生物統計学の展開）	・・・	150
	・データ解析演習	・・・	151
	・臨床試験特論	・・・	153
	・疫学・生物統計学特殊研究	・・・	154
産業保健・環境保健学分野 （専門科目）	・産業・環境医学特論	・・・	155
	・産業保健学特論	・・・	156
	・産業・環境工学特論	・・・	157
	・公害特論	・・・	158
	・地球環境・災害科学特論	・・・	159
	・産業・環境保健学特論	・・・	160
	・産業・環境保健学特殊研究	・・・	161
保健政策・医療管理学分野 （専門科目）	・保健政策学特論Ⅰ	・・・	162
	・保健政策学特論Ⅱ	・・・	163
	・医療経済学特論	・・・	164
	・医療管理学特論	・・・	165
	・地域医療学特論	・・・	167
	・国際保健学特論	・・・	168
	・保健政策・医療管理学特殊研究	・・・	169





<b>科目名</b>	<b>リスク科学特論 (医療判断学含む)</b>	<b>必修</b>	<b>1 単位</b>
------------	--------------------------	-----------	-------------

<b>科目責任者</b>	矢野 栄二 教授
--------------	----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期(後半)	<b>曜日・時限</b>	木曜 5時限	<b>授業方法</b>	講義
-------------	-----	-------------	--------	--------------	--------	-------------	----

<b>教育目標</b>	リスク科学の基本となる米科学アカデミーのリスク評価の体系を学び、リスク管理に必要な論理的な判断学とそれをリスクコミュニケーションに生かす。
-------------	---

<b>行動目標</b>	公衆衛生学博士課程の全員に必須とされる共通科目として、環境と健康の関わりを理解することを大きな目的としつつ、その科学的な理解分析の体系として、リスク科学をリスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションそれぞれについて実例を用いつつ学ぶ。有害性の認知と評価、曝露評価の基礎、環境疫学、許容濃度の設定、許容濃度とリスク管理、リスク認知とリスク回避行動、リスクリテラシーおよび医療判断学の各セッションを含む。
-------------	--

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	6/4(木)	5	矢野 栄二 教授 原 邦夫 教授	リスクアセスメントとリスクマネジメント
	2	6/11(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 栄二 教授	有害性の認知と評価・曝露評価の基礎
	3	6/18(木)	5	矢野 栄二 教授 原 邦夫 教授	許容濃度の設定
	4	6/25(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 栄二 教授	環境影響評価
	5	7/2(木)	5	矢野 栄二 教授 原 邦夫 教授	許容濃度とリスク管理
	6	7/9(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 栄二 教授	リスクリテラシー・リスクコミュニケーション
	7	7/16(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 栄二 教授	リスク認知とリスク回避行動
	8	7/30(木)	5	矢野 栄二 教授 原 邦夫 教授	医療判断学

<b>事前準備</b>	・森澤眞輔の「環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－(コロナ社、2011.)」を事前に通読しておく。
-------------	---

<b>テキスト</b>	・毎回授業開始時に資料として配布する。
-------------	---------------------

<b>参考書</b>	・森澤眞輔. 環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－, コロナ社、2011.
------------	---

<b>評価方法</b>	・レポートおよび試験
-------------	------------

<b>科目名</b>	<b>組織管理学特論</b>	<b>必修</b>	<b>1 単位</b>
------------	----------------	-----------	-------------

<b>科目責任者</b>	中田 善規 教授		
<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	後期(前半)
		<b>曜日・時限</b>	水曜 2時限
		<b>授業方法</b>	講義

<b>教育目標</b>	医療は大きな社会システムの一部である。その医療も人間から成り立つ組織であることには変わりはない。そうした医療に関する組織でリーダーシップを発揮し組織に貢献するには人間組織の理解が不可欠である。本講義では、組織一般の理解を深めるために一般の経営学を基礎にした学習を行う。また、いわゆる正解のない分野であるため、異なる視点からの討論を中心に講義を進める。これらの内容を通じて、公衆衛生分野で将来のリーダーとなるべき人材として必須の知識・技能を修得することを基本目標とする。
-------------	--

<b>行動目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間組織一般について説明できる</li> <li>2. その一般理論を保健医療の分野に応用できる</li> </ol>
-------------	---

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/16(水)	2	中田 善規 教授	導入
	2	9/30(水)	2	中田 善規 教授	リーダーシップ
	3	10/7(水)	2	中田 善規 教授	組織の質の改善
	4	10/14(水)	2	中田 善規 教授	人材管理戦略
	5	10/21(水)	2	石川ひろの 講師(非)	コミュニケーション①
	6	10/28(水)	2	石川ひろの 講師(非)	コミュニケーション②
	7	11/4(水)	2	石川ひろの 講師(非)	コミュニケーション③
	8	11/11(水)	2	石川ひろの 講師(非)	コミュニケーション④

<b>事前学習</b>	指定文献を授業出席者全員が事前に読むことを求める。
-------------	---------------------------

<b>テキスト</b>	各授業で予習すべき文献を指定する。
-------------	-------------------

<b>参考書</b>	Drucker PF. Management: tasks, responsibilities, practices. Harper, 1973 岩崎夏海:もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら ダイアモンド社 2009年P.F.ドラッカー著、上田惇生編訳「エッセンシャルズ版マネジメント—基本と原則」ダイアモンド社 2013年
------------	---

<b>評価方法</b>	プレゼンテーション・積極的な授業参加・討論の論点の把握と対応力で評価する。
-------------	---------------------------------------

<b>科目名</b>	<b>公衆衛生倫理学特論</b>	必修	1 単位
------------	------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	中尾 睦宏 教授
--------------	----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期(前半)	<b>曜日・時限</b>	水曜 4時限	<b>授業方法</b>	講義
-------------	-----	-------------	--------	--------------	--------	-------------	----

<b>教育目標</b>	<p>公衆衛生領域の政策決定や臨床現場で必要となる倫理的判断の基礎を修得することを基本目標とする。そのため、ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言といった生命倫理と医の倫理に関する規範の意味やその歴史的流れをふまえながら、患者の基本的権利について理解する。また、真実の告知、インフォームド・コンセント、パターナリズム、死の受容、安楽死、尊厳死などの具体的問題に対して、事例を通じた討論を行う。さらに医師法や医療法といった関連する医事法制を整理し、守秘義務、応召義務、医学的無益性、医療資源の配分、メタ倫理といった様々な倫理的問題についても学ぶ。</p>
-------------	--

<b>行動目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健医療の現場において意思決定を行う際に必要な医療倫理の基本的な知識・考え方を適用できる。</li> <li>倫理的観点から対応が困難と想定される事例において、自分の考えを述べることができる。</li> </ul>
-------------	--

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/8(水)	4	中尾 睦宏 教授	医療・公衆衛生倫理学総論 医療倫理に関する歴史的背景を中心に、概略について学ぶ。
	2	4/15(水)	4	瀧本 禎之 講師(非)	医療従事者・患者関係 医療従事者が患者関係を築く上で必要となる基本的事項について学ぶ。
	3	4/22(水)	4	竹内 武昭 講師	終末期医療 終末期医療(安楽死、尊厳死を含む)の現状を学ぶとともに、医学的無益性や医療資源の配分といった観点を含めて検討し、その問題点について討論する。
	4	5/8(金)	4	中尾 睦宏 教授	公衆衛生倫理学の実際 医学的研究を行うに当たって必要な倫理的知識、具体的な倫理申請の手続きなどについて学ぶ。
	5	5/13(水)	4	瀧本 禎之 講師(非)	インフォームド・コンセント 患者の権利、インフォームドコンセントについて、その歴史的背景、法的根拠などについて学ぶ。
	6	5/20(水)	4	瀧本 禎之 講師(非)	ケース・アプローチ 臨床現場で遭遇する具体的な倫理的問題を分析する手法を学ぶ。
	7	5/27(水)	4	井上まり子 講師	公衆衛生倫理(1) 公衆衛生倫理学の沿革、主要な倫理的課題、アプローチ方法について学ぶ。
	8	6/3(水)	4	井上まり子 講師	公衆衛生倫理(2) パターナリズム、正義など主要な考え方の整理を行い、ケーススタディを用いて討論する。

<b>事前準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。</li> </ul>
-------------	--

<b>テキスト</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定のテキストは設けない。必要に応じて資料を配布する。</li> </ul>
-------------	---

<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に指定なし。</li> </ul>
------------	---

<b>評価方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記到達目標を確認するレポートやディスカッションを課す。講義の課題、レポートやディスカッションの内容を総合的に評価する。</li> </ul>
-------------	--

<b>科目名</b>	<b>公衆衛生学特論 I (疫学)</b>	<b>選択</b>	<b>2 単位</b>
------------	-----------------------	-----------	-------------

<b>科目責任者</b>	松浦 正明 教授
--------------	----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期	<b>曜日・時限</b>	木曜 3,4時限	<b>授業方法</b>	講義・演習
-------------	-----	-------------	----	--------------	----------	-------------	-------

<b>教育目標</b>	疫学の基本的な考え方と論文の批判的吟味と研究計画立案能力を修得することを基本目標とする。 ・科学的な思考方法の基礎となり、合理的な意思決定に必須の疫学の考え方を修得する。 ・各種疫学研究の技法を修得し、研究論文の批判的吟味と研究計画立案の方法を学ぶ。 講義の後半は演習にあて、練習問題や質疑を通して理解を確実なものにする。
-------------	--

<b>行動目標</b>	疫学の定義、因果関係の立証法、疫学研究の倫理指針(同意・個人情報保護を含む)にはじまり、記述疫学研究と仮説検証研究(観察研究と介入研究)の違いといった研究の分類を説明できる。 観察研究では横断研究、縦断研究(コホート研究、症例対照研究)における疫学指標、各種バイアス、研究デザイン上の特徴について説明できる。 介入研究では無作為化比較試験を含む患者臨床試験についてその構造や疫学指標について、システマティックレビュー、メタアナリシスについてもその構造や問題となる各種バイアスについて説明できる。
-------------	---

	回数	日付	時限	担当者	授業内容
<b>授業計画</b>	1	4/9(木)	3-4	松浦 正明 教授 松田 彩子 助教	医学と疫学 今日の医学の主流である生物医学的考え方と対比しつつ疫学的考え方の位置づけを学ぶ。
	2	4/16(木)	3-4	松浦 正明 教授 桑原 恵介 助教	仮説と因果関係 科学的思考の基礎として仮説の一般構造を考え、それを証明する因果関係の考え方を学ぶ。
	3	4/23(木)	3-4	松浦 正明 教授 桑原 恵介 助教	疫学研究の分類 仮説を証明する論理的方法として疫学研究のタイプ分けを学ぶ。
	4	4/30(木)	3-4	松浦 正明 教授 桑原 恵介 助教	チャンスとバイアス: 誤った判断を引き起こす原因を分類し、そのうちのバイアスのタイプ分けを学ぶ。
	5	5/7(木)	3-4	野村 恭子 准教授 桑原 恵介 助教	疫学研究分類とバイアス: バイアスを疫学研究の分類と関連づけて類型化し、その認知方法を学ぶ。
	6	5/14(木)	3-4	山岡 和枝 教授 桑原 恵介 助教	疫学と統計学
	7	5/21(木)	3-4	野村 恭子 准教授 桑原 恵介 助教	横断研究と記述研究
	8	5/28(木)	3-4	野村 恭子 准教授 桑原 恵介 助教	コホート研究
	9	6/4(木)	3-4	山岡 和枝 教授 桑原 恵介 助教	介入試験、無作為比較対照試験
	10	6/11(木)	3-4	野村 恭子 准教授 桑原 恵介 助教	症例対照研究
	11	6/18(木)	3-4	山岡 和枝 教授 桑原 恵介 助教	メタアナリシス
	12	6/25(木)	3-4	野村 恭子 准教授 桑原 恵介 助教	スクリーニング
	13	7/2(木)	3-4	野村 恭子 准教授 桑原 恵介 助教	Study Critique
	14	7/9(木)	3-4	野村 恭子 准教授 桑原 恵介 助教	疫学研究計画立案
	15	7/16(木)	3-4	松浦 正明 教授 松田 彩子 助教	疫学と公衆衛生

<b>事前学習</b>	・教材の該当箇所を事前に読んでおくこと。
-------------	----------------------

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケースで学ぶ公衆衛生学 第2版 篠原出版新社</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医学的研究のデザイン」木原雅子他訳 メディカルサイエンスインターナショナル</li> <li>・「ロスマンの疫学」第2版Kenneth J. Rothman著 篠原出版新社</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習の課題1割、期末試験7割、講義への参加度2割で判定する。</li> </ul>

<b>科目名</b>	<b>公衆衛生学特論Ⅱ (生物統計学)</b>	選択	2 単位
------------	-------------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	山岡 和枝 教授
--------------	----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期	<b>曜日・時限</b>	水曜 1,2時限	<b>授業方法</b>	講義・演習
-------------	-----	-------------	----	--------------	----------	-------------	-------

<b>教育目標</b>	臨床試験をはじめ、医学研究における統計学と疫学方法論の基礎を理解し、さらに統計解析ソフトウェアを用いて実際のデータに適用し、簡単なデータ解析を行うことができる能力に加えて、医学研究論文を批判的に読むために必要な、統計解析手法に関する基本的な知識を修得することを基本目標とする。 そのため、講義で学んだ内容を演習形式で習得する。主要な統計手法について、統計解析ソフトウェアを用いて実際にデータの解析を行う。
-------------	---

<b>行動目標</b>	医学研究で得られる様々なデータについて、無作為割付とデータの種類や分布の特徴を理解し、適切なデータの要約やグラフでの表示ができる。 推定(信頼区間)と仮説検定の概念を説明できる。 臨床試験で頻出である、反応変数が連続変数、2値変数および生存時間であるそれぞれの場合について、2群比較の方法とその際の共変量の調整方法を説明できる。サンプルサイズの設定、相関や回帰、多群比較および多重性の調整を説明できる。
-------------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/8(水)	1-2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	医学研究における調査研究デザイン、無作為割付と統計学
	2	4/15(水)	1-2	山岡 和枝 教授	データの種類、データの要約
	3	4/22(水)	1-2	山岡 和枝 教授	データのグラフ表示
	4	5/13(水)	1-2	山岡 和枝 教授	統計的推定と仮説検定(信頼区間とP値)
	5	5/20(水)	1-2	山岡 和枝 教授	連続変数の2群比較
	6	5/27(水)	1-2	山岡 和枝 教授	相関分析、回帰分析、分散分析
	7	6/3(水)	1-2	山岡 和枝 教授	2値変数(割合)の2群比較
	8	6/10(水)	1-2	山岡 和枝 教授	疫学研究における2値変数の解析
	9	6/17(水)	1-2	松浦 正明 教授	生存時間の2群比較
	10	6/24(水)	1-2	根本明日香 講師	サンプルサイズ設定
	11	7/1(水)	1-2	根本明日香 講師	多群比較・多重性の調整
	12	7/8(水)	1-2	根本明日香 講師	反応が連続変数の場合の共変量調整(2)(共分散分析・重回帰分析)
	13	7/15(水)	1-2	丹後 俊郎 教授(客)	反応が2値変数の場合の共変量調整(ロジスティック回帰分析)
	14	7/22(水)	1-2	松浦 正明 教授	反応が生存時間の場合の共変量調整(コックス比例ハザード分析)
15	7/29(水)	1-2	根本明日香 講師	その他の統計解析手法(経時データ解析など)	

事前 学習 準備	講義までに一度テキストの内容を読んでおくこと。さらに2回目以降は前回の復習として、関連するテキストの例題を自分で解くなどの自習を行うこと。
テキ スト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後俊郎:医学への統計学 第3版、朝倉書店、2013</li> <li>・適宜資料を配布する。</li> </ul>
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後俊郎:統計学のセンス、医学統計学シリーズNo.1、朝倉書店、1998</li> <li>・医学研究における実用統計学. DJ Altman著 木船義久・佐久間昭訳(サイエンティスト社)</li> <li>・はじめて学ぶ医療統計学. TDV Swinscow, MJ Campbell著 折笠秀樹監訳(総合医学社)</li> </ul>
評 価 方 法	講義・演習の課題、レポートにより評価し、判定する。

科目名	公衆衛生学特論Ⅲ(産業保健・環境保健学)	選択	1 単位
-----	----------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授
-------	---------

配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	木曜 5時限	授業方法	講義
------	-----	------	--------	-------	--------	------	----

教育目標	産業医学の対象は5千万労働者であり、公衆衛生の個別領域としては最も大きな集団を対象とすることになる。50人以上の事業所全てに義務づけられた産業医制度をはじめ各種の職域健診制度により、産業医学は、それを専門としない者も含め多くの医師や公衆衛生専門職にとって学ぶ必要のある領域となった。また、環境保健学とは、様々な環境中の有害要因による健康影響を制御して健康を保つことを目的としている。そこで、産業保健・環境保健を専門としない公衆衛生専門職が様々な形で関わることの多い、産業保健、環境保健について包括的認識を身に付けることを基本目標とする。そのためにも、この分野の第一線級の経験を聞く。
------	---

行動目標	公衆衛生の実務家として、基本的な産業保健の制度、法、組織および産業中毒学の概要を説明できる。 環境問題とそのマネジメントを俯瞰しつつ、環境からの有害影響別に対策とともに詳しく説明できる。 日本の経験である公害からも学び、公害健康被害補償法、発生者負担原則(PPP原則)や環境基本法と関連法令についても体系的に説明できる。
------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/9(木)	5	矢野 榮二 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	公害と環境因子による健康障害 健康概念、有害因子と健康障害と対策
	2	4/16(木)	5	矢野 榮二 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	職場の因子による健康障害 事業場における有害因子と健康障害と対策
	3	4/23(木)	5	矢野 榮二 教授 橋本 晴男 講師(非)	物理的有害因子__石綿 有害因子の中の物理的有害因子の一つ、石綿(アスベスト)と健康障害と対策
	4	4/30(木)	5	原 邦夫 教授 吉川 徹 准教授(客)	自主対応型労働安全衛生活動 「職場ドック」など職場の良好事例に学ぶ取組み
	5	5/7(木)	5	原 邦夫 教授 神山 宣彦 講師(非)	化学的有害因子__有機溶剤 有害因子の中の化学的有害因子の一つ、有機溶剤と健康障害と対策
	6	5/14(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 榮二 教授	公害から環境問題 環境中の有害因子による健康障害の実例に学ぶ
	7	5/21(木)	5	原 邦夫 教授 東川 麻子 講師(非)	リスク評価・管理 リスクアセスメントに基づくリスク管理方法について学ぶ
	8	5/28(木)	5	矢野 榮二 教授 原 邦夫 教授	環境疫学 人を対象とした因果関係の研究である疫学の概要とその適用

事前準備	・中央災害防止協会の『労働衛生のしおり』の第Ⅲ章・最近の労働衛生対策の展開の部分に事前に目を通しておく。
------	--

テキスト	・毎回授業開始時に資料として配布
------	------------------

参考書	・中央災害防止協会. 労働衛生のしおり
-----	---------------------

評価方法	・レポートおよび試験
------	------------



<b>科目名</b>	<b>公衆衛生学特論Ⅳ(保健政策・医療管理学)</b>	選択	2 単位
------------	-----------------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	山本 秀樹 教授 中田 善規 教授	<b>配当年度</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期(前半)	<b>曜日・時限</b>	①火曜 3,4時限 ②月曜 3,4時限	<b>授業方法</b>	講義
--------------	----------------------	-------------	-----	-------------	--------	--------------	------------------------	-------------	----

<b>教育目標</b>	保健医療政策とは限られた保健医療資源を如何に適正に分配するための原理・原則と行動計画を策定することにある。保健医療政策とは幅広い分野であり、我が国の保健医療政策について歴史および現状を理解した上で、国際的視野で保健医療政策に関する基本的な考え方を修得することを基本目標とする。また、医療現場では様々な問題が日々起こり、それに対して適切な対応を適時に求められる。そのためには医療現場の現状を知り、起こりうる問題の根本原因を見いだせることが必要となる。医療管理の基本的経営手法や医療管理に必要な経営学・経済学をベースに医療現場の現実や医療安全上の問題点等を管理者の立場で正確に把握し、解決方法を提示できる能力を身に付けることを基本目標にする。
-------------	---

<b>行動目標</b>	保健医療専門職として従事する場合に、国・自治体、国際機関などの政策を理解した上で自分の専門業務を行うことができる。医療管理上必要な医療組織・法律・医療制度・医療安全管理・医療倫理等を概観し、それぞれの問題点について議論し説明ができる。昨今マスコミなどで話題となっている医療問題についても、その根本原因を複雑な医療制度・体制・組織と関連付けて説明できる。将来医療管理者の立場に立ったときにこれらの能力を実際の場面に応用できる。
-------------	--

	回数	日付	時限	担当者	授業内容
<b>授業計画</b>	<b>①保健政策学</b>				
	1	4/7(月)	3	山本 秀樹 教授	オリエンテーション (健康とは?保健医療政策について)
	2	4/7(月)	4	山本 秀樹 教授	医療資源の配分に関する考え方 (公衆衛生と倫理・人権的側面)
	3	4/14(月)	3	山本 秀樹 教授	我が国の保健医療政策の歴史
	4	4/14(月)	4	井口 直樹 教授	我が国の保健医療政策の概要(現状)
	5	4/21(月)	3	山本 秀樹 教授	医療費の仕組みについて
	6	4/21(月)	4	山本 秀樹 教授	我が国の医療保険制度について
	7	4/28(火)	3	橋本 英樹 講師(非)	健康と社会的決定要因 (1)
	8	4/28(火)	4	橋本 英樹 講師(非)	健康と社会的決定要因 (2)
	9	5/12(火)	3	渋谷 健司 講師(非)	世界規模の保健医療政策について-WHOの役割と保健医療制度の国際比較(1)
	10	5/12(火)	4	渋谷 健司 講師(非)	世界規模の保健医療政策について-WHOの役割と保健医療制度の国際比較(2)
	11	5/19(火)	3	田宮菜奈子 講師(非)	Health Service research 保健医療サービスの質・その評価について
	12	5/19(火)	4	田宮菜奈子 講師(非)	高齢者福祉医療・介護保険制度について (3)
	13	5/26(火)	3	山本 秀樹 教授	保健医療統計と政策評価について
	14	5/26(火)	4	山本 秀樹 教授	感染症対策・母子保健対策(ワクチンの評価について)
15	6/2(火)	3	山本 秀樹 教授	まとめ	

②医療管理学					
授業計画	1	4/13(月)	3	中田 善規 教授	導入
	2	4/13(月)	4	中田 善規 教授	有害事象の未然防止
	3	4/20(月)	3	中田 善規 教授	戦略的思考
	4	4/20(月)	4	中田 善規 教授	苦情相談への対応
	5	4/27(月)	3	中田 善規 教授	モチベーション
	6	4/27(月)	4	中田 善規 教授	発生した有害事象への適切な対応
	7	5/1(金)	3	中田 善規 教授	感染症に関する安全管理
	8	5/1(金)	4	中田 善規 教授	医療機器に関する安全管理
	9	5/11(月)	3	成松 宏人 講師(非)	分子疫学と医療体制①
	10	5/11(月)	4	中田 善規 教授	モチベーション
	11	5/18(月)	3	成松 宏人 講師(非)	分子疫学と医療体制②
	12	5/18(月)	4	中田 善規 教授	暴力対応・刑事事件化対応など
	13	5/25(月)	3	成松 宏人 講師(非)	分子疫学と医療体制③
	14	5/25(月)	4	中田 善規 教授	薬剤に関する安全管理
	15	5/25(月)	5	中田 善規 教授	組織行動管理・まとめ
事前学習準備	①受講生の間での討論を重視するので、講義中に指示された資料・参考書・文献を事前に熟読しておくこと。 ②第1回講義時に指定する書籍(参考書・論文など)を当該授業までに熟読し、授業中に行う議論の準備をする。				
テキスト	①特に指定しない ②特に指定しない				
参考書	①国民衛生の動向2013/2014(厚生統計出版)、OECD publications (Health at a Glance 2013 OECD Indicators, Health Care Quality Indicators Project Initial Indicators Report - OECD Health Working Papers No.22, 2006他)、Encyclopedia of Bioethics (丸善) 他 ②第1回講義時に指定する。				
評価方法	①最終試験(70%)、レポート(20%)、講義における議論の参加度(10%)で総合評価する。 ②積極的な授業参加、討論の論点の把握と対応力:50%、レポート提出:50%				

<b>科目名</b>	<b>公衆衛生学特論 V (社会行動科学)</b>	<b>選択</b>	<b>2 単位</b>
------------	---------------------------	-----------	-------------

<b>科目責任者</b>	中尾 睦宏 教授
--------------	----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期	<b>曜日・時限</b>	水曜 3時限	<b>授業方法</b>	講義
-------------	-----	-------------	----	--------------	--------	-------------	----

<b>教育目標</b>	医学・医療分野においては、認知行動療法がうつ病、社交(社会)不安障害、摂食障害、腰痛、高血圧など各精神・身体疾患において有効であることを示すエビデンスが蓄積されている。そうした最新の行動医学理論・手法を理解し、心理社会的ストレスが心身に及ぼす影響について説明できる能力を修得することを基本目標とする。そのため、授業では行動科学理論に基づいた生活習慣の変容、健康増進活動などを導くための基本知識を学習する。また、古典的条件付け、オペラント条件付け、自己効力感、ローカス・オブ・コントロールといった行動科学の概念が健康評価にどのように役立つか討論する。
-------------	--

<b>行動目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動科学理論を健康問題へと応用した「行動医学」の概念を踏まえた上で、研修や教育の現場で説明できる。</li> <li>・医療現場での各疾患に対し行動医学的な評価法・対応法のエビデンスがどこまで集積されているか、最近の知見を説明できる。</li> <li>・行動科学の手法を用いたストレスマネジメントを集団に対して指導できる。</li> </ul>
-------------	---

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/8(水)	3	中尾 睦宏 教授	健康行動科学序論 健康行動科学の健康増進に対する価値を理解する。また健康は自分でもたらすことができるという考えに共感し、生活習慣の前向きな変化を起こす働きかけを学んでいく。
	2	4/15(水)	3	中尾 睦宏 教授	生物学的・心理学的・社会的・スピリチュアルな健康行動モデル 健康行動科学の概念について、生物学的・心理学的・社会的・スピリチュアルの面から多角的に説明できる。生活習慣に対する認知行動療法について最新の知見を学ぶ。
	3	4/22(水)	3	中尾 睦宏 教授	健康行動変容 行動変容のステージ(無関心期、関心期、活動期、維持期)を理解し、各ステージに応じた行動目標を定めることができる。
	4	5/8(金)	3	中尾 睦宏 教授	リラクゼーション反応 リラクゼーション練習に必要な基本要素を説明し、自分に適したリラクゼーション法を身につけるようになる。
	5	5/13(水)	3	中尾 睦宏 教授	自分のこころと向き合う 不安を引き起こす脳内メカニズムについて説明し、認知の歪みに気づき、前向き思考を実践できるようにする。
	6	5/20(水)	3	中尾 睦宏 教授	身体への気づき 心と身体の相互関連、特に身体が思考や感情に及ぼす影響に対する興味を高める。
	7	5/27(水)	3	竹内 武昭 講師	食事とストレス 心身の健康維持のためには、バランスのとれた食事が大切であることを理解する。
	8	6/3(水)	3	竹内 武昭 講師	運動とストレス 身体活動と冠動脈疾患リスクの関係について説明し、患者の健康度に応じた運動療法を指導できるようになる。
	9	6/10(水)	3	竹内 武昭 講師	ストレスへの気づき: ストレス認識は、自己観察の重要な部分であり、認知再構成の土台となることを理解する。
	10	6/17(水)	3	竹内 武昭 講師	認知再構成 認知療法、行動療法、認知行動療法について、臨床応用への歴史を含めて、説明できる。
	11	6/24(水)	3	竹内 武昭 講師	コーピング(ストレス対処): コーピングは、自己の対応の問題点を理解し、意識して行動選択する必要があることを学ぶ。
12	7/1(水)	3	竹内 武昭 講師	コミュニケーション 言語的・非言語的コミュニケーションを理解した上で、共感と主張を基にした効果的なコミュニケーションができるようになる。	

授業計画	13	7/8(水)	3	竹内 武昭 講師	健康行動科学の医学への応用 うつ病、不安障害、腰痛、高血圧など行動医学的治療のエビデンスが蓄積されている病態を整理し、健康行動科学の医学への応用性について学ぶ。
	14	7/15(水)	3	中尾 睦宏 教授 竹内 武昭 講師	健康行動科学の個別テーマ 健康行動科学に関するテーマを定め、その概説をする。その後にグループ単位に分かれてテーマごとに文献検索やグループ討論を行う。
	15	7/22(水)	3	中尾 睦宏 教授	まとめ 健康行動科学の最新の文献を整理し、ストレスマネジメントプログラムの臨床応用について討論をする。
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは指定しないが、事前に自分に合った行動医学または健康行動科学関連の書籍を1通り読んでおくことが望ましい。どの書籍を読んだらよいか分からないときは、下記の指定参考書でも良い。</li> <li>・各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。</li> </ul>				
テキスト	指定なし。				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筒井 末春(著), 大谷 純(著), 久住 眞理(監修). 行動科学概論 (心身健康科学シリーズ). 人間総合科学大学, 2008年</li> <li>・中尾睦宏、熊野宏昭、久保木富房(訳). リラクゼーション反応(The Relaxation Response). 星和書店, 2001年</li> </ul>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の課題、期末試験、課題レポートの提出状況を総合的に評価して判定する。</li> </ul>				

科目名	<b>医学基礎・臨床医学特論</b>	選択	2 単位
-----	--------------------	----	------

科目責任者	内田 俊也 教授
-------	----------

配当年次	1年次	配当学期	前期	曜日・時限	月曜 1、2時限	授業方法	講義
------	-----	------	----	-------	----------	------	----

教育目標	<p>公衆衛生の実務者となるうえで必要とされる医学的知識を包括的に理解すること、基本的な疾患の病因・病態を理解することを基本目標とする。</p> <p>臨床医学の入門となる必須事項を適切に理解するための講義をする。医療系出身者以外の学生への配慮から、まず人体の構造と機能について理解するため、細胞レベルから臓器レベルに至るまでの解剖学、生化学、生理学など基礎医学全般を学ぶ。理解を助けるためにビデオ学習を積極的に取り入れる。</p>
------	--

行動目標	<p>基礎医学において、「病気」と「健康」を分ける根拠は何であるかについて、個人と集団それぞれの見地からアプローチできる。</p> <p>臨床医学においては、消化器、循環器、呼吸器、腎・泌尿器、神経・筋、内分泌・代謝、メンタルヘルス、免疫・アレルギー、感染症、血液、悪性新生物、中毒の各分野に分け、各種疾患の基本的事項を説明できる。また、病気の成り立ちを理解するため重要な病態生理、病気の診断に必要な各種検査の原理や意義、最新の治療技術などについて説明できる。</p>
------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/13(月)	1	竹内 武昭 講師	医学の定義・歴史
	2	4/13(月)	2	竹内 武昭 講師	医の倫理
	3	4/20(月)	1	顧 艶紅 講師	メタボリックシンドローム・健康増進
	4	4/20(月)	2	顧 艶紅 講師	人口統計と疾病の変化
	5	4/27(月)	1	高橋 謙造 准教授	人体の構成
	6	4/27(月)	2	高橋 謙造 准教授	人体の構造と機能:骨・筋肉
	7	5/1(金)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能:呼吸器系
	8	5/1(金)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学:呼吸器疾患・中毒性疾患
	9	5/11(月)	1	中田 義規 教授	人体の構造と機能:循環器系
	10	5/11(月)	2	中田 義規 教授	臨床医学:循環器系疾患
	11	5/18(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能:消化器系
	12	5/18(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学:消化器系疾患
	13	5/25(月)	1	高橋 謙造 准教授	主要症状
	14	5/25(月)	2	高橋 謙造 准教授	主要症状
	15	6/1(月)	1	竹内 武昭 講師	人体の構造と機能:神経系
	16	6/1(月)	2	竹内 武昭 講師	臨床医学:神経筋疾患・運動器疾患

授業計画	17	6/8(月)	1	高橋 謙造 准教授	人体の構造と機能:生殖器系
	18	6/8(月)	2	高橋 謙造 准教授	臨床医学:婦人科疾患・小児疾患
	19	6/15(月)	1	高橋 謙造 准教授	人体の構造と機能:皮膚・感覚器系
	20	6/15(月)	2	高橋 謙造 准教授	臨床医学:皮膚疾患・眼疾患・耳鼻科疾患
	21	6/22(月)	1	竹内 武昭 講師	人体の構造と機能:血液、臨床医学:血液・造血器疾患
	22	6/22(月)	2	竹内 武昭 講師	臨床医学:感染症
	23	7/6(月)	1	中尾 睦宏 教授	臨床医学:精神疾患
	24	7/6(月)	2	中尾 睦宏 教授	臨床医学:精神疾患
	25	7/13(月)	1	内田 俊也 教授	人体の構造と機能:泌尿器系・内分泌系
	26	7/13(月)	2	内田 俊也 教授	臨床医学:代謝内分泌疾患・腎泌尿器疾患
	27	7/23(木)	1	顧 艶紅 講師	臨床医学:アレルギー疾患・遺伝病
	28	7/23(木)	2	顧 艶紅 講師	臨床医学:母子保健
	29	7/27(月)	1	竹内 武昭 講師	まとめ・テスト
	30	7/27(月)	2	竹内 武昭 講師	まとめ・テスト
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの各項目と事前配布資料(ある場合)を講義前に必ず熟読してくること。</li> </ul>				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学概論(コメディカルのための専門基礎分野テキスト)[単行本]北村 諭(著) 出版社: 中外医学社; 4版(2010/02) ISBN-10: 4498079159 ISBN-13: 978-449807915</li> </ul>				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適時、講義時に紹介する。</li> </ul>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の課題、試験、課題レポートの提出状況を総合的に評価して判定する。</li> </ul>				

<b>科目名</b>	<b>疫学特論 I (臨床疫学)</b>	選択	1 単位
------------	----------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	松浦 正明 教授		
<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期・後期
		<b>曜日・時限</b>	火曜5,6時限(前期) 木曜3,4時限(後期)
		<b>授業方法</b>	講義

<b>教育目標</b>	<p>科学的な医療の実践に当たり、その根幹となるEBMを学ぶ上で学問的基盤となるのが臨床疫学である。ここでは臨床上のプロセスから生じるテーマ(異常、診断、頻度、リスク、予後、治療、予防)に基づきアプローチし、臨床疫学について学んでいく。具体的にはデータの取り扱い・異常の判断基準、臨床医学的検査の有効性(感度、特異度、事後確率、ROC曲線)、リスクの評価、研究デザインとバイアス、臨床研究で用いられる統計解析結果の解釈(ロジスティック回帰分析、生存分析)、ランダム化比較試験、論文検索(系統的レビュー、コクランライブラリー)、臨床データ管理、臨床ガイドラインの検索と利用法、などについて知識と技能を身に付けることを基本目標とする。そのため、講義時間の後半は、関連する既存臨床疫学研究論文(英文)を順番に学生が選んできて全員で読み、系統的に批判的吟味を行い、論文の適切な読み方、正しい臨床研究の方法を実践的に身に付けていく。</p>
-------------	---

<b>行動目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠に基づく医療(Evidence Based Medicine: EBM)の基盤となる臨床疫学に関する知識を習得し、臨床・保健医療の現場で科学的な医療を実践することができる。</li> <li>・臨床疫学研究論文(英文)を実際に読んで討論し、論文を批判的に吟味することができる。</li> </ul>
-------------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/7(火) 9/17(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	臨床疫学序論 臨床疫学、根拠に基づいた医療のアウトラインについて学ぶ。 臨床疫学研究に関する基本的な知識を再確認するとともに、全体のコースの流れを確認する。
2	4/14(火) 9/24(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	頻 度 頻度について、表し方、取得方法、妥当性に関する解釈などを学ぶ。	
3	4/21(火) 10/1(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	異 常 データの種類、測定性能・変動、異常の判定基準等について学ぶ。	
4	4/28(火) 10/8(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	リスク: 基礎的な概念 リスクの認知、予測、評価及びその応用について学ぶ。	
5	5/12(火) 10/15(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	リスク: 曝露から疾患 コホート研究を中心に、集団を前向きに観察することにより、リスクを評価する方法及び交絡について学ぶ。	
6	5/19(火) 10/22(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	リスク: 疾患から曝露 症例対照研究を中心に、時間をさかのぼって観察することにより、リスクを評価する方法やオッズ比について学ぶ。	
7	5/26(火) 10/29(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	予 後 疾患の転帰としての予後の評価方法について学ぶ。	
8	6/2(火) 11/5(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	診 断 検査の正確さ、感度、特異度、予測値、尤度、繰り返し検査の評価について学ぶ。	
9	6/9(火) 11/12(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	治 療 仮説の検定、介入研究など治療が有効であるかの判断、特にランダム化比較試験を解釈する上で必要となる知識について学ぶ。	
10	6/16(火) 11/19(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	予 防 予防に関連する原理・戦略方法について学ぶ。	
11	6/23(火) 11/26(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	偶 然 仮説検定、必要標本数、信頼区間、多重比較、サブグループ解析、多変量解析、ベイズ理論について学ぶ。	
12	6/30(火) 12/3(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	因 果 因果関係の基本原則、因果関係を支持または否定する根拠について学ぶ。	

授業計画	13	7/7(火) 12/10(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	エビデンスの集約 システマティック・レビューの方法、メタ分析、エビデンスの内容を吟味する方法について学ぶ。
	14	7/14(火) 12/17(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	知識管理 臨床の知識管理に対する最新のアプローチ、臨床診療ガイドラインの利用法などについて学ぶ。
	15	7/21(火) 12/24(木)	5,6 3,4	松浦 正明 教授	全体のまとめ、予備日
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全15コマの講義のうち8コマ以上を受講すればよいが、履修時は事前にどの講義を受講するかを事前に科目責任者とよく相談をすること。</li> <li>・教材の該当箇所を事前に読んでおくこと。</li> </ul>				
テキスト	Clinical Epidemiology: The Essentials 5th edition Robert H. Fletcher, Suzanne W. Fletcher Lippincott Williams & Wilkins, 2014 - 255 pg.・「臨床疫学」ロバート・H・フレッチャー他著 メディカルサイエンスインターナショナル				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医学的研究のデザイン」木原雅子他訳 メディカルサイエンスインターナショナル</li> <li>・「ロスマンの疫学」第2版 Kenneth J. Rothman著 篠原出版新社</li> </ul>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習の課題2割、講義への参加度4割、各講義前に提出する論文の批判的吟味レポート4割とする。</li> </ul>				



<b>科目名</b>	<b>疫学特論Ⅱ(理論と方法)</b>	選択	1 単位
------------	---------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	松浦 正明 教授		
<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期(後半)
		<b>曜日・時限</b>	火曜 4時限
		<b>授業方法</b>	講義

<b>教育目標</b>	疫学の研究デザイン、解析計画を立てる上では、それぞれの分野の特徴に応じて適切な方法を考えることが重要である。本講義では、オムニバス方式の講義により各研究分野を概観し、疫学研究を深める上で必要とされる理論と方法についての知識を修得することを基本目標とする。
-------------	---

<b>行動目標</b>	疫学の研究分野別に、その分野に特徴的な状況、研究の目的、アプローチ法と、適用される理論を説明できる。 (たとえば、地域診断や症候サーベイランスでは空間疫学的アプローチが必要となるし、医薬品の安全性確保などのためには市販後サーベイランスの実際を知る必要がある)
-------------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	6/9(火)	4	山岡 和枝 教授	社会調査方法論と疫学研究(1)
	2	6/16(火)	4	山岡 和枝 教授	社会調査方法論と疫学研究(2)
	3	6/23(火)	4	桑原 慶介 助教	行動科学と社会疫学(1)
	4	6/30(火)	4	中尾 睦宏 教授	行動科学と社会疫学(2)
	5	7/7(火)	4	松浦 正明 教授	症候サーベイランス(1)
	6	7/14(火)	4	松浦 正明 教授	症候サーベイランス(2)
	7	7/21(火)	4	顧 艶紅 講師	感染症の疫学研究
	8	7/28(火)	4	根本 明日香 講師	市販後サーベイランス

<b>事前準備</b>	2回目以降は前回の復習として、関連するテキストの例題を自分で解くなどの自習を行うこと。
-------------	---

<b>テキスト</b>	・適宜資料を配布する。
-------------	-------------

<b>参考書</b>	Clinical Epidemiology: The Essentials. Fourth edition. Robert H. Fletcher, Suzanne W. Fletcher (Lippincott Williams & Wilkins)
------------	--

<b>評価方法</b>	講義の課題、レポートにより評価し、判定する。
-------------	------------------------

<b>科目名</b>	<b>疫学特論Ⅲ(疫学研究の展開)</b>	選択	1 単位
------------	-----------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	Martin Burton客員教授(※)
--------------	----------------------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	冬季(1月)	<b>曜日・時限</b>	後日通知	<b>授業方法</b>	集中講義
-------------	-----	-------------	--------	--------------	------	-------------	------

<b>教育目標</b>	<p>疫学研究のデザインとデータ解析の概念的基礎を身に付けることを基本目標とする。この「基礎」には原因を定義する概念的根拠、因果推論の理解、疾患発生と曝露の計測、信頼性と妥当性を高めるためのコホート研究と症例対照研究のデザイン、データの解析と解釈のための量的方法が含まれる。</p> <p>そのため本授業では、次のような話題について触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 批判的評価とデータ分析の技術を身につける</li> <li>・ システマチックレビューの正式な過程を使ってエビデンス合成の性質と技術を理解する</li> <li>・ 治療と診断に関する論文評価に必要な基礎的統計概念を復習する</li> <li>・ ガイドラインの理論と作成を理解する</li> <li>・ 臨床ガイドラインを評価する</li> <li>・ 医療政策策定と資源配分の原理を理解する</li> <li>・ 英国医療制度を理解する</li> <li>・ 研究の価値の必要性を認識する</li> </ul>
-------------	---

<b>行動目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 構成要因としての原因と機序に基づく原因を峻別できる。</li> <li>2. 基本的疫学指標の特性を説明できる。</li> <li>3. 主要なコホート研究のタイプを述べ、相互の違いを指摘できる。</li> <li>4. コホート研究と症例対照研究の概念的な類似性と差違を説明できる。</li> <li>5. 影響を推定するときに信頼性とバイアスの果たす役割を述べ、それを以下に制御するかを論ずることができる。</li> <li>6. 測定の演習として研究論文を読むことの利点を説明できる。</li> <li>7. 統計学的相互作用と生物学的相互作用を区別し、後者の測定法を説明できる。</li> <li>8. 層別化分析について回帰モデルとの対比で利点、欠点を列挙する。</li> </ol>
-------------	---

	回数	日付	時限	担当者	授業内容
<b>授業計画</b>	1			Martin Burton 教授(客)	因果と因果推論
	2			Martin Burton 教授(客)	疫学における発生と影響の指標
	3			Martin Burton 教授(客)	コホート研究のデザイン
	4		後日通知	Martin Burton 教授(客)	症例対照研究のデザイン
	5			Martin Burton 教授(客)	研究デザインにおけるランダムエラーとバイアスの対処法
	6			Martin Burton 教授(客)	データ解析の原則
	7			Martin Burton 教授(客)	生物学的相互作用の推定
	8			Martin Burton 教授(客)	層別化分析対回帰モデル
(各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。)					
※担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。					
※また、具体的な授業日時については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。					

<b>事前準備</b>	事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。
-------------	----------------------------

テキスト	Trisha Greenhalgh: How to Read a Paper: The Basics of Evidence-Based Medicine Bjorn Andersen: Methodological Errors in Medical Research – an incomplete catalogue
参考書	講義で紹介。
評価方法	受講者はすべての講義に出席し、講義前に講義資料を読み、講義内討論に積極的に参加することが求められる。また、コース終了後に最終筆記試験が予定されている。

<b>科目名</b>	<b>疫学特論IV(行動科学・社会疫学)</b>	<b>選択</b>	<b>1 単位</b>
------------	--------------------------	-----------	-------------

<b>科目責任者</b>	Ichiro Kawachi客員教授(※)
--------------	-----------------------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	冬季(1月)	<b>曜日・時限</b>	後日通知	<b>授業方法</b>	集中講義
-------------	-----	-------------	--------	--------------	------	-------------	------

<b>教育目標</b>	人々の健康状態を評価しその理論モデルを構造化するための基本知識の修得と、疫学研究を実証的に進めるために必要な概念や手法を身に付けることを基本目標とする。
-------------	--

<b>行動目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会階級、性別、貧困、収入格差、ソーシャルネットワーク/サポート、コミュニティの結束、心理社会的な仕事環境、近隣関係など社会的要因が人々の健康に及ぼす影響について理解できるようになる。</li> <li>・上記の考え方をいながらハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを説明し、コミュニティレベルの健康決定要因、ソーシャルキャピタル、職場ストレスモデルなどに基づいた人々の健康問題への介入方法を提言できるようになる。</li> </ul>
-------------	---

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1			Ichiro Kawachi 教授(客)	健康の社会決定要因の概説
	2			Ichiro Kawachi 教授(客)	予防のパラドックスと予防の戦略
	3			Ichiro Kawachi 教授(客)	社会経済状態、測定と原因とみなせるエビデンス
	4			Ichiro Kawachi 教授(客)	収入格差と健康
	5			Ichiro Kawachi 教授(客)	ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポートと健康
	6			Ichiro Kawachi 教授(客)	ソーシャルキャピタル、社会の結束と健康
	7			Ichiro Kawachi 教授(客)	心理社会的な仕事環境と健康
	8			Ichiro Kawachi 教授(客)	健康格差の是正:政策の観点から

(各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。)

※担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。

※また、具体的な授業日時については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<b>事前準備</b>	事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。
-------------	----------------------------

<b>テキスト</b>	Berkman LF & Kawachi I (eds). Social Epidemiology. New York: Oxford University Press, 2000.
-------------	---

<b>参考書</b>	講義で紹介。 カワチ イチロー. 命の格差は止められるか: ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業, 小学館101新書, 2013年
------------	---

<b>評価方法</b>	コース終了後に4つのショートエッセイ形式の問題を含めた2時間の筆記試験を行う。
-------------	---

<b>科目名</b>	<b>生物統計学特論 I (生物統計学応用)</b>	選択	1 単位
------------	----------------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	山岡 和枝 教授
--------------	----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期・後期	<b>曜日・時限</b>	火曜 1時限	<b>授業方法</b>	講義
-------------	-----	-------------	-------	--------------	--------	-------------	----

<b>教育目標</b>	<p>医学研究で頻繁に用いられる応用的で高度な統計解析手法に関する基本的な知識を修得することを基本目標とする。そのため、本講義では解析結果を正しく解釈できるよう、モデルの特性について実例を中心として学習する。</p>
-------------	--

<b>行動目標</b>	<p>医学研究で頻繁に用いられる応用的で高度な統計解析手法(特に統計モデル)について説明できる。各モデルの仮定を理解し、仮定が満たされているかの確認方法、仮定が満たされない場合の対処方法を説明できる。交互作用、変数選択、モデルの当てはまり、結果の解釈などについて、医学論文でどのように報告されるかなどを説明できる。</p>
-------------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/15(火) 9/29(火)	1	山岡 和枝 教授	統計モデル入門
	2	4/21(火) 10/6(火)	1	山岡 和枝 教授	線形モデル(1)
	3	4/28(火) 10/13(火)	1	山岡 和枝 教授	線形モデル(2)
	4	5/12(火) 10/20(火)	1	山岡 和枝 教授	線形モデル(3)
	5	5/19(火) 10/27(火)	1	山岡 和枝 教授	ロジスティック回帰モデル(1)
	6	5/26(火) 11/10(火)	1	山岡 和枝 教授	ロジスティック回帰モデル(2)
	7	6/2(火) 11/17(火)	1	山岡 和枝 教授	ロジスティック回帰モデル(3)
	8	6/9(火) 11/24(火)	1	山岡 和枝 教授	コックス比例ハザードモデル(1)
	9	6/16(火) 12/1(火)	1	山岡 和枝 教授	コックス比例ハザードモデル(2)
	10	6/23(火) 12/8(火)	1	山岡 和枝 教授	関連性の分析
	11	6/30(火) 12/15(火)	1	丹後 俊郎 教授(客)	空間集積性
	12	7/14(火) 12/22(火)	1	山岡 和枝 教授	ポアソン回帰モデル
	13	7/21(火) 2/5(金)	1	山岡 和枝 教授	母数効果モデル・混合効果モデル(1)
	14	7/28(火) 2/9(火)	1	山岡 和枝 教授	母数効果モデル・混合効果モデル(2)
15	7/29(水) 2/16(火)	1	山岡 和枝 教授	母数効果モデル・混合効果モデル(3)	

事前 学習 準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全15コマの講義のうち8コマ以上を受講すればよいが、履修時はどの講義を受講するかを事前に科目責任者とよく相談をすること</li> <li>・2回目以降は前回の復習をし、提出した課題についてその意味を理解し、同じ問題が出たときに対処できるようにしておくこと。</li> </ul>
テキ スト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜資料を配布する。</li> </ul>
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新版 ロジスティック回帰分析. 丹後俊郎・山岡和枝・高木晴良(朝倉書店)</li> <li>・統計モデル入門. 丹後俊郎(朝倉書店)</li> <li>・医学的研究のための多変量解析. MH Katz. 木原雅子・木原正博訳(メディカルサイエンスインターナショナル)</li> <li>・生存時間解析 -SASによる生物統計. 大橋靖雄・浜田知久馬(東京大学出版会)</li> <li>・Cox比例ハザードモデル. 中村剛.(朝倉書店)</li> </ul>
評 価 方 法	<p>講義の課題、レポートにより評価し、判定する。</p>

<b>科目名</b>	<b>生物統計学特論Ⅱ(統計モデル)</b>	選択	1 単位
------------	------------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	松浦 正明 教授		
<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期(後半)
		<b>曜日・時限</b>	水曜 4時限
		<b>授業方法</b>	演習

<b>教育目標</b>	医学研究で用いられる応用的で高度な統計解析手法に関する専門的な知識を修得する。
-------------	---

<b>行動目標</b>	試験(実験)デザインと統計解析が密接な関係があることを学ぶ。その代表的な解析法が分散分析モデル(線形モデル)の考え方である研究デザインとデータの性質(母数モデル、変量モデル、バランス型、アンバランス型など)に応じた分散分析モデルとその解釈、また、その際浮上する検定の多重性について理解し、多重性を調整する多重比較の方法について学習する。
-------------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	6/10(水)	4	根本 明日香 講師	一般線形モデル、一般化線形モデル
	2	6/17(水)	4	根本 明日香 講師	分散分析
	3	6/24(水)	4	山岡 和枝 教授	母数効果モデル(1)
	4	7/1(水)	4	山岡 和枝 教授	母数効果モデル(2)
	5	7/8(水)	4	松浦 正明 教授	経時データの分析(1)
	6	7/15(水)	4	松浦 正明 教授	経時データの分析(2)
	7	7/22(水)	4	松浦 正明 教授	階層構造をもつデータの分析(1)
	8	7/29(水)	4	山岡 和枝 教授	階層構造をもつデータの分析(2)

<b>事前準備</b>	2回目以降は前回の復習をし、提出した課題についてその意味を理解し、同じ問題が出たときに対処できるようにしておくこと。 指定した課題について、レポートの提出または授業中の発表を求められることがある。
-------------	---

<b>テキスト</b>	・適宜資料を配布する。
-------------	-------------

<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新版ロジスティック回帰分析 ―SASを利用した統計解析の実際―. 丹後俊郎・山岡和枝・高木晴良(朝倉書店).</li> <li>・Applied Longitudinal Analysis 2nd Edn. Fitzmaurice GM, Laird NM, Ware JH. New Jersey: John Wiley &amp; Sons.</li> <li>・統計モデル入門. 丹後俊郎(朝倉書店).</li> </ul>
------------	---

<b>評価方法</b>	演習の課題、発表、レポートにより総合的に評価し、判定する。
-------------	-------------------------------

<b>科目名</b>	<b>生物統計学特論Ⅲ(生物統計学の展開)</b>	選択	1 単位
------------	---------------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	Marcello Pagano客員教授(※)
--------------	------------------------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	冬季(1月)	<b>曜日・時限</b>	(未定)	<b>授業方法</b>	集中講義
-------------	-----	-------------	--------	--------------	------	-------------	------

<b>教育目標</b>	この講義はモニタリングと評価研究における一般的な、および新しい量的方法の入門講義である。本講義では、モニタリングと評価研究における統計学の基本的な概念と方法を理解し、適切なデザイン、適切なデータの同定、基本的な統計学的手法、包括的なシステムのための手法の統合、より複雑な方法への応用できる能力の修得を基本目標とする。
-------------	--

<b>行動目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目の前の課題に対して適切なモニタリング評価システムをデザインできる。</li> <li>2. データの限界を踏まえ適切に解釈することも含め、適切なデータを同定できる。</li> <li>3. プログラムのモニタリング評価で使われる基本的・一般的な統計学的手法を用いることができる。</li> <li>4. 包括的モニタリング評価システムのために複数の手法を統合できる。</li> <li>5. モニタリング評価システムについて、基本要素からより複雑な手法への拡張を説明できる。</li> </ol>
-------------	---

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1			Marcello Pagano 教授(客)	モニタリングと評価(M&E)の紹介
	2			Marcello Pagano 教授(客)	評価の枠組みと指標
	3			Marcello Pagano 教授(客)	集団の測定
	4			Marcello Pagano 教授(客)	統計モデルのレビュー
	5			Marcello Pagano 教授(客)	調査法1
	6			Marcello Pagano 教授(客)	調査法2
	7			Marcello Pagano 教授(客)	M&Eにおける共通するエラー源を修正する方法
	8			Marcello Pagano 教授(客)	ヘルスシステムにおける品質管理

(各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。)

※担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。

※また、具体的な授業日時については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<b>事前準備</b>	カイ2乗検定や回帰分析などの統計学的手法の基礎に関する事前知識を前提とする。 下記参考書程度の事前知識を前提とする。
-------------	---

<b>テキスト</b>	事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。
-------------	----------------------------

<b>参考書</b>	生物統計学入門:ハーバード大学講義テキスト(Marcello Pagano, Kimberlee Gauvreau著;竹内正弘監訳.丸善)
------------	---

<b>評価方法</b>	コース終了後に筆記試験を行う。
-------------	-----------------



<b>科目名</b>	<b>データ解析演習</b>	<b>選択</b>	<b>1 単位</b>
------------	----------------	-----------	-------------

<b>科目責任者</b>	松浦 正明 教授
--------------	----------

<b>配当年度</b>	1年次	<b>配当学期</b>	後期	<b>曜日・時限</b>	火曜 2時限	<b>授業方法</b>	演習
-------------	-----	-------------	----	--------------	--------	-------------	----

<b>教育目標</b>	<p>実際の医学研究におけるデータを用いて、統計解析ソフトウェアを利用し、研究デザインやデータの特徴に応じた解析計画の立案・解析の実施・結果の報告について学習し、データハンドリングについての基本的能力を修得することを基本目標とする。</p> <p>そのため、各種統計手法を用いて、交絡要因の調整を含むデータ解析演習およびコンペティションにより理解を深める。また、基礎的データ(I)から複雑なデータ(IV)に関して演習を行い、欠損値等を含むデータハンドリングについて実践に則した技術を学ぶ。</p>
-------------	--

<b>行動目標</b>	<p>グループ演習を通じて、実際のデータを用いて、統計解析ソフトウェアを利用し、(1)解析計画の立案、(2)解析の実施と解析報告の作成、および(3)発表を行うことができる。</p> <p>実際の医学研究で行われる、患者背景の集計、主要解析、探索的解析など一連の解析を行うことができる。</p>
-------------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/29(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 I (1)
	2	10/6(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 I (2)
	3	10/13(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 I (3)
	4	10/20(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 II (1)
	5	10/27(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 II (2)
	6	11/10(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 II (3)
	7	11/17(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 II (4)
	8	11/24(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 III (1)
	9	12/1(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 III (2)
	10	12/8(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 III (3)
	11	12/15(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 III (4)
	12	12/22(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 IV (1)
	13	2/5(金)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 IV (2)
	14	2/9(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 IV (3)
15	2/16(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習 IV (4)	

事前準備 学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全15コマの講義のうち8コマ以上を受講すればよいが、履修時はどの講義を受講するかを事前に科目責任者とよく相談をすること</li> <li>・グループ演習に際して次回の授業までに解析および発表資料作成を行ってくるなど、授業時間外の取り組みを求める。</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜資料を配布する。</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床試験ハンドブック. 丹後俊朗・上坂浩之編(朝倉書店)</li> <li>・臨床試験の計画と解析. 上坂浩之(朝倉書店)</li> </ul>
評価方法	<p>演習の課題、発表、レポートにより評価し、判定する。</p>

<b>科目名</b>	<b>臨床試験特論</b>	選択	1 単位
------------	---------------	----	------

<b>科目責任者</b>	山岡 和枝 教授
--------------	----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期(後半)	<b>曜日・時限</b>	火曜 3時限	<b>授業方法</b>	講義
-------------	-----	-------------	--------	--------------	--------	-------------	----

<b>教育目標</b>	臨床試験の試験実施計画書および解析計画書の内容等の臨床試験の計画、実施、解析および報告を行う際の理論的および実践的両側面と、最高のエビデンスレベルが期待される無作為化比較試験(randomized controlled trials)の統計学的デザインと評価に必要な統計学の基礎知識といった臨床試験に関する専門的な内容の知識を修得することを基本目標とする。 本講義では、最近の臨床試験のトピックスを合わせながら学習する。
-------------	---

<b>行動目標</b>	臨床的同等性・非劣性試験の評価、グループ逐次デザイン、ブリッジング試験、クロスオーバー試験、クラスター無作為化試験、主要評価項目の測定誤差の評価について説明できる。 試験統計家という立場で必要な薬物動態・薬物力学解析について説明できる。
-------------	---

	回数	日付	時限	担当者	授業内容
<b>授業計画</b>	1	6/16(火)	3	山岡 和枝 教授	臨床試験概論
	2	6/23(火)	3	山岡 和枝 教授	無作為化比較試験・クラスター無作為化比較試験
	3	6/30(火)	3	松浦 正明 教授	非劣性・同等性試験
	4	7/7(火)	3	松浦 正明 教授	グループ逐次デザイン、ブリッジング試験、クロスオーバー試験
	5	7/14(火)	5	根本 明日香 講師	臨床薬理試験、薬物動態・薬物力学解析
	6	7/21(火)	3	松浦 正明 教授	トランスレーショナルリサーチ
	7	7/28(火)	3	松浦 正明 教授	がんの臨床試験
	8	7/29(水)	3	根本 明日香 講師	倫理・利益相反

<b>事前学習</b>	2回目以降は前回の復習をし、提出した課題についてその意味を理解し、同じ問題が出たときに対処できるようにしておくこと。 指定した課題について、レポートの提出または授業中の発表を求められることがある。
-------------	---

<b>テキスト</b>	・適宜資料を配布する。
-------------	-------------

<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無作為化比較試験：デザインと統計解析. 丹後俊郎(朝倉書店)</li> <li>・臨床試験のデザインと解析. J.L.フライス著, KR研究会(関西臨床データ解析研究会)訳(株アーム)</li> </ul>
------------	---

<b>評価方法</b>	講義の課題、発表、レポートにより総合的に評価し、判定する。
-------------	-------------------------------

<b>科目名</b>	<b>疫学・生物統計学特殊研究</b>	選択	12単位
------------	---------------------	----	------

<b>科目責任者</b>	研究指導教員(※)						
<b>配当年次</b>	1～3年次	<b>配当学期</b>	前期・後期	<b>曜日・時限</b>	(個別設定)	<b>授業方法</b>	演習

<b>教育目標</b>	疫学・生物統計分野の研究テーマにおいて、公衆衛生学の研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について指導を実施する一方、学生自らが自立して研究テーマを模索し、結果をまとめ、情報を発信する実践者としてのコンピテンス(成果達成のために求められる能力)を身に付けることを基本目標とする。 尚、個々の学生のこれまでのキャリア、能力、進路希望等を踏まえた適切な指導を実施する。						
<b>行動目標</b>	論文作成能力に加えて、保健医療システムの変革者(Change Agent)として具体的な成果を生み出すことができる。 (より具体的な行動目標については、別途予定されている合同ガイダンスや研究指導教員との個別面談を通じて学生ごとに設定する)						
<b>授業計画</b>	<b>回数</b>	<b>日付</b>	<b>時限</b>	<b>担当者</b>	<b>授業内容</b>		
	<p><b>【概要】</b> 疫学や生物統計学の分野の研究で特に必要とされる研究手法について、深く追求する。特に理論面を重視して、現実社会への応用を評価してゆく。具体的内容は各研究課題に合わせて柔軟に対応する。</p> <p><b>【研究指導教員と主な指導内容】</b> 研究指導教員は個々の学生の研究テーマに応じて以下の3名から指名される。指導日程については当該指導教員と相談し別途定める。</p> <p>(山岡和枝) メタアナリシス、無作為化比較試験、社会調査研究、質問票の信頼性研究、QOL研究、その他臨床研究など</p> <p>(中尾陸宏) 行動科学的研究、精神保健に関する社会疫学的研究など</p> <p>(松浦正明) 臨床疫学的研究、トランスレーショナル研究、遺伝情報学的研究、統計学的モデルに関する研究など</p> <p>(福田吉治) 健康の社会的決定要因、健康の社会的格差、健康増進施策に関する疫学研究など</p> <p>尚、研究指導補助教員は以下の3名である。</p> <p>(顧 艶紅) 感染症の疫学的研究、母子保健に関する疫学的研究など</p> <p>(根本明日香) 臨床試験、治験の研究デザインや実施に関する研究、薬剤疫学的研究など</p> <p>(桑原恵介) 疫学的研究など</p>						
<b>事 学 前 習 準 備</b>	まずは学生各自の本分野における高い問題意識が重要である。 その上で、研究指導教員との議論を通じて問題解決に向けた研究能力・実践能力の能力開発を継続的にやっていく。						
<b>テ キ ス ト</b>	適宜提示する。						
<b>参 考 書</b>	適宜提示する。						
<b>評 価 方 法</b>	最終成果物としての研究発表だけでなく最終成果にいたるプロセスも評価対象とする。 (詳細については、別途予定されている合同ガイダンスで説明する)						

<b>科目名</b>	<b>産業・環境医学特論</b>	<b>選択</b>	<b>1 単位</b>
------------	------------------	-----------	-------------

<b>科目責任者</b>	矢野 栄二 教授
--------------	----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	後期(前半)	<b>曜日・時限</b>	水曜 3,4時限	<b>授業方法</b>	講義
-------------	-----	-------------	--------	--------------	----------	-------------	----

<b>教育目標</b>	<p>現行の労働安全衛生法を中心とした我が国の労働衛生の体系とそのための諸機関、諸制度を学び、事例を用いてその実際の運用能力を養成するための講義を行う。欧米および発展途上国の労働衛生の状況を知るとともに、わが国とは異なった自主対応型の労働衛生活動の進め方を学び、そのわが国での応用の可能性を事例を使って学習する。</p>
-------------	--

<b>行動目標</b>	<p>労働安全衛生法を中心に現行の日本の産業保健の基本となる法令を、関係する政令・規則・通達レベルまで学び、その実際の運用を関連制度・システムの運用の現行と合わせて理解する。また加えて自主管理など諸外国の主な制度・システムを知り日本のそれと対比することで、現状を批判的に分析し改善の方向性を考える能力を養成する。また、産業現場で労働者の健康上に問題となったケースや改善事例、あるいは労働災害としての認定に関する係争や裁判事例を取り上げ、多面的な角度から分析し、各関係者の立場を明確にするとともに、解決の方向性について議論する。</p>
-------------	---

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/16(水)	3	矢野 栄二 教授	環境因子による健康障害の評価と管理
	2	9/16(水)	4	矢野 栄二 教授	化学的因子(1) ガス、酸欠症、金属、有機溶剤・その他有機物、粉じん・粒子状物質、石綿
	3	9/30(水)	3	矢野 栄二 教授	物理的因子(1)放射線・電磁波・温熱、音・振動・気圧
	4	9/30(水)	4	矢野 栄二 教授	生物学的因子
	5	10/7(水)	3	矢野 栄二 教授	社会的因子
	6	10/7(水)	4	矢野 栄二 教授	環境因子による発がん・臓器別障害
	7	10/14(水)	3	矢野 栄二 教授	職業病と作業関連疾患
	8	10/14(水)	4	矢野 栄二 教授	環境因子による健康障害の予防

<b>事前準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Peter J Baxter、et al.. Hunter's Disease of Occupations. Hodder Arnold. の該当箇所を事前に読んでおく。</li> </ul>
-------------	---

<b>テキスト</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Peter J Baxter、et al.. Hunter's Disease of Occupations. Hodder Arnold.</li> <li>•中央災害防止協会. 労働衛生のしおり.</li> </ul>
-------------	---

<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•中央災害防止協会. 目で見える職業病と労働環境</li> <li>•Peter J Baxter、et al.. Hunter's Disease of Occupations. Hodder Arnold.</li> </ul>
------------	---

<b>評価方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•講義の課題、各自の症例呈示、および期末試験による。</li> </ul>
-------------	--

科目名	<b>産業保健学特論</b>	選択	1 単位
-----	----------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授
-------	---------

配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	木曜 1,2時限	授業方法	講義・演習
------	-------	------	--------	-------	----------	------	-------

教育目標	より高度な専門実務能力を身につける。とくに、職場巡視における視点を理解し、実際に適用できる能力を獲得する。
------	---

行動目標	実践的な専門知識を持った産業医・産業保健師を育成するためのカリキュラムを提供する。具体的には、労働衛生関連法規並びに国の指針・通達についての専門的な知識と理解、労働衛生管理体制の確立、労働衛生マネジメントシステムの構築と運用、有害業務の自主的な管理の方法、健診の実施と事後措置、職場改善を含めた作業管理実務、より効果的な衛生教育の実施のための方法等を学び、選任産業医のみならず専属産業医としてはもちろん、労働衛生コンサルタントとしても活躍出来る人材、あるいは自立した産業保健活動ができる高度な産業保健師としての人材育成を目指す。
------	--

	回数	日付	時限	担当者	授業内容
授業計画	1	9/17(木)	1	原 邦夫 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	職場巡視の心得(労働安全衛生法の義務、マネジメント) チェックリストエクササイズ:WISE方式について
	2	9/17(木)	2	原 邦夫 教授 杉澤 誠祐 講師(非)	職場巡視の心得(労働安全衛生法の義務、マネジメント) チェックリストエクササイズ:WISE方式について
	3	9/24(木)	1	原 邦夫 教授 東川 麻子 講師(非)	職場現場巡視。従業員面談
	4	9/24(木)	2	原 邦夫 教授 東川 麻子 講師(非)	職場現場巡視。従業員面談
	5	10/1(木)	1	矢野 榮二 教授 小木 和孝 教授(客) 東川 麻子 講師(非)	産業医の実務について 安全衛生のこれからについて
	6	10/1(木)	2	矢野 榮二 教授 小木 和孝 教授(客) 東川 麻子 講師(非)	産業医の実務について 安全衛生のこれからについて
	7	10/8(木)	1	原 邦夫 教授 東川 麻子 講師(非)	職場現場巡視。従業員面談
	8	10/8(木)	2	原 邦夫 教授 東川 麻子 講師(非)	職場現場巡視。従業員面談

事前準備	・中央災害防止協会の「労働衛生のしおり」の作業環境管理の章を事前に読んでおく。
------	---

テキスト	・毎回授業開始時に資料として配布。
------	-------------------

参考書	・中央災害防止協会. 労働衛生のしおり.
-----	----------------------

評価方法	・試験6割、自らの経験の発表3割、他者の発表への批判的検討1割。
------	----------------------------------

科目名	<b>産業・環境工学特論</b>	選択	1 単位
-----	------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授
-------	---------

配当年次	1年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	木曜 6時限	授業方法	講義
------	-----	------	--------	-------	--------	------	----

教育目標	<p>作業環境および一般環境中の有害要因の測定および評価で現在行われている作業環境測定の仕組みを学習し、結果として選択すべき対策方法を理解する。さらに、新規有害要因への対応としてのリスク管理の考え方についても学習する。</p>
------	---

行動目標	<p>作業環境あるいは一般環境から人および生態系を守るためには、環境からの有害影響をその要因から理解するとともに、それらの測定・評価・対策を実施することが重要である。一般環境あるいは作業環境に存在する様々な有害要因の測定・評価を理解した上で、具体的なケースに基づいて、選択すべき環境制御技術について学習する。産業工学分野としては、作業環境管理・作業管理で用いられる物質の代替、局所排気装置や全体換気装置等の工学的対策、作業方法、ならびに保護具の使用等について学習し、環境工学分野としては、発生源対策としての脱硫、ばいじん防止、排水処理等について学習する。</p>
------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/17(木)	6	原 邦夫 教授	日本式産業保健(労働衛生)の3管理・作業環境管理と管理区分および対策の手順・作業環境管理／・作業管理／・健康管理／／・代替／・工学的対策／・保護具
	2	9/24(木)	6	原 邦夫 教授	化学物質リスクアセスメントの考え方(コントロールバンディング)
	3	10/1(木)	6	原 邦夫 教授	化学物質リスクアセスメントの考え方(ハザード情報の収集、国連GHS勧告によるハザード分類)
	4	10/8(木)	6	原 邦夫 教授	化学物質リスクアセスメントの考え方(ばく露測定、ばく露とばく露限界値との比較、LOAELなどからばく露限界値の推定方法等)
	5	10/15(木)	6	原 邦夫 教授	曝露推定モデルの活用方法
	6	10/22(木)	6	原 邦夫 教授	局所排気装置(局所排気装置の概要、計算演習、風量測定・評価)
	7	10/29(木)	6	原 邦夫 教授	保護具・人間工学的対策
	8	11/5(木)	6	原 邦夫 教授	産業保健(労働衛生)の専門職のあり方

事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央災害防止協会の「労働衛生のしおり」の作業環境管理の章を事前に読んでおく。</li> </ul>
------	--

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として講義資料を使用する。</li> </ul>
------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央災害防止協会. 労働衛生のしおり.</li> </ul>
-----	---

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートおよび試験</li> </ul>
------	---

科目名	<b>公害特論</b>	選択	1 単位
-----	-------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授
-------	---------

配当年次	1年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	木曜 5時限	授業方法	講義・演習
------	-----	------	--------	-------	--------	------	-------

教育目標	大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・悪臭・騒音・振動・地盤沈下の典型7公害に代表される、日本が経験した公害の歴史から学び、それらの環境の有害要因から健康を守るための対策をリスク学的に学ぶ。
------	---

行動目標	環境保健学は、環境からの有害影響をその要因から理解し、対策を検討することを目的としている。環境リスク論をベースに環境保健学を理解し、環境問題とそのマネジメントを俯瞰する。
------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	9/17(木)	5	原 邦夫 教授	環境保健学とは ・環境有害因子と健康／・健康影響メカニズム／基準値／・疫学・毒性学・リスク学との関連
	2	9/24(木)	5	原 邦夫 教授	リスク管理の考え方 ・有害性特定・量反応関係評価・曝露評価・リスク判定・リスク管理・リスクコミュニケーション ・1983年の米国科学アカデミー／EPA白書 ・化審法／・良好事例(化学物質管理のCOSH Essentialsなど)
	3	10/1(木)	5	原 邦夫 教授	有害性の特定 ・物理的・化学的・生物的・社会心理的な危険性・有害性 ・GHS(分類とラベル化)・SDS(ハザード・コミュニケーションツール)
	4	10/8(木)	5	原 邦夫 教授	毒性学 ・栄養と毒性／・摂取、分布、代謝、排泄； 解毒代謝／・PBPKモデル
	5	10/15(木)	5	原 邦夫 教授	量反応関係評価 ・量反応関係と疫学・動物実験 ・外挿法(Benchmark dose),安全係数,不確実係数,NOAEL,LOAEL
	6	10/22(木)	5	原 邦夫 教授	曝露評価 ・曝露とは何か 環境曝露と職業性ばく露、曝露の評価と測定／・大気汚染、室内汚染／・曝露評価モデル
	7	10/29(木)	5	原 邦夫 教授	環境疫学I 基本 ・環境疫学の基本的事項の解説
	8	11/5(木)	5	原 邦夫 教授	環境疫学II 応用 ・環境疫学の適用例の紹介

事学準備	・典型七公害の概略を理解しておく。
------	-------------------

テキスト	・毎回授業開始時に資料として配布
------	------------------

参考書	・庄司 光，宮本 憲一：日本の公害(岩波新書 青版 941)，岩波書店，1975。 ・庄司 光，宮本 憲一：恐るべき公害(岩波新書 521)，1964。
-----	---

評価方法	・レポートおよび試験
------	------------



科目名	<b>地球環境・災害科学特論</b>	選択	1 単位
-----	--------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授
-------	---------

配当年次	1年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	木曜 5時限	授業方法	講義
------	-----	------	--------	-------	--------	------	----

教育目標	リスク学的に環境問題について具体的に深く掘り下げて学習する。また、環境災害をマネジメントする視点から、日本の取組みを考察することを狙いとする。
------	---

行動目標	地球規模の環境問題としては、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、砂漠化、広範囲の海洋汚染、産業廃棄物の国外移送などがある。それぞれの課題を深く理解するためのリスク学的な視点を学習する。さらに環境災害をマネジメントするためのマネジメントシステムを学ぶ。
------	--

	回数	日付	時限	担当者	授業内容
授業計画	1	11/12(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 榮二 教授	リスク判定__産業衛生学会・許容濃度委員会 ・リスクの概念／・判定指標／・許容濃度、管理濃度など様々な基準
	2	11/19(木)	5	原 邦夫 教授 矢野 榮二 教授	リスクコミュニケーション ・ラベル化とSDS／・ファシリテーター論
	3	11/26(木)	5	矢野 榮二 教授	物理的有害因子__石綿I ・戦後の最大規模の労災／・分析から対策まで
	4	12/3(木)	5	矢野 榮二 教授	物理的有害因子__石綿II
	5	12/10(木)	5	矢野 榮二 教授	物理的有害因子__石綿III
	6	12/17(木)	5	原 邦夫 教授	一般環境管理論 ・環境影響評価とその課題／・環境法体系、環境基準、排出基準、条例
	7	12/24(木)	5	原 邦夫 教授	環境マネジメントシステム ・マネジメントシステムの規格化の流れ／・ISO規格／・環境アセスメント法 ・一般環境管理の実際、排ガス処理・管理__公害管理者／・環境計量士
	8	2/4(木)	5	原 邦夫 教授	現在の環境問題のまとめ

事前準備	・森澤眞輔の「環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－(コロナ社、2011.)」を事前に通読しておく。 ・後半授業開始時まで、2011年の東日本大震災を経て震災対策で公衆衛生が果たすべき役割について提言をA4 I-2枚にまとめておくこと。
------	--

テキスト	・毎回授業開始時に資料として配布
------	------------------

参考書	・森澤眞輔. 環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－, コロナ社、2011. ・Daniel P Aldrich Building Resilience:Social Capital in Post-disaster recovery.(University Chicago Press)
-----	--

評価方法	・レポートおよび試験
------	------------

科目名	<b>産業・環境保健学特論</b>	選択	1 単位
-----	-------------------	----	------

科目責任者	David Christiani客員教授(※)
-------	-------------------------

配当年次	1年次	配当学期	冬季(1月)	曜日・時限	後日通知	授業方法	集中講義
------	-----	------	--------	-------	------	------	------

教育目標	環境要因への曝露と健康影響の分析を中心に学ぶことで、介入可能な環境因子がいかに公衆衛生にとって重要かという見識を身に付けることを基本目標とする。同時に、批判的思考、チームワーク、広報活動、コミュニケーション等のリーダーシップ技術の重要性についての見識も深める。
------	--

行動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境要因と疾病の関係を評価するための通常の分析機器や手法を理解し結果を考察できる。</li> <li>・環境要因と疾病の関連を量的に評価するための手法を理解し、公衆衛生施策を立案するに当たりエビデンスに基づく意思決定ができる。</li> <li>・環境や職業性有害物の急性・慢性健康影響を説明できる。</li> <li>・環境や職業性有害物により影響を被る集団を同定するための発生源や曝露経路を分析できる。</li> <li>・環境や職業性有害物の健康影響評価のための手法の特長や限界を説明できる。</li> <li>・有害な環境汚染物質への曝露を減少させ人々の健康を守る方法を説明できる。</li> </ul>
------	--

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1			David Christiani 教授(客)	産業環境保健の歴史
2			David Christiani 教授(客)	スクリーニングと調査の基本
3			David Christiani 教授(客)	発がん
4			David Christiani 教授(客)	慢性損傷
5		後日通知	David Christiani 教授(客)	じん肺 (1)
6			David Christiani 教授(客)	じん肺 (2): ILO方式、呼吸機能検査の実際
7			David Christiani 教授(客)	その他の職業性呼吸器疾患
8			David Christiani 教授(客)	重金属、有機溶剤、化学物質損傷の緊急処置

(各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。)

※担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。

※また、具体的な授業日時については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

事前準備	事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開されるので授業前に教材を読んでおくこと。
------	--

テキスト	Occupational and Environmental Health: Recognizing and Preventing Disease and Injury; Sixth edition. Barry S. Levy, David H. Wegman, Sherry L. Baron, and Rosemary K. Sokas.
------	--

参考書	各講義のText Chapterに対応する内容の日本語の教科書を読んでおくことは有用かもしれない。
-----	---

評価方法	8回の講義終了後に試験を行うが、講義への参加も評価に加える。
------	--------------------------------

科目名	<b>産業・環境保健学特殊研究</b>	選択	12単位
-----	---------------------	----	------

科目責任者	研究指導教員(※)						
配当年次	1～3年次	配当学期	前期・後期	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	演習

教育目標	産業保健・環境保健分野の研究テーマにおいて、公衆衛生学の研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について指導を実施する一方、学生自らが自立して研究テーマを模索し、結果をまとめ、情報を発信する実践者としてのコンピテンス(成果達成のために求められる能力)を身に付けることを基本目標とする。尚、個々の学生のこれまでのキャリア、能力、進路希望等を踏まえた適切な指導を実施する。						
行動目標	論文作成能力に加えて、保健医療システムの変革者(Change Agent)として具体的な成果を生み出すことができる。(より具体的な行動目標については、別途予定されている合同ガイダンスや研究指導教員との個別面談を通じて学生ごとに設定する)						
授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容		
	<p><b>【概要】</b> 産業保健や環境保健の分野の研究で特に必要とされる研究手法について、深く追求する。特に理論面を重視して、現実社会への応用を評価してゆく。具体的内容は各研究課題に合わせて柔軟に対応する。</p> <p><b>【研究指導教員と主な指導内容】</b> 研究指導教員は個々の学生の研究テーマに応じて以下の2名から指名される。指導日程については当該指導教員と相談し別途定める。</p> <p>(矢野榮二) 産業・環境要因による健康障害の原因、作用様式、対策等について医学的疫学的に調査研究し、問題解決につながる学術的研究を指導する。</p> <p>(原邦夫) 健康障害の原因となる産業・環境要因の測定、評価技術的対策等について調査研究し、問題解決につながる学術的研究を指導する。</p> <p>(福田吉治) 化学物質による環境影響について学び、産業現場の化学物質管理につながる学術的研究を指導する。</p> <p>尚、研究指導補助教員は以下の1名である。</p> <p>(竹内武昭) 産業保健領域</p>						
事前準備	まずは学生各自の本分野における高い問題意識が重要である。その上で、研究指導教員との議論を通じて問題解決に向けた研究能力・実践能力の能力開発を継続的に行っていく。						
テキスト	適宜提示する。						
参考書	適宜提示する。						
評価方法	最終成果物としての研究発表だけでなく最終成果にいたるプロセスも評価対象とする。(詳細については、別途予定されている合同ガイダンスで説明する)						

科目名	保健政策学特論 I			選択	1 単位
-----	-----------	--	--	----	------

科目責任者	福田 吉治 教授		前期(後半) 後期(前半)	曜日・時限	火曜 5,6時限(前期) 水曜 5,6時限(後期)	授業方法	講義
配当年次	1年次	配当学期					

教育目標	保健政策とは、国民が健康な生活を維持する上で必要としているニーズと課題に対応するために、あるべき姿と有効な戦略を立案し、有限な保健医療資源を適正かつ公平に配分してこれを実現するための指針と行動計画を策定するものである。本講義では、具体的な保健政策を例に、PDCAサイクル、根拠に基づく健康政策 (Evidence-based health policy)、目標設定と評価、経済分析等の視点から、保健政策のあり方について考察する。
------	--

行動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保健政策におけるPDCAサイクルについて説明できる。</li> <li>(2) 根拠に基づく健康政策 (Evidence-based health policy) を概説できる。</li> <li>(3) 保健政策における目標の設定と評価を説明できる。</li> <li>(4) 保健政策における経済的評価として、費用対効果・費用対便益分析を説明できる。</li> <li>(5) 保健政策の立案と評価の過程において必要な基本的理論を概説できる。</li> <li>(6) 学習した理論等を活用し、具体的な保健政策の立案ができる。</li> </ul>
------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	6/9(火) 9/16(水)	5	福田 吉治 教授	保健政策学入門
	2	6/9(火) 9/16(水)	6	福田 吉治 教授	根拠に基づく健康政策 (Evidence-based health policy)
	3	6/16(火) 9/30(水)	5	福田 吉治 教授	保健政策における目標設定と評価
	4	6/16(火) 9/30(水)	6	福田 吉治 教授	保健政策におけるリサーチとサーベイの活用
	5	6/23(火) 10/7(水)	5	福田 吉治 教授	保健政策におけるステークホルダー分析
	6	6/23(火) 10/7(水)	6	福田 吉治 教授	地方自治体の保健政策の立案と評価
	7	6/30(火) 10/14(水)	5	福田 吉治 教授	保健政策の経済的評価
	8	6/30(火) 10/14(水)	6	福田 吉治 教授	まとめ・総合討議

事前準備	指定する文献・資料等を事前に読んで理解すること
------	-------------------------

テキスト	適宜提示する。
------	---------

参考書	適宜提示する。
-----	---------

評価方法	積極的な授業参加(50%)、課題レポート等(50%)
------	----------------------------

<b>科目名</b>	<b>保健政策学特論Ⅱ</b>	選択	1 単位
------------	-----------------	----	------

<b>科目責任者</b>	Andrew Farmery客員教授(※)
--------------	-----------------------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	冬季(1月)	<b>曜日・時限</b>	後日通知	<b>授業方法</b>	集中講義
-------------	-----	-------------	--------	--------------	------	-------------	------

<b>教育目標</b>	本講義では医療政策管理の理解に必要な原則・理論を紹介するが、これを通じて、政策の定義と形成過程;政策実行の成功失敗;政策実行の成功要因;政策立案の根拠と知識;健康・医療の管理;医療のリーダーシップについての知識を修得することを基本目標とする。講義では、主に英国やヨーロッパ各国の例を挙げて解説する。
-------------	---

<b>行動目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療政策の複雑性や医療政策分析の理論を説明できる。</li> <li>・医療政策形成過程を実例を用いて説明できる。</li> <li>・医療政策の最近の問題や政策の根拠と知識を批判的に考えることができる。</li> <li>・国による医療制度の違いを比較したり、世界の医療制度が直面する困難について政治的イデオロギーを踏まえて説明できる。</li> <li>・医療制度改革に関してマネジメントやリーダーシップ、文化・価値観等を踏まえて説明できる</li> <li>・医療制度内でパートナーシップが最大限に利用できる方法を説明できる</li> <li>・複雑な医療制度で大変革を起こす方法を説明できる。</li> <li>・医療投資と予防の緊張関係を説明できる</li> </ul>
-------------	--

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1			Andrew Farmery 教授(客)	医療政策・制度入門
	2			Andrew Farmery 教授(客)	医療制度の定義と比較
	3			Andrew Farmery 教授(客)	公衆衛生政策の最近の発展
	4			Andrew Farmery 教授(客)	行動のための知識:政策への根拠の利用
	5			Andrew Farmery 教授(客)	イデオロギーと医療:福祉国家から市場国家へ
	6			Andrew Farmery 教授(客)	医療再編:英国医療サービスの例
	7			Andrew Farmery 教授(客)	複雑な医療制度の管理
	8			Andrew Farmery 教授(客)	健康のリーダーシップ

(各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。)

※担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。

※また、具体的な授業日時については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<b>事前準備</b>	事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。
-------------	----------------------------

<b>テキスト</b>	Trisha Greenhalgh: How to Read a Paper: The Basics of Evidence-Based Medicine Bjorn Andersen: Methodological Errors in Medical Research - an incomplete catalogue
-------------	--

<b>参考書</b>	John W Kingdon. Agendas, Alternatives and Public Policies. Longman. 2002. David J Hunter. Public Health Policy. Polity. 2003. David J Hunter. The Health Debate. Policy Press. 2008. David J Hunter, Linda Marks, Katherine E Smith. The Public Health System in England. 2010.
------------	--

<b>評価方法</b>	授業へ参加、小テスト、最終日の提出物
-------------	--------------------

科目名	医療経済学特論	選択	1 単位
-----	---------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授		
配当年次	1年次	配当学期	後期(後半)
		曜日・時限	水曜 4時限
		授業方法	講義

教育目標	<p>1. オペレーションズ・リサーチの基本的分析ツールとしてのフロンティア分析法を理解する。</p> <p>2. 特にデータ包絡分析法を実際のデータに応用できるようにする。</p>
------	---

行動目標	<p>効率性・生産性の定量的分析は医療管理の要諦であると同時に、医療政策・経済上も極めて重要な意味を持つ。他産業における効率性・生産性の科学的測定は、経済学・経営学・工学分野で2000年以降急速に発展してきた。すでに確立された手法としてはデータ包絡分析や確率的フロンティア分析などが存在し、その応用発展型も盛んに研究されている。こうした手法は海外では企業経営・公共政策・教育・国防などに応用され、それをもとに制度設計や経営方針が決定されている。本講義ではこのフロンティア分析法を身に着けて、自身の研究課題に応用できるようになることを目標とする。</p>
------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	11/18(水)	4	中田善規 教授	講義概略・分担決定
	2	11/25(水)	4	中田善規 教授	導入(第1章))
	3	12/2(水)	4	中田善規 教授	効率性の概念(第2章)
	4	12/9(水)	4	中田善規 教授	効率性測定の技術(第3章)
	5	12/16(水)	4	中田善規 教授	医療の効率性測定(第4章)
	6	12/25(金)	4	中田善規 教授	医療の効率性測定:応用(第5章)
	7	2/10(水)	4	中田善規 教授	高度な応用(第6章)
	8	2/17(水)	4	中田善規 教授	将来の方向性(第7章)

事前学習準備	<p>下記教科書・参考書を輪読形式で学生が報告する。それに対して教員は相互討論を促し、補足コメントする。自身で効率性を測りたい題材を用意してくることが望ましい。</p>
--------	--

テキスト	Hollingsworth B, Peacock SJ. Efficiency Measurement in Health and Health Care. Routledge. 2008
------	--

参考書	Ozcan YA: Health Care Benchmarking and Performance Evaluation: An Assessment using Data Envelopment Analysis (DEA). Springer. 2008
-----	--

評価方法	<p>プレゼンテーション・積極的な授業参加・討論の論点の把握と対応力で評価する。</p>
------	--

科目名	<b>医療管理学特論</b>	選択	1 単位
-----	----------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授
-------	----------

配当年次	1年次	配当学期	前期(後半) 後期(前半)	曜日・時限	月曜 3・4時限	授業方法	講義
------	-----	------	------------------	-------	----------	------	----

教育目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミクロ経済学的ツールを用いて医療問題を分析する。</li> <li>2. 現在日本が直面する医療に関する問題を経済学的視点から理解し、解決方法を提示する。</li> </ol>
------	--

行動目標	<p>医療は大きな社会システムの一部である。その医療を正確に分析するには社会システム分析ツールである経済学が必要である。特にミクロ経済学は絶対不可欠な分析ツールである。また医療経済学で語られる言葉も大半は厳密な経済学的定義があり、それを正確に理解しておくことが有意義な議論の第一歩となる。本講ではすべての基礎となるこの古典的ミクロ経済学を初歩から徹底的に理解し、それを医療に的確に応用できるようになることを目標とする。具体的には初級ミクロ経済学を医療者向けにアレンジして解りやすく時間をかけて講義する。さらに現在社会問題となっている医療問題を取り上げて、ミクロ経済学的分析を応用して問題の経済学的原因を議論する。</p>
------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	6/8(月)	3	中田 善規 教授	導入:医療と経済学①
	2	6/8(月)	4	中田 善規 教授	経済学的思考・相互依存と交易の利益②③
	3	6/15(月)	3	中田 善規 教授	医療の需要・供給と平衡④⑥
	4	6/15(月)	4	中田 善規 教授	医療の弾力性⑤
	5	6/22(月)	3	小林 廉毅 講師(非)	不確実性と保険1
	6	6/22(月)	4	小林 廉毅 講師(非)	不確実性と保険2
	7	7/6(月)	3	中田 善規 教授	医療消費者・医療生産者と市場効率⑦
	8	7/6(月)	4	中田 善規 教授	税のコスト⑥⑧
	9	7/13(月)	3	中田 善規 教授	外部性・公共財と共有資源⑩⑪
	10	7/13(月)	4	中田 善規 教授	患者の需要理論(消費者選択理論)⑫
	11	7/23(木)	3	中田 善規 教授	医療の生産理論・生産費用⑬
	12	7/23(木)	4	中田 善規 教授	完全競争市場での医療の価格と生産⑭
	13	7/27(月)	3	中田 善規 教授	独占での医療の価格と生産⑮
	14	7/27(月)	4	中田 善規 教授	独占的競争と寡占の下での医療の価格と生産⑯⑰
15	8/3(月)	3	中田 善規 教授	まとめとテスト	

授業計画	16	9/14(月)	3	中田 善規 教授	導入・解説・輪読分担決定(第1章)
	17	9/14(月)	4	中田 善規 教授	医療経済学のためのマイクロ経済学ツール(第2章)
	18	9/28(月)	3	中田 善規 教授	健康の生産(第5章)
	19	9/28(月)	4	中田 善規 教授	医療の生産・費用・技術(第6章)
	20	10/5(月)	3	中田 善規 教授	健康資本の需要(第7章)
	21	10/5(月)	4	中田 善規 教授	健康保険の需要と供給(第8章)
	22	10/19(月)	3	中田 善規 教授	消費者選択と需要(第9章)
	23	10/19(月)	4	中田 善規 教授	非対称情報とエージェンシー(第10章)
	24	10/26(月)	3	中田 善規 教授	健康保険市場の構成(第11章)
	25	10/26(月)	4	中田 善規 教授	マネージド・ケア(第12章)
	26	11/2(月)	3	中田 善規 教授	非営利会社(第13章)
	27	11/2(月)	4	中田 善規 教授	病院と長期ケア(第14章)
	28	11/9(月)	3	中田 善規 教授	医師開業(第15章)
	29	11/9(月)	4	中田 善規 教授	医療労働市場と職業訓練(第16章)
30	11/16(月)	3	中田 善規 教授	まとめ	
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全30コマの講義のうち8コマ以上を受講すればよいが、履修時は事前にどの講義を受講するかを科目責任者とよく相談をすること。</li> <li>・教科書の各章を当該授業までに熟読し、授業中に行う議論の準備をする。</li> </ul>				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Mankiw NG. Principles of microeconomics. 5th Ed. Cengage Learning, Mason, OH. 2008 (訳本:マンキュー経済学第2版ミクロ編、東洋経済新報社)</li> <li>・Folland S, Goodman AC, Stano M. The economics of health and health care. 7th Ed. Pearson, Upper saddle River, NJ. 2013</li> </ul>				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンキュー経済学第2版ミクロ編、東洋経済新報社</li> <li>・橋本英樹、泉田信行:医療経済学講義 東京大学出版会 2011</li> </ul>				
評価方法	積極的な授業参加、プレゼンテーション、討論の論点の把握と対応力で評価する。				



<b>科目名</b>	<b>地域医療学特論</b>	<b>選択</b>	<b>1 単位</b>
------------	----------------	-----------	-------------

<b>科目責任者</b>	高橋 謙造 准教授
--------------	-----------

<b>配当年次</b>	1年次	<b>配当学期</b>	前期(後半)	<b>曜日・時限</b>	火曜 1,2時限	<b>授業方法</b>	講義・演習
-------------	-----	-------------	--------	--------------	----------	-------------	-------

<b>教育目標</b>	地域における保健医療に関する課題の発見と問題解決を、地域のステークホルダーと協働で行える能力を養成することを基本目標とする。その際、1) 医療の利用や健康づくりに関する住民の視点、2) 保健医療活動を行う提供者の視点、3) 地域社会における両者の協働の視点から多角的に捉える力を養う。そのため、本授業では、演習または講師および受講生同士でディスカッションを通して、理論と手法を学ぶ。
-------------	---

<b>行動目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域保健に関する理論展開の変遷、医療人類学的な発想、地域住民への働きかけ、保健医療計画の立案と実践の手法について説明できる。</li> <li>・公衆衛生専門家として調査研究活動を通じた課題発見、課題解決を行うことができる。</li> </ul>
-------------	---

<b>授業計画</b>	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	6/9(火)	1	高橋 謙造 准教授	地域保健学概論・コミュニティと健康
	2	6/9(火)	2	高橋 謙造 准教授	日本の地域保健発展の歴史(人材はどう育っていったか?)
	3	6/23(火)	1	高橋 謙造 准教授	地域診断概論(計画・立案)
	4	6/23(火)	2	高橋 謙造 准教授	地域診断概論(調査・分析・データの取り扱い)
	5	7/7(火)	1	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(講義/実習)
	6	7/7(火)	2	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習1)
	7	7/14(火)	1	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習2)
	8	7/14(火)	2	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習3)

<b>事前学習</b>	履修学生に事前に配布する。
-------------	---------------

<b>テキスト</b>	特に指定しない。
-------------	----------

<b>参考書</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Where There is No Doctor: Village Health Care Handbook David Warner</li> <li>2. 医療人類学入門:波平恵美子 著 朝日選書</li> <li>3. 援助とエンパワーメント:佐藤寛 編 アジア経済研究所</li> </ol>
------------	--

<b>評価方法</b>	積極的な授業参加50%、発表およびレポート50%
-------------	--------------------------

科目名	<b>国際保健学特論</b>	選択	1 単位
-----	----------------	----	------

科目責任者	福田 吉治 教授		
配当年次	1年次	配当学期	前期(後半)
		曜日・時限	水曜・5,6限
		授業方法	講義・演習

教育目標	<p>国際保健を実践する上で、プロジェクトの計画から立案および評価までの管理(プロジェクト・マネジメント)をいかに適切に行うかが重要である。そこで、本科目では、国際保健に関連したプロジェクトについて、(1)計画から評価までの一連の管理方法、(2)計画・評価するために必要なデータの活用方法を学習する。前者では、具体的な事例に基づき、プロジェクト・サイクル・マネジメント(PCM)等によりプロジェクトを計画・実施、評価する管理能力を養うことを目標とする。後者では、問題解決型方式に則り、問題を見出すことから、公表データの分析を通じて実証し、各ステークホルダーの位置づけを検討するなどより実践的な問題解決能力を養うことを目標とする。</p>
------	--

行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生ならびに国際保健におけるプロジェクト・マネジメントおよびPDCAサイクルの意義と重要性について説明できる。</li> <li>2. プロジェクト・サイクル・マネジメント(PCM)等のプロジェクト・マネジメントの具体的な方法を説明し、具体的な事例に活用できる。</li> <li>3. 実際のデータを用いて、問題解決型方式に則り課題解決に取り組むことができる。</li> <li>4. 科学的根拠に基づいた政策やプロジェクト企画立案ができる。</li> </ol>
------	---

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	6/10(水)	5	福田 吉治 教授	政策形成プロセスおよびプロジェクト・マネジメントについて
	2	6/10(水)	6	福田 吉治 教授	プロジェクト・マネジメントの具体的な進め方
	3	6/17(水)	5	福田 吉治 教授	プロジェクト・マネジメントの事例検討(1)
	4	6/17(水)	6	福田 吉治 教授	プロジェクト・マネジメントの事例検討(2)
	5	6/24(水)	5	井上 まり子 講師	公開されている国際的な公衆衛生関連の世帯調査の利用 ①データの使い方と分析 事例紹介
	6	6/24(水)	6	井上 まり子 講師	公開されている国際的な公衆衛生関連の世帯調査の利用 ②データの使い方と分析 演習
	7	7/1(水)	5	井上 まり子 講師	公開されている国際的な公衆衛生関連の世帯調査の利用 ③データ分析と成果の報告
	8	7/1(水)	6	井上 まり子 講師	公開されている国際的な公衆衛生関連の世帯調査の利用 ④得られた科学的根拠をいかに政策に反映するか

事 学 前 習 準 備	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指定された授業用テキスト等を読み、授業内での議論に備える。</li> <li>2. 一部、データ分析を必要とすることから生物統計・疫学、保健医療政策学等の復習を行う。</li> </ol>
----------------------------	--

テ キ ス ト	授業開始前に提示する。
------------------	-------------

参 考 書	授業開始前に提示する。
-------------	-------------

評 価 方 法	講義の課題および授業内での発言・発表・討議参加(50%)、課題レポート等(50%)
------------------	---

科目名	<b>保健政策・医療管理学特殊研究</b>	選択	12単位
-----	-----------------------	----	------

科目責任者	研究指導教員(※)						
配当年次	1～3年次	配当学期	前期・後期	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	演習

教育目標	保健政策・医療管理学分野の研究テーマにおいて、公衆衛生学の研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について指導を実施する一方、学生自らが自立して研究テーマを模索し、結果をまとめ、情報を発信する実践者としてのコンピテンス(成果達成のために求められる能力)を身に付けることを基本目標とする。尚、個々の学生のこれまでのキャリア、能力、進路希望等を踏まえた適切な指導を実施する。						
行動目標	論文作成能力に加えて、保健医療システムの変革者(Change Agent)として具体的な成果を生み出すことができる。(より具体的な行動目標については、別途予定されている合同ガイダンスや研究指導教員との個別面談を通じて学生ごとに設定する)						
授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容		
	<p><b>【概要】</b> 保健政策や医療管理学の分野の研究で特に必要とされる研究手法について、深く追求する。特に理論面を重視して、現実社会への応用を評価してゆく。具体的内容は各研究課題に合わせて柔軟に対応する。</p> <p><b>【研究指導教員と主な指導内容】</b> 研究指導教員は個々の学生の研究テーマに応じて以下の3名から指名される。指導日程については当該指導教員と相談し別途定める。</p> <p>(中田義規) 医療管理学の実務に活かされるような現場でのデータ収集と分析方法などを研究指導する。</p> <p>(福田吉治) 国内外の保健医療政策に必要な医療の質に関する研究指導をする。</p> <p>(矢野榮二) エビデンスベースの公衆衛生学を指導する。</p> <p>(井上まり子) 国内外の保健医療政策の科学的根拠になるような疫学研究などを研究指導する。</p> <p>尚、研究指導補助教員は以下の1名である。</p> <p>(高橋謙造) 地域医療やプライマリ・ヘルスケアに関する研究指導を補助する。</p>						
事前準備	まずは学生各自の本分野における高い問題意識が重要である。その上で、研究指導教員との議論を通じて問題解決に向けた研究能力・実践能力の能力開発を継続的にやっていく。						
テキスト	適宜提示する。						
参考書	適宜提示する。						
評価方法	最終成果物としての研究発表だけでなく最終成果にいたるプロセスも評価対象とする。(詳細については、別途予定されている合同ガイダンスで説明する)						

平成27年度 公衆衛生学研究科 履修届

博士後期課程

提出日 平成 年 月 日

学籍番号

指導教員

学生氏名

㊞

職位

氏名

㊞

科目区分等	Code	number	科目名	単位数	登録	登録単位	特記事項	
共通科目	必修	OEH	601	リスク科学特論(医療判断学含む)	1	0		
	必修	HPM	601	組織管理学特論	1	0		
	必修	ID	201	公衆衛生倫理学特論	1	0		
	選択	EPI	201	公衆衛生学特論Ⅰ(疫学)	2	0		
	選択	BIO	201	公衆衛生学特論Ⅱ(生物統計学)	2	0		
	選択	OEH	211	公衆衛生学特論Ⅲ(産業保健・環境保健学)	1	0		
	選択	HPM	201	公衆衛生学特論Ⅳ(保健政策・医療管理学)	2	0		
	選択	HBS	201	公衆衛生学特論Ⅴ(社会行動科学)	2	0		
	選択	ID	101	医学基礎・臨床医学特論	2	0		
選択科目	疫学・生物統計学分野	EPI	221	疫学特論Ⅰ(臨床疫学)	1	0		
		EPI	602	疫学特論Ⅱ(理論と方法)	1	0		
		EPI	401	疫学特論Ⅲ(疫学研究の展開)	1	0		
		HBS	601	疫学特論Ⅳ(行動科学・社会疫学)	1	0		
		BIO	211	生物統計学特論Ⅰ(生物統計学応用)	1	0		
		BIO	601	生物統計学特論Ⅱ(統計モデル)	1	0		
		BIO	401	生物統計学特論Ⅲ(生物統計学の展開)	1	0		
		BIO	611	データ解析演習	1	0		
		BIO	612	臨床試験特論	1	0		
		BIO	510	疫学・生物統計学特殊研究	4	0		
	産業保健・環境保健学分野	OEH	221	産業・環境医学特論	1	0		
		OEH	231	産業保健学特論	1	0		
		OEH	232	産業・環境工学特論	1	0		
		OEH	601	公害特論	1	0		
		OEH	602	地球環境・災害科学特論	1	0		
		OEH	401	産業・環境保健学特論	1	0		
		OEH	510	産業・環境保健学特殊研究	4	0		
	保健政策・医療管理学分野	HPM	201	保健政策学特論Ⅰ	1	0		
		HBS	401	保健政策学特論Ⅱ	1	0		
		HPM	601	医療経済学特論	1	0		
		HPM	602	医療管理学特論	1	0		
		HPM	603	地域医療学特論	1	0		
		HPM	401	国際保健学特論	1	0		
		HPM	510	保健政策・医療管理学特殊研究	4	0		
	総単位数						0	

※提出は4月21日までとします。

研究科長	教務部長

## 履修科目変更届 (願)

平成 年 月 日

公衆衛生学研究科長 殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ (印)

指導教員

職 位 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_ (印)

下記のとおり履修科目の変更を申請いたします。

	科目区分	科目名称	単位数	変更後 (該当に○印)
1				履修 ・ 取り消し
2				履修 ・ 取り消し
3				履修 ・ 取り消し
4				履修 ・ 取り消し
5				履修 ・ 取り消し
6				履修 ・ 取り消し
7				履修 ・ 取り消し
8				履修 ・ 取り消し

事務部記入欄

受付日:

処理日:

--	--

公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻 博士後期課程



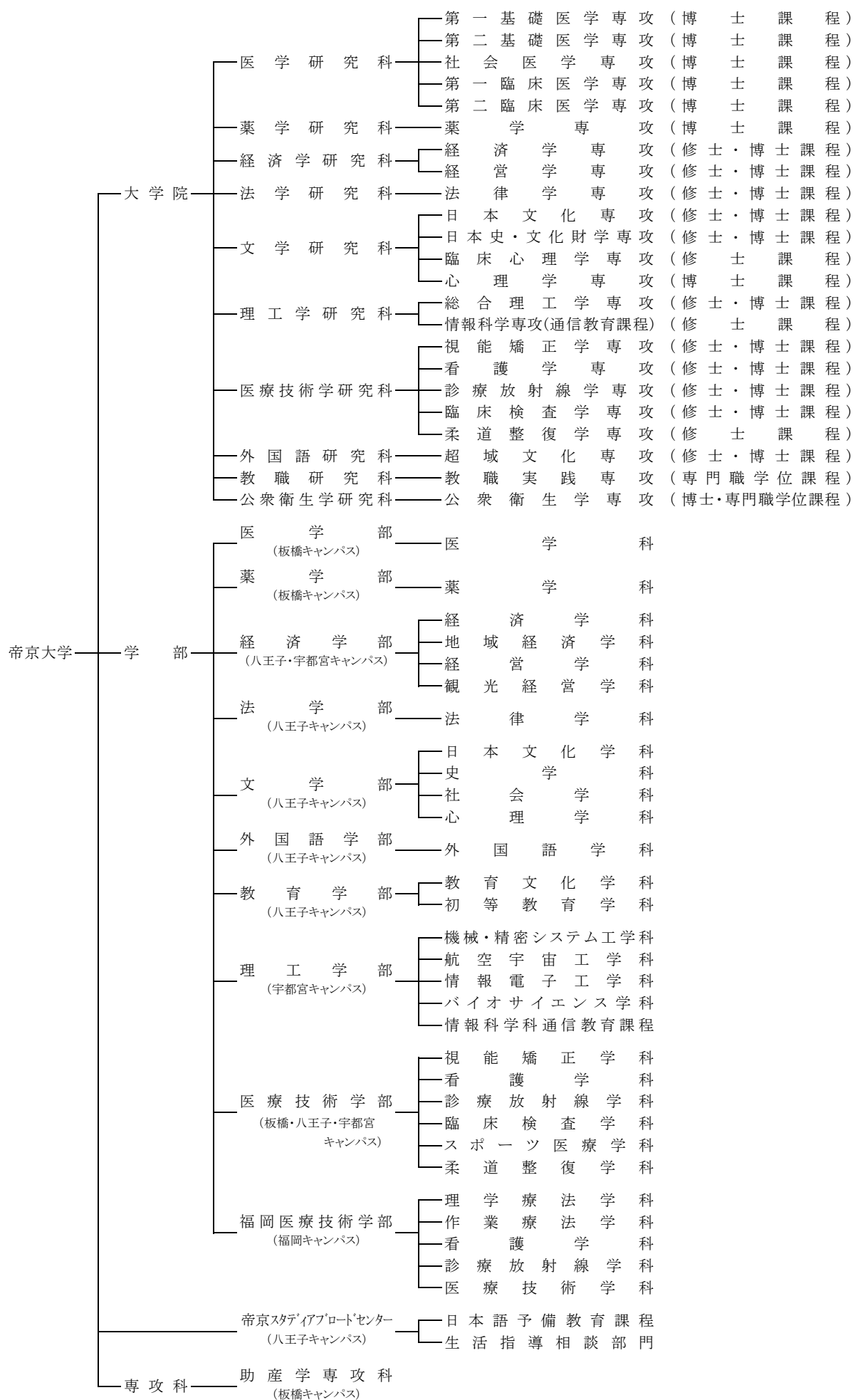
## 帝京大学 組織図・規程関係

1. 帝京大学組織図	175
2. 帝京大学大学院学則	176
3. 帝京大学学位規程	183
4. 帝京大学大学院 博士課程学位運用規程	185
5. 帝京大学大学院 博士論文公表に関する施行細則	192
6. 大学院プログラムT A・R A規程	194





# 帝京大学組織図



# 帝京大学大学院学則

(公衆衛生学研究科抜粋)

## 第1章 総則

第1条 本大学院は、「努力をすべての基とし 偏見を排し 幅広い知識を身につけ 国際的視野に立って判断ができ 実学を通して創造力および人間味豊かな専門性ある人材の養成を目的とする」という建学の精神に則り、学部の基礎の上に、さらに次のことをそれぞれの目的とする。

1、本大学院博士課程は、研究者養成を主眼とし、専門分野について研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

2、(省略)

3、本大学院専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した実践的能力を培うものとする。

第2条 本大学院の課程は、博士課程、修士課程及び専門職学位課程とする。

第3条 博士課程は、医学研究科、薬学研究科を除き前期及び後期に区分し、前期の課程を博士前期課程、後期の課程を博士後期課程という。

2、(省略)

第4条 本大学院に、医学研究科、文学研究科、薬学研究科、経済学研究科、法学研究科、理工学研究科、理工学研究科(通信教育課程)、医療技術学研究科、外国語研究科、教職研究科及び公衆衛生学研究科をおく。

第5条 本大学院の各研究科の目的は次のとおりとする。

1～10、(省略)

11、公衆衛生学研究科は、建学の精神に則り、患者や地域住民の健康回復・増進と、社会全体の健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するために、様々な公衆衛生上の諸課題に対して指導的立場で且つ科学的判断に基づく問題解決型の対処ができる高度専門職業人と、その活動を統括指導できる公衆衛生の高度な実践能力とリーダーシップを併せ持つ上級管理者・上級指導者としての人材の養成を目的とする。

## 第2章 専門課程

第6条 本大学院のそれぞれの研究科に、次の表の中欄に掲げる専攻及び右欄に掲げる課程の区分をおく。

研究科名	専攻	課程の区分
公衆衛生学研究科	公衆衛生学専攻	専門職学位課程 博士後期課程

## 第3章 学生定員

第7条 本大学院の学生定員は次のとおりとする。

研究科名	専攻名		入学定員	総定員
公衆衛生学 研究科	専門職学位課程	公衆衛生学専攻 2年コース	10	20
		1年コース	10	10
	博士後期課程	公衆衛生学専攻	6	18
		計	26	48

## 第4章 修業年限及び学年・学期

第8条 博士課程の標準修業年限は、5年とする。ただし、医学研究科、薬学研究科の修業年限は、4年とする。

2～3、（省略）

4、公衆衛生学研究科(専門職学位課程)2年コースの標準修業年限は、2年とし、同1年コースの標準修業年限は、1年とする。

第9条 在学期間は、公衆衛生学研究科の博士後期課程は6年をそれぞれ超えることはできない。

（一部省略）

2、公衆衛生学研究科(専門職学位課程)の在学期間は、2年コースは4年、1年コースは2年をそれぞれ超えることはできない。

第10条 入学の時期は、各学期の始めとする。

2、学年は、原則毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

3、学期は、次のとおりとする。ただし、事情によって多少異なる場合がある。

前期または春学期 4月1日より9月30日まで

後期または秋学期 10月1日より翌年3月31日まで

4、休業日は、次のとおりとする。ただし、休業日でも特に授業を行いまたは試験を行うことがある。

(1)日曜日

- (2)国民の祝日に関する法律に規定する日
- (3)本大学創立記念日(6月29日)
- (4)春期休業
- (5)夏期休業
- (6)冬期休業
- (7)臨時の休業日及びその他の変更については、その都度これを定める。

## 第5章 学科目及び履修方法

第11条 (省略)

第12条 (省略)

2、(省略)

3、本博士後期課程の修了の要件は、3年以上在学し、各研究科の定めるところにより、所要の研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。なお、修士課程、博士前期課程または専門職学位課程の在学期間とあわせ、3年以上在学していなければならない。

4～5、(省略)

6、公衆衛生学研究科の専門職学位課程の2年コースは、2年以上在学し、32単位以上を修得することを修了の要件とし、同1年コースは、1年以上在学し、32単位以上を修得することを修了の要件とする。

第13条 (省略)

第14条 指導教授が教育上有益と認めるときは、研究科委員会の議を経て、他の大学院等において、その授業科目を履修させることができる。

2、前項の規定により修得した単位は、10単位を限度に課程修了の要件となる単位として取り扱うことができる。

3、指導教授が教育上有益と認めるときは、研究科委員会の議を経て、他の大学院等において、その研究指導を受けさせることができる。

第14条の2 指導教授が教育上有益と認めるときは、研究科委員会の議を経て、入学する前に他の大学院等において修得した単位について、入学後の当該研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2、前項の規定により修得したものとみなすことのできる単位数は、前条第一項の規定により当該研究科において修得したものとみなす単位数と合わせて、10単位を限度に課程修了の要件となる単位として取り扱うことができる。

第15条 学生の教育研究を指導するため、各学生ごとに研究指導教員を定める。

第16条 学生は、研究指導教員の指示によって授業科目を履修するものとする。

2、学生は、履修しようとする授業科目を、学年または学期の始めの指定する期日までに所定の

様式により届出なければならない。

第17条 学生は、学位論文の作成等に関し、研究指導教員の指示により必要な研究指導を受けなければならない。

## 第6章 課程修了の認定

第18条 各学科目の単位履修の認定は、試験または研究報告等により、担当教授が行うものとする。

- 2、病気その他やむを得ない理由により試験を受けることができない者は、追試験を受けることができる。
- 3、学業成績の判定は、A（優）・B（良）・C（可）・D（不可）の4種を以てこれを表し、A（優）は80点以上、B（良）は70点以上、C（可）は60点以上、D（不可）は59点以下とし、A（優）・B（良）・C（可）を合格、D（不可）を不合格とする。合格した学科目については、所定の単位数が与えられる。ただし、経済学研究科・法学研究科・文学研究科・外国語研究科・理工学研究科・医療技術学研究科・教職研究科においては合格点の90点以上をSとする。

## 第7章 学位

第19条 本学各研究科の博士課程または博士後期課程において、第12条に定めるところにより、所定の期間在学し、所定の単位を修得の上、学位論文の審査及び試験（最終試験）に合格した者には、下記の学位を授与する。

研究科名	専攻	課程の区分	授与学位
公衆衛生学研究科	公衆衛生学専攻	博士後期課程	博士(公衆衛生学)

- 2、前項の規定により学位を授与される者の学位論文と同等またはそれ以上の内容を有し、かつ、専攻学術に関し同様に広い学識を有することが試問により確認された者は、前項の規定によらず論文提出により学位を授与することができる。
- 3、（省略）
- 4、本学各研究科の専門職学位課程において、第12条に定めるところにより、所定の期間在学し、所定の単位を修得した者には、下記の学位を授与する。

研究科名	専攻	課程の区分	授与学位
公衆衛生学研究科	公衆衛生学専攻	専門職学位課程	公衆衛生学修士(専門職)

## 第8章 入学、休学、転学及び退学

第20条 （省略）

2、（ 省 略 ）

3、本大学院の博士後期課程に入学を志願する者は、次の各号の1に該当するものでなければならない。

(1) 修士の学位または専門職学位を有する者。

(2) 外国において、修士の学位または専門職学位に相当する学位を得た者。

(3) 文部科学大臣の指定した者。

(4) 本大学院において、修士の学位を得た者と同等またはそれ以上の学力があると認められた者。

4、（ 省 略 ）

5、本公衆衛生学研究科（専門職学位課程）2年コースに入学を志願する者は、次の各号の1に該当するものでなければならない。1年コースに入学を志願する者は、次の各号の1に該当するもので、2年以上の実務経験を有するものでなければならない。

(1) 大学を卒業した者。

(2) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者。

(3) 文部科学大臣の指定した者。

(4) その他本大学院において、大学を卒業した者と同等またはそれ以上の学力があると認められた者。

第21条 入学を志願する者は、別に定める手続きにより志願書を提出し、入学検定を受けるものとする。

第22条 入学検定は学力、人物、身体について行うものとする。学力検定は原則として試験検定とし、試験の方法及び日時はその都度定める。

2、前項の規定にかかわらず、研究科において適当と判断した場合には、学力検定を試験検定に代えて別途規定する方法で行うことができる。

第23条 入学を許可された者は、定められた期間内に入学の手続きをし、入学料を納付するものとする。この手続きを怠るものは入学の許可を取り消すことがある。

第24条 他の大学院から本大学院に転学を願い出た者については、別に定める規程によって許可することがある。

第25条 病気その他やむを得ない事由のため休学または退学しようとする者は、その事由を証明する書類を添え、保証人と連署で休学願、または退学願を提出して学長の許可を受けなければならない。

2、休学期間は、1年以内とするが、その事情によっては2年以内まで認めることがある。ただし、在学期間に算入しない。

3、一旦退学した者が再入学しようとする場合には、事情によって許可することがある。詳細については別に定める。

第26条 次の各号の1に該当する者に対しては、退学を命ずることがある。

(1) 学力劣等で成業の見込がないと認められた者

(2) 正当の理由がなく出席常でない者

第27条 次の各号の1に該当する者は除籍とする。

- (1) 第9条に定める在学年限を超えた者
- (2) 学費を所定の期日までに納入しなかった者
- (3) 長期にわたり音信不通の者
- (4) 在学中に死亡した者

2、除籍された者は、退学願を提出することができない。

3、第1項第2号により除籍となった者で復籍を希望する場合は、第25条第3項を準用する。  
詳細については別に定める。

## 第9章 学費

第28条 ( 省 略 )

第29条 本大学院に入学を許可された者は、所定の入学金及び学費を納めなければならない。

( 一部省略 )

第30条 すでに納めた授業料その他の学費及び学位論文審査料は、原則としてこれを返還しない。

第31条 学年の途中で退学した者でも、その期の学費は納めなければならない。

## 第10章 特別聴講学生、科目等履修生、特別研究学生、 研究生、委託生及び外国人留学生

第32条 国内の他の大学の大学院学生が、本大学院の専攻に関する授業科目を履修し、単位を修得しようとするときは、当該大学と本学との協議に基づき、特別聴講学生として授業科目を履修させることができる。

2、外国の大学の大学院学生が、本大学院の専攻に関する授業科目を履修し、単位を修得しようとするときは、前項の規定を準用する。

3、特別聴講の許可及び単位認定等については、別に定める。

第33条 本学生以外の者で本大学院が開設する一または複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、本学の教育に支障がない限り選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

2、科目等履修生に関する規則は、別に定める。

第34条 国内の他の大学の大学院学生が、本大学院において研究指導を受けようとするときは、当該大学と本学との協議に基づき、特別研究学生として研究指導を受けることを許可することができる。

2、外国の大学の大学院学生が、本大学院において研究指導を受けようとするときは、前項の規定を準用する。

第35条 本大学院の研究生及び外国人留学生の受け入れについては、大学学則の規定を準用する。

2、医学研究科の研究生については、別に規程を設けて定める。

第35条の2 国または地方公共団体等の公共機関又はこれに準ずる機関から、本大学院において研究指導を受けようとする者があるときは、研究科において適当と判断した場合には、本学との協議に基づき、委託生として入学を許可する場合がある。

2、委託生に関する規則は、別に定める。

## 第11章 教員並びに運営

第36条～39条 (省略)

## 第12章 賞罰

第40条 人物及び学業優秀な者は、これを表彰することがある。

第41条 学生が、本大学院の規則若しくは、命令に背き、または学生の本分に反する行為があったときは、懲戒処分に付することができる。

2、懲戒には、譴責・停学・退学の3種がある。

第42条 前条の懲戒は、次の各号の1に該当する者に対して行うことができる。

- (1) 性行不良で改善の見込がないと認められた者。
- (2) 学業を怠り、成業の見込がないと認められた者。
- (3) 学内の秩序を乱した者。
- (4) 本学の体面をけがした者。
- (5) その他本大学院生としての本分に反する行為のあった者。

第43条 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学位を取り消すものとする。また、学位を得た者がその名誉を汚辱する行為をしたときは、その授与した学位を取り消すことがある。

## 第13章 雑則

第44条 この学則に定めるもののほか、医学研究科、文学研究科、薬学研究科、経済学研究科、法学研究科、理工学研究科、理工学研究科(通信教育課程)、医療技術学研究科、外国語研究科、教職研究科及び公衆衛生学研究科の学生に関して必要な事項は、別に定める。

## 附 則

(省略)



# 帝京大学学位規程

(公衆衛生学研究科抜粋)

(目的)

第1条 この規程は、帝京大学 学則および帝京大学大学院 学則に定めるもののほか、学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）に基づき、帝京大学（以下「本学」という）が授与する学位について、必要な事項を定めることを目的とする。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士、教職修士、公衆衛生学修士および博士とする。

2～4 (省略)

5 公衆衛生学修士の種類は、次のとおりとする。

公衆衛生学修士（専門職）

6 博士の種類は、次のとおりとする。

(一部省略)

博士（公衆衛生学）

(学位授与の要件)

第3条 本学の学部を卒業した者および大学院各研究科の課程を修了した者には、本学学則および大学院学則の定めるところにより、前条の学位を授与する。

2 (省略)

(学位の申請)

第4条～第14条 (省略)

(学位の授与)

第15条 学長は、研究科委員会の議決に基づいて、第3条第1項の規定による者については大学院当該課程の修了の可否、第3条第2項の規定による者については、その論文の合否を決定し、合格者には学位を授与する。不合格者には、その旨を通知する。

(学位論文の要旨等の公表)

第16条 本学は、博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から3ヶ月以内に、その学位論文の内容の要旨および審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表する。

(学位論文の公表)

第17条 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に、その学位論文を公表しなければならない。ただし、すでに公表している場合にはこの限りではない。

2 前項の規定にかかわらず、やむを得ない事由がある場合には、研究科委員会の委員長の承認を得て、当該論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合、当該研究科は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 前2項の規定により学位論文を公表する場合には、帝京大学審査学位論文である旨を明記し、インターネットの利用により行うものとする。

(学位授与の取り消し)

第18条 学士、修士、教職修士、公衆衛生学修士または博士の学位を授与された者が、その名誉を汚す行為をしたとき、または不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、研究科委員会の議を経て、学位の授与を取り消し、学位記を返却させ、かつ、その旨を公表する。

2 研究科委員会において前項の議決をする場合には、第13条第2項の規定を準用する。

(学位記の再交付)

第19条 学位記の再交付は原則として行わない。ただし、やむを得ない事由があり、学位記の再交付を受けようとするときは、その事由を記載した申請書に再交付手数料を添えて、学長に願い出なければならない。

2 学位記再交付手数料は別に定める。

(登 録)

第20条 本学において学位を授与したときは、学長は学位簿に登録し、博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から3ヶ月以内に、その旨を文部科学大臣に報告するものとする。

(学位記および関係書類の様式)

第21条 学位記の様式は、別表のとおりとする。

2 学位申請関係書類の様式は、研究科委員会の定めるところによる。

第22条 この規程の改正には、教授会または研究科委員会の意見を聞いて学長が行う。但し、学長は理事長の承認を受けるものとする。

附 則

( 省 略 )

## 帝京大学大学院公衆衛生学研究科博士後期課程学位運用規程

### (目的)

第1条 この規程は、帝京大学（以下、「本学」という）学位規程に基づき、本学大学院公衆衛生学研究科（以下、「本研究科」という）博士後期課程（以下、「本課程」という）において授与する学位の種類、学位授与の考え方、学位の申請、審査の方法、その他学位に関する必要な事項を定めることを目的とする。

### (学位の種類)

第2条 本課程において授与する学位は、博士（公衆衛生学）とする。

### (学位授与の目的)

第3条 本課程における学位授与の目的は、本学大学院学則（以下、「学則」という）第5条第11項の教育目的に則り、患者や地域住民の健康回復・増進と、社会全体の健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するという基本理念を実現するために、変動発展する社会と科学技術に対応し、新規の問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる能力に加えて、そのような成果を達成するために求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を併せ持つ上級管理職・上級指導者を養成することである。

### (学位授与の要件)

第4条 本課程は、前条の目的に沿って、現実の保健医療問題の改善・解決や人々の健康水準の向上を図るという公衆衛生課題に対する具体的な成果を達成し、また、それを達成するための能力（コンピテンシー）を有すると認められた者に学位を授与する。

### (学位の申請資格)

第5条 学位を申請できる者は、以下の各号をすべて満たす者とする。

- (1) 学位申請日に、本課程の第3年学年に在学している者。
  - (2) 本課程修了の要件として規定する所要の授業科目について、必要とする単位を修得している者（見込みを含む）。
  - (3) 学位論文の作成に対して研究指導教員より必要な研究指導を受けている者。
  - (4) 本研究科の教授3名以上から構成される内部審査会による計画審査（公衆衛生課題の対策に向けた計画（以下、「プロジェクト」という）の審査）によりプロジェクト開始の承認を得、かつ中間審査（プロジェクト開始後の中間成果物の審査）により学位の申請資格があると認められた者。
- 2 本課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得したのみで退学した者については、単位修得退学後3年以内であれば、前項に則り学位を申請することができる。
- 3 学則第12条3項により、優れた研究業績をあげた者については、本条第1項第1号の

在学年限に関わらず学位を申請することができる。

(学位の申請)

第6条 学位を申請する者は、学位論文に加えて第10条に規定される学位申請に必要な提出書類一式（以下、「学位申請書類」という）を、学位論文の指導教員を経て学長に提出しなければならない。

2 学位申請とは、学位申請書類が、大学事務局に提出された状態をいい、提出が完了した日を学位申請日とする。

(学位論文)

第7条 前条の規定により提出する学位論文とは、プロジェクトの策定ならびにこれについての調査・研究、さらに可能な場合は部分的な対策実施を行い、これら全ての活動の結果をまとめた成果報告書をいう。

2 学位申請者の単独論文でなければならない。

3 審査のため必要があるときは、学位論文の一部としてプロジェクトの成果に関連する参考論文、さらに学位論文とは別に参考資料を提出させることができる。

(参考論文)

第8条 参考論文は、印刷公表されたものであることを原則とする。ただし、印刷公表されることが確かな場合には、この限りではない。

2 参考論文が掲載される学術定期刊行物はレフェリー制度を備えたものでなければならない。

3 学位申請者が筆頭著者もしくは主要筆者（コレスポンディングオーサー）であること。

(参考資料)

第9条 参考資料は、学位申請者が著作に係わった著述業績のうち、原著の研究論文またはそれに準ずる内容を持ったものを指す。

2 参考資料は、学術定期刊行物等に掲載されたもの、プロジェクトの活動に関する報道により公開された情報、または、プロジェクトやその実施の成果を示した公的な報告書の類などをいう。

(学位申請書類)

第10条 学位を申請する者は、以下の各号の書類を提出し、所定の手数料を納入しなければならない。

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| (1) 学位論文審査申請書 | 1通               |
| (2) 学位論文      | 5通               |
| (3) 参考論文      | 各5通（該当しない場合は除く。） |
| (4) 参考資料      | 各5通（該当しない場合は除く。） |

- |                           |                  |
|---------------------------|------------------|
| (5) 学位論文要旨                | 3通               |
| (6) 学位論文目録                | 3通               |
| (7) 参考論文目録                | 3通 (該当しない場合は除く。) |
| (8) 参考資料目録                | 3通 (該当しない場合は除く。) |
| (9) 履歴書                   | 1通               |
| (10) 写真                   | 1葉               |
| (11) 戸籍抄本または個人事項証明書       | 1通               |
| (12) 大学院修士課程の卒業証明書        | 1通               |
| (13) その他、本研究科委員会が必要と認めたもの |                  |
| (14) 審査料                  |                  |
| (15) 倫理委員会からの審査結果通知書の写し   | 1通 (該当しない場合は除く。) |
- 2 前項の規定により提出した書類および納付した審査料などは、還付しない。
  - 3 本条第1項第5号に規定される学位論文要旨は、以下の各号によるものとする。
    - (1) 冒頭に論文題名、著者名が、明記されていること。
    - (2) 学位論文の内容を1600字以上2000字以内に要約したものであること。
    - (3) 用紙の大きさは、日本工業規格A4版とする。
  - 4 学位申請者が参考論文や参考資料に該当する業績を持たない場合は、本条第1項第3号、第4号、第7号、第8号に規定される書類の提出を要しない。
  - 5 本条第1項第9号に規定される履歴書は所定の様式によるものとする。ただし、記載項目のうち学会発表については、一覧表を添付することで代えても良い。
  - 6 本条第1項第9号に規定される履歴書に記載する学会発表は、演者全員の氏名、発表題名、発表した学会名称および開催回数、発表年月日を記載するものとする。
  - 7 本条第1項第9号に規定される履歴書に記載する学歴、職歴に、休学、休職の期間がある場合には、その期間を明示しなければならない。
  - 8 本条第1項第10号に規定される写真は、以下の各号を満たすものとする。
    - (1) 縦4cm×横3cmの大きさであること。
    - (2) 証明用写真として不適切な写真は、不可とする。
    - (3) 履歴書の所定欄に貼付すること。
  - 9 本条第1項第11号に規定される戸籍抄本または個人事項証明書は、学位申請日の3ヵ月前の日以後に発行されたものであること。
  - 10 本条第1項第12号に規定される卒業証明書のうち、帝京大学公衆衛生学研究科専門職学位課程の卒業証明書については、提出を要しない。
  - 11 本条第1項第14号に規定される審査料の金額および納入については、別に定める。

第11条 第5条第2項の申請資格で学位を申請する者については、第10条に規定される提出書類のほか、本課程の単位修得証明書を提出しなければならない。

(学位申請の時期)

- 第12条 第5条第1項の該当者は、第3学年に在学する年度の4月1日以後随時学位申請を行うことができる。
- 2 第5条第2項の該当者は、退学日から3年以内に随時学位申請を行うことができる。
  - 3 第5条第3項の該当者のうち第1学年もしくは第2学年に在学する者については、当該学年に在学する年度の11月1日以後随時学位申請を行うことができる。

(学位申請の受理)

- 第13条 第6条の規定により学位の申請があったとき、本研究科委員会は、提出書類をもとに、学位申請者の申請資格と手続きの妥当性を確認する。
- 2 第5条第3項の申請資格で学位申請した者については、申請者が本課程在学中に上げた研究業績が、学則第12条第3項に規定される優れた研究業績に該当することを、本研究科委員会によって承認されなければならない。
  - 3 本研究科委員会によって学位申請者の申請資格および手続きに問題ないことが確認された場合、学長は学位申請をすべて受理する。
  - 4 学位申請者が申請資格を満たしていることおよび手続きに不備がないことが確認された本研究科委員会の開催日を、学位申請の受理日とする。

(研究科委員会付託)

- 第14条 学長は、前条の規定により受理することに決定した学位申請について、その審査を本研究科委員会に付託する。

(審査委員会および審査委員)

- 第15条 前条の規定により審査を付託された本研究科委員会は、審査委員会を設ける。
- 2 審査委員会は、3名以上5名以下の委員で構成するものとする。
  - 3 審査委員は、審査する学位論文に関連ある分野を専門領域とする本研究科委員会委員の教授から2名以上、本研究科所属以外の本学教授または他大学の大学院教授（必要に応じて海外提携校の教員を含む）や研究所等の教員または実務家から1名以上を選ぶことを原則とする。
  - 4 本研究科委員会が必要と認めたときは、前項の規定にかかわらず、本研究科所属の准教授または講師を審査委員会に加えることができる。
  - 5 学位論文の研究指導教員は審査委員には含めない。
  - 6 審査委員のうち1名を主査とし、他を副査とする。主査は、委員長として審査委員会を主催する。
  - 7 審査委員は、本学研究科委員会の承認に基づき、学長が任命する。
  - 8 審査委員会は、委員全員の出席がなければ成立しない。

(審査内容と審査期間)

第16条 審査委員会は、審査として学位論文の審査および最終試験を実施する。

- 2 審査委員会は、学位申請の受理日から3ヵ月以内に審査を終了しなければならない。ただし、特別な事由があるときは、本研究科委員会の議を経て、その期間を1年以内に限り延長することができる。

(学位論文の審査)

第17条 学位論文の審査は、学位申請者がその専攻分野において、プロジェクトと具体的な成果をまとめた成果報告書が、学位申請者自らの計画と調査・研究、対策実施に基づいたものであることを確認するとともに、本学が博士（公衆衛生学）の学位を授与するにふさわしい、成果の達成状況や、それを達成するための能力（コンピテンシー）を有することを確認するものである。

- 2 論文審査における口答発表は原則公開することとする。ただし、審査委員以外の者は委員長の許可なく発言することはできない。

(最終試験)

第18条 審査委員会は、論文審査終了後すみやかに最終試験を実施するものとする。ただし、論文審査の結果、審査委員会が、学位論文の内容が著しく不良であると認めたときは、最終試験を行わないことができる。

- 2 最終試験は、学位論文を中心とし、審査委員全員により原則として口答で行い、必要に応じて筆答にて行う。

(審査委員会の結果報告)

第19条 審査委員会は、論文審査の結果および最終試験の結果を文書で本研究科委員会に提出する。ただし、第18条第1項ただし書きの規定により、最終試験を行わなかった場合は、最終試験に係る報告を要しない。

- 2 提出する書類は、以下の各号のとおりとする。

- (1) 審査報告書
- (2) 審査委員会の論文審査要旨
- (3) 各審査委員の論文審査要旨

- 3 本条第2項第1号の審査報告書は、以下の各号について報告するものとする。

- (1) 論文審査の判定
- (2) 最終試験の結果確認された専攻学術の判定
- (3) 学位授与の可否

- 4 本条第3項第1号の論文審査の判定は、可または否のいずれかとする。

- 5 本条第3項第2号の最終試験の結果確認された専攻学術は、可または否のいずれかとする。

- 6 本条第3項第3号の学位授与の可否は、可または否のいずれかとする。

- 7 主査および副査は、以下の各号の内容または意見を中心とした審査の要旨を文書にまと

め、本条第2項第3号の報告書に記載する。

- (1) 学位論文の大意
- (2) 学位論文の公衆衛生学上の成果
- (3) 前号の成果を達成するための能力（コンピテンシー）
- (4) 公衆衛生課題に対する問題解決能力
- (5) 最終試験の結果

8 主査は、審査委員会全体の審査の要旨を文書にまとめ、本条第2項第2号の報告書に記載する。中心となる報告事項は前項の各号に準ずる。

9 審査委員会は、論文審査および最終試験の成績により学位授与の可否について最終意見を述べる。

#### （研究科委員会の審議）

第20条 本研究科委員会は、提出された審査委員会からの審査報告書、審査要旨および審査委員会主査の説明に基づいて、審査結果を審議する。ただし、公務または出張もしくは病気などのやむを得ない理由により主査が説明できない場合には、副査が代行するものとする。

2 本研究科委員会は、前項の審議に基づき学位授与の可否を議決するものとする。

3 学位授与の可否の議決は、本研究科委員会委員全員の2分の1以上が出席し、出席者の3分の2以上の賛成により決定する。ただし、公務または出張、休職中などのやむを得ない理由のため出席することができない委員は委員の数に算入しない。

4 本研究科科長は、本条第2項の議決の結果を、文書で学長に報告しなくてはならない。

#### （学位の授与）

第21条 学長は、本研究科委員会の審議に基づいて、学位を申請した者に審査の合否を決定し、合格者には学位を授与する。

2 不合格者には、その旨を通知する。

#### （学位論文の公表）

第22条 本学が博士の学位を授与したときは、本学学位規程第17条に則りその学位論文をインターネットにより公表する。

#### （学位の名称の使用）

第23条 博士（公衆衛生学）の学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、帝京大学博士（公衆衛生学）とする。

#### （学位授与の取り消し）

第24条 博士（公衆衛生学）の学位を授与された者が、その名誉を汚す行為をしたとき、または不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は本研究科委員会の議を経て博士（公衆衛生学）の学位の授与を取り消し、学位記を返還させ、かつ、その旨



を公表する。

- 2 本研究科委員会において前項の議決を行うには、委員会構成員の3分の2以上の出席を必要とし、かつ出席委員の4分の3以上の賛成がなければならない。

(学位記の再交付)

第25条 学位記の再交付は原則として行わない。ただしやむを得ない事由があり、かつ、再交付することが可能な場合に限り交付することがある。

- 2 学位記の再交付を受けようとするときは、その事由を記載した申請書に再交付手数料を添えて、学長に願い出なければならない。
- 3 学位記再交付手数料は、別に定める。

(文部科学大臣への報告ならびに登録)

第26条 本学において博士(公衆衛生学)の学位を授与したとき、学長は、学位簿に登録し、学位を授与した日から3ヵ月以内にその旨を文部科学大臣に報告する。

(学位記)

第27条 学位記の様式は別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成26年4月1日より施行する。

**帝京大学大学院医学研究科、薬学研究科、医療技術学研究科、公衆衛生学研究科  
博士論文公表に関する施行細則**

(目的)

第1条 この規程は、帝京大学（以下「本学」という）大学院医学研究科、薬学研究科、医療技術学研究科、公衆衛生学研究科（以下「研究科」という）において、本学学位規程（以下「学位規程」という）に基づき学位論文の公表について必要な事項を定める。

(公表の方法)

第2条 学位規程第16条ならびに第17条に定めるインターネットの利用による公表は本学学術機関リポジトリ（以下「機関リポジトリ」という）により公表することをいう。

(論文要旨等の公表)

第3条 本学において博士の学位を申請する者は、学位論文要旨を電子ファイルにより板橋キャンパス事務部に提出しなければならない。

2 学長は、前項の規定により提出された書類を受理し、機関リポジトリにおいて当該博士の学位を授与した日から3ヶ月以内に学位論文要旨および審査の結果の要旨を公表する。

(論文全文の公表)

第4条 本学において博士の学位を申請する者は、学位論文全文の電子ファイルおよび博士論文全文のインターネット公表確認書（所定の用紙）を板橋キャンパス事務部に提出しなければならない。

2 学長は、前項の規定により提出された書類を受理し、機関リポジトリにおいて当該博士の学位を授与した日から1年以内に博士論文全文を公表する。

3 学位論文を機関リポジトリにより公表できないやむを得ない事由がある者は、当該研究科の承認を得て、当該博士論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。

4 研究科は前項により、学位論文の要約が提出された場合は、当該博士論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

5 第3項に定めるやむを得ない事由とは以下のものをいう。

(1) 博士論文が、立体形状による表現を含む等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内容を含む場合。

(2) 博士論文が、著作権保護、個人情報保護等の理由により、博士の学位を授与された日から1年を超えてインターネットの利用により公表することができない内容を含む場合。

(3) 出版刊行、多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載、特許の申請等との関係で、インターネットの利用による博士論文の全文の公表により博士の学位を授与された者にとって明らかな不利益が、博士の学位を授与された日から1年を超えて生じる場合。

(4) その他相当の事由がある場合。

6 第3項に該当する場合において、やむを得ない事由がなくなったときは、すみやかに学位論文全文の電子ファイルおよび博士論文全文のインターネット公表確認書（所定の用紙）を板橋キャン

ンパス事務部に提出しなければならない。

附則

- 1 この細則は、平成25年4月1日から施行する。

**帝京大学 産業保健高度専門職養成の大学院プログラム  
ティーチングアシスタント・リサーチアシスタント規程**

(目 的)

第1条 この規程は、「帝京大学産業保健高度専門職養成の大学院プログラム（以下「プログラム」という）」事業において帝京大学板橋キャンパスに在学する大学院生に対し、プログラムの教育補助業務をさせ、きめ細かい教育の充実・指導及び教育資質の向上をはかること、また研究活動に参加させ、研究資質の向上をはかることを目的とする。

(ティーチングアシスタント)

第2条 プログラム履修生に対する講義、実習、演習等の教育補助業務および学生指導を行う板橋キャンパスの大学院生をティーチングアシスタントとして採用する。

(リサーチアシスタント)

第3条 プログラムの研究活動を補助する板橋キャンパスの大学院生をリサーチアシスタントとして採用する。

(対 象)

第4条 板橋キャンパスの大学院生を対象とする。

- 2 ティーチングアシスタントとリサーチアシスタントの併用は認めない。

(期 間)

第5条 大学院公衆衛生学研究科（以下、「研究科」という）研究科長の承認により最長2年までとする。

(採用手続)

第6条 研究科長は採用願書と実施計画書を作成し、研究科委員会の議を経て学長に申請する。

(勤務時間)

第7条 当該大学院生の授業等に支障が生じないよう配慮し、常勤職員の1週間当たりの勤務時間の4分の3を超えない範囲内で勤務する。

(支給金額)

第8条 支給金額は下記の通りとし、上限を200,000円／年程度とする。

- (1) 博士課程、博士後期課程 時給 1,600円
- (2) 博士前期課程、専門職学位課程 時給 1,400円

(支給方法)

第9条 指導教員が業務報告書を確認し、翌月の10日迄に板橋キャンパス事務部に提出する。

- 2 提出された実施報告書を基に月毎に計算後、翌々月までに本人の口座に振り込むものとする。

(取 消)

第10条 研究科長は受給者が次の各号のいずれかに該当するときは、支給を取消すことができる。

- (1) 学籍を失ったとき
- (2) 大学院学則にもとづく処分を受けたとき
- (3) 休学したとき
- (4) 授業料を期日までに納めていないとき
- (5) その他支給が不相当と認める事由が生じたとき

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成26年10月1日から施行する。

